第十一條　軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　陸軍建制及平時戰時ノ編制ニ關スル事項
二　戒嚴ニ關スル事項
三　演習及檢閲ニ關スル事項
四　團隊配置ニ關スル事項
五　戰時ノ諸規則ニ關スル事項
六　儀式、禮式、服制及徽章ニ關スル事項
七　外國駐在員、留學將校、同相當官及部隊附外國武官ニ關スル事項
八　國際的規約ニ關スル事項
九　參謀本部、教育總監部及陸軍大學校ニ關スル事項

第十二條　兵務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　各兵ノ本務ニ關スル事項
二　軍樂部ノ勤務及教育ニ關スル事項
三　軍紀、風紀ニ關スル事項
四　軍隊ノ內務、衞戍勤務及軍事警察ニ關スル事項
五　練兵場、小銃射擊場、演習場及飛行場ニ關スル事項（築設及管理ヲ除ク）
六　東京警備司令部、陸軍航空本部、陸軍諸學校（陸軍大學校、陸軍經理學校、陸軍軍醫學校及陸軍獸醫學校ヲ除ク）及陸軍教化隊ニ關スル事項

第十三條　徵募課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　兵役ニ關スル事項
二　將役、同相當官以下補充ノ規定ニ關スル事項
三　各兵科及軍樂部將校以下ノ補充ニ關スル事項
四　學校教練及青年訓練ニ關スル事項
五　在鄉軍人會ニ關スル事項
六　聯隊區司令部ニ關スル事項

第十四條　防備課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　要塞ノ築造、兵備及用地竝ニ要塞地帶ニ關スル事項
二　防空ニ關スル事項
三　運輸、通信、電氣、電燈及軍用鳩ニ關スル事項
四　水陸交通路及航空路ニ關スル事項
五　要塞司令部、築城部、陸軍運輸部及陸地測量部ニ關スル事項

第十五條　馬政課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　獸醫部ノ勤務及教育ニ關スル事項
二　獸醫部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項
三　軍馬ノ供給、飼養、管理、檢査及衞生ニ關スル事項
四　蹄鐵術ノ教育及蹄鐵ニ關スル事項
五　獸醫材料ニ關スル事項
六　地方馬ノ調査、檢査及徵發ニ關スル事項
七　軍馬補充部及陸軍獸醫學校ニ關スル事項

第十六條　整備局ニ動員課及統制課ヲ置ク

第十七條　動員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　動員ニ關スル事項
二　召集及人員ノ徵用ニ關スル事項
三　徵發ニ關スル事項
四　軍需工業ノ指導及補助ニ關スル事項

第十八條　統制課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　軍需品ノ調査研究及調達ノ統制ニ關スル事項
二　軍需品ノ整備及戰時補給ノ統制ニ關スル事項
三　戰時軍事交通ノ統制ニ關スル事項
四　製造、補給及貯藏ノ設備ノ基本ニ關スル事項

第十九條　兵器局ニ銃砲課及器材課ヲ置ク

第二十條　銃砲課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　兵器（器材課所掌ノモノヲ除ク）ノ制式、支給、交換、整備、檢査及之ニ關スル一切ノ經理事項
二　要塞備砲工事ニ關スル事項
三　陸軍技術本部、陸軍兵器廠、陸軍造兵廠及陸軍科學研究所ニ關スル事項
四　兵器（器材課所掌ノモノヲ除ク）ノ拂下ニ關スル事項

第二十一條　器材課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　步兵工兵器具材料ノ制式、支給、交換及整備ニ關スル事項
二　通信用、鐵道用及航空用ノ器具材料ノ制式、支給、交換及整備ニ關スル事項
三　攻守城用工兵器具材料ノ整備ニ關スル事項
四　前各號ノ經理及檢査ニ關スル事項
五　器材課所掌ノ兵器ノ拂下ニ關スル事項

第二十二條　經理局ニ主計課、監査課、衣糧課及建築課ヲ置ク

第二十三條　主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　軍資運用ノ研究審議ニ關スル事項
二　經理部ノ勤務及教育ニ關スル事項
三　經理部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項
四　歲入歲出及特別會計豫算竝決算ニ關スル事項
五　支拂豫算ニ關スル事項
六　豫備金支出、定額繰越、過年度支出、定額戻入及年度開始前支出ニ關スル事項
七　動員豫算ニ關スル事項
八　經理部ノ戰時諸規則ニ關スル事項
九　俸給、雇員給、傭人料、諸手當及旅費ノ規定ニ關スル事項
十　金錢ニ係ル經理及出納官吏ニ關スル事項
十一　本省ノ諸給與及用度ニ關スル事項
十二　陸軍經理學校ニ關スル事項

第二十四條　監査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　會計ノ監査ニ關スル事項
二　陸軍經理部管轄外陸軍部隊ノ會計事務ノ監督ニ關スル事項
三　歳入徴收報告及支出報告ニ關スル事項
四　諸給與及經理規定ノ審査ニ關スル事項

第二十五條　衣糧課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　被服及糧秣ノ經理、檢査、試驗及調査ニ關スル事項
二　被服、糧秣及馬匹ニ係ル給與ノ規定ニ關スル事項
三　平時戰時ノ被服、糧秣、炊具及馬匹手入具ノ支給及整備ニ關スル事項
四　陸軍被服廠、陸軍糧秣廠、陸軍倉庫及千住製絨所ニ關スル事項

第二十六條　建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　陸軍用地及諸建築（軍務局及兵器局所掌ニ屬スルモノヲ除ク）ニ關スル事項
二　陣營具及消耗品ノ經理竝諸調度ノ規定ニ關スル事項
三　物品會計及物品會計官吏ニ關スル事項
四　國有財産ニ關スル事項
五　戰用金櫃、公用行李、天幕及雨覆ニ關スル事項

第二十七條　醫務局ニ衛生課及醫事課ヲ置ク

第二十八條　衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　衛生部ノ勤務及教育ニ關スル事項
二　衛生部ノ人事及其ノ人員補充ニ關スル事項
三　衛生部ノ戰時諸規則ニ關スル事項
四　衣食住、給水、排水等ノ衛生ニ關スル事項
五　防疫及治病上ノ審案ニ關スル事項
六　衛生報告、統計及衛生部員學術上ノ業績ニ關スル事項
七　陸軍軍醫學校ニ關スル事項

第二十九條　醫事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　病院及醫務室ニ關スル事項
二　衛生材料ニ關スル事項
三　身體檢査ニ關スル事項
四　恩給診斷及傷病ニ依ル除役ニ關スル事項
五　陸軍衛生材料廠及傷病者救恤團體ニ關スル事項
六　轉地療養ニ關スル事項

第三十條　法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　軍事司法ニ關スル事項
二　監獄ニ關スル事項
三　恩赦、假出獄及刑ノ執行ニ關スル事項
四　陸軍司法事務官、陸軍法務官、陸軍錄事及監獄職員ノ人事及補充ニ關スル事項

第三十一條　陸軍省職員ハ附表ノ如シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附表）

陸軍省職員表

政務次官						一
參與官						一
書記官	專任					一
事務官	專任					五
大臣官房	大臣	秘書官	中少佐	大尉		二
		副官	大中少佐	大尉		一
						四
人事局	次官	長	中少佐	大尉	課員	二
		中少將 一	補任課	長 大中佐 一	課員 中少佐 二	
			恩賞課	長 大中佐 一		
軍務局	軍務局	長	中少佐	大尉	課員	五
		中少將 一	軍事課	長 大中佐 一	中少佐 二	
			兵務課	長 大中佐 一	二三等獸醫正	
			徵募課	長 大中佐 一	少佐 大尉	一
			防備課	長 大中佐 一		四
			馬政課	長 大中佐 一		一
整備局	中）大臣官次官	長	中少佐	大尉	課員	二
		中少將 一	動員課	長 大中佐 一	中少佐 三	
			統制課	長 大中佐 一	少佐 大尉	二
兵器局	少	長	中少佐	大尉	課員	三
		中少將 一	銃砲課	長 大中佐 一	中少佐 三	
			器材課	長 大中佐 一	少佐 大尉	二

屬技手　九七　一〇

中將										
將										
經理局	長 主計總監 一									
	主計課	監査課	衣糧課	建築課	衛生課	醫事課	法務局	醫務局	備考	
	長 一二等主計正 一	長 一二等主計正 一	長 一二等主計正 一	長 一二等主計正 一	長 一二等軍醫正 一	長 一二等軍醫正 一	長	長 軍醫總監 一	一 祕書官ノ内一ハ副官ノ兼勤、副官ノ内一ハ祕書官ノ兼勤トス 二 法務局長ハ勅任ノ陸軍高等軍法會議法務官ノ兼任トス 三 佐尉官ハ佐尉官相當官ヲ以テ、佐尉官相當官ハ佐尉官ヲ以テ充ツルコトヲ得 四 各局課員ハ必要ニ應シ彼是兼勤セシムルコトヲ得 五 屬定員内ニ於テ必要ニ應シ准士官及技手ヲ用フルコトヲ得	
	課員 二三等主計正 六 一等主計師 一六				課員 二三等軍醫正 二 一三等軍醫正 二 一等軍醫		局員			
							司法事務官 三			

●海軍省官制

（大正五年三月三十一日勅令第三十七號）

總、海、大臣署副

沿革　大正七年六月勅令第一九七號、八年四月第四九號、九年八月第二八八號、一〇月第四四〇號、一〇年六月第二四〇號、一一年三月第八二號、一二年三月第一二六號、一三年八月第一八一號、一二月第三四六號、一四年一一月第三二〇號、昭和二年四月第六〇號改正

朕海軍省官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍省官制

第一條　海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條　政務次官又ハ參與官ノ職務ハ軍機軍令ニ關スル事項ニ及ハサルモノトス

第三條　海軍省ニ副官ヲ置ク海軍大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌ル

第四條　海軍省ニ海軍文庫主管ヲ置ク上官ノ命ヲ承ケ圖書保管ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　海軍省ニ事務官ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條　海軍省ニ左ノ八局ヲ置ク

軍務局
人事局
教育局
軍需局
醫務局
經理局
建築局
法務局

第七條　軍務局ニ第一課及第二課ヲ置ク

第八條　軍務局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　艦船、部隊、官衙及學校ノ建制及勤務ニ關スル事項
二　艦船及部隊ノ編制及役務ニ關スル事項
三　軍紀風紀ニ關スル事項
四　演習ニ關スル事項
五　檢閲ニ關スル事項
六　儀式、禮式、服制及旗章ニ關スル事項
七　艦船兵器、兵器ノ準備、保管及供給ニ關スル事項ヲ除ク ニ關スル事項
八　機關ノ使用ニ關スル事項
九　國際的規約及遣外員ニ關スル事項
十　海軍軍備其ノ他一般海軍軍政ニ關スル事項

第九條　軍務局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　出師準備ニ關スル事項
二　軍需工業動員法ニ關スル事項
三　戒嚴及徴發ニ關スル事項
四　港務ニ關スル事項
五　運輸通信關ニスル事項
六　水路及海上保安ニ關スル事項
七　水陸諸設備ニ關スル事項
八　軍港、要港、要塞地帶及沿岸ノ取締ニ關スル事項

第十條　人事局ニ第一課及第二課ヲ置ク

第十一條　人事局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　士官、特務士官、候補生、准士官及文官ノ補充、服役、進退、任免、補職及增俸ニ關スル事項
二　下士官兵ノ補充、服役、任用、徴募及進級ニ關スル事項

第十二條　人事局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　敍任、敍勳、記章、褒章、賞與其ノ他身上ニ關スル事項
二　恩給ニ關スル事項

三　戰時充員ニ關スル事項
四　召集及簡閲點呼ニ關スル事項
五　軍需工業動員法ニ依ル召集及徵用ニ關スル事項

第十二條ノ二　教育局ニ第一課、第二課及第三課ヲ置ク

第十二條ノ三　教育局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　教育ノ統一及一般教育ニ關スル事項
二　兵學、航海術及運用術ノ教育ニ關スル事項
三　教育圖書ニ關スル事項

第十二條ノ四　教育局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　砲術、水雷術、潛航術及通信術ノ教育ニ關スル事項

第十二條ノ五　教育局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　機關術ノ教育ニ關スル事項

第十三條　軍需局ニ第一課、第二課及第三課ヲ置ク

第十四條　軍需局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　艦營需品行動消耗ヲ除クニ關スル事項
二　港用品ニ關スル事項
三　兵器ノ準備、保管及供給ニ關スル事項

第十五條　軍需局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　燃料及行動消耗品ニ關スル事項
二　炭山及油田ニ關スル事項

第十六條　軍需局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　被服及糧食ニ關スル事項

第十七條　（削除）

第十八條　（削除）

第十九條　（削除）

第二十條　醫務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　醫務、衛生、恩給診斷及軍人體格ニ關スル事項
二　治療品ニ關スル事項
三　軍醫科及藥劑科士官以下ノ本務ニ關スル事項
四　醫務衛生ノ教育ニ關スル事項

第二十一條　經理局ニ第一課、第二課及第三課ヲ置ク

第二十二條　經理局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　豫算及決算ニ關スル事項
二　主計科士官以下ノ本務ニ關スル事項
三　會計經理ノ教育ニ關スル事項

第二十三條　經理局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　給與、物品經理及契約ノ規定ニ關スル事項
二　會計ノ監査ニ關スル事項
三　國有財産ニ關スル事項

第二十四條　經理局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　出納及用度ニ關スル事項
二　鑑船、兵器、艦營需品、港用品、燃料、被服、糧食其ノ他ノ物ノ製造、購買、賣却、貸付、借入及運送ノ契約竝建築工事ノ契約ニ關スル事項

第二十四條ノ二　建築局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　建築及土木工事ノ計畫、審査及實施ニ關スル事項
二　建築及土木ニ從事スル技師以下ノ本務ニ關スル事項

第二十五條　法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　軍事司法、懲罰及監獄ニ關スル事項
二　恩赦、假出獄及刑ノ執行ニ關スル事項
三　司法事務官、法務官、錄事及監獄官以下ノ本務ニ關スル事項

第二十六條　各局ニ局長、課長及局員ヲ置ク但シ醫務局、建築局及法務局ニハ課長ヲ置カス

第二十七條　局長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理ス

第二十八條　課長及局員ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第二十九條　海軍省ニ技師ヲ置ク上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第三十條　（削除）

第三十一條　海軍省ニ技手ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事セシム

第三十二條　（削除）

第三十三條　海軍省ノ定員ハ別表ニ依ル

附　則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十二年勅令第百二十六號）

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍教育本部條例及海軍建築本部令ハ之ヲ廢止ス

（別表）

海軍省定員表

政務次官										一
參與官										一
書記官	專任									一
事務官	專任									三
大臣	祕書官	中少佐（兼務）								一
副官	大少佐（中少佐）									二
文庫主管										一
大次	軍務局	長	中少將	一	第一課	長	大中佐	一	局員	中少佐
					第二課	長	大中佐	一	機關中少佐	二
									（內兼務一）	九

臣	大（大中將）
官	中少將

局	長	課	課長	局員
人事局	長　中少將　一	第一課	長　大中佐　一	中少佐　五
		第二課	長　大中佐　一	機關中少佐　一
				軍醫中少佐（兼務）　一
				主計中少佐（兼務）　一
教育局	長　中少將　一	第一課	長　大中佐　一	中少佐（内兼務一）　七
		第二課	長　大中佐　一	機關中少佐　二
		第三課	長　機關大中佐　一	軍醫中少佐（兼務）　一
				主計中少佐（兼務）　一
軍需局	長　中少將、主計中少將　一	第一課	長　大中佐　一	中少佐（内兼務三）　五
		第二課	長　機關大中佐　一	機關中少佐　二
		第三課	長　主計大中佐　一	主計中少佐　二
醫務局	長　軍醫中少將　一			局員　軍醫大中佐　一
				軍醫中少佐　二
				藥劑科佐官　一
經理局	長　主計中少將　一	第一課	長　主計大中佐　一	主計中少佐（内兼務一）　六
		第二課	長　主計大中佐　一	
		第三課	長　主計大中佐　一	
建築局	長　技師（勅任）　一			局員　主計中少佐　一
				技師（奏任）　三
法務局	長　一			局員　司法事務官　專任　一

屬	六七
技手	六
合計	百六十二人　内兼務十三人

備考

一　本表定員ノ外臨時必要ニ應シ兼務者ヲ置キ又ハ出仕トシテ士官五人以内ヲ置クコトヲ得

二　人事局定員中軍醫中少佐又ハ主計中少佐ハ必要ニ應シ各軍醫大佐又ハ主計大佐ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

三　軍需局ノ局員ハ其ノ定員ヲ超過セサル限リ各科士官ヲ彼是増減スルコトヲ得

四　法務局長ハ勅任ノ海軍高等軍法會議法務官ノ兼任、祕書官ハ副官ノ兼務、文庫主管ハ教育局局員ノ兼務、軍務局局員中ノ兼務局員ハ海軍航空本部部員ノ兼務、教育局局員中ノ兼務局員ハ醫務局局員及經理局局員並ニ海軍航空本部部員ノ兼務、軍需局局員中ノ兼務局員ハ海軍艦政本部部員及海軍航空本部部員ノ兼務トス

五　課長缺員中ハ當該局ニ局員一人ヲ増加スルコトヲ得

●司法省官制

（明治二十六年十月三十一日勅令第百四十三號）總、司、大臣副署

沿革　明治三〇年四月勅令第七四號、三一年七月第一四七號、一〇月第二八七號、三三年四月第一六七號、五月第二〇七號、三四年六月第一二九號、三五年三月第九二號、三六年一二月第二二四號、四二年五月第一五六號、四三年三月第五七號、四四年四月第一〇五號、大正二年六月第一六九號、三年六月第一〇九號、一〇月第二一三號、一一月第二四一號、八年四月第一二二號、九年八月第二八九號、一〇年六月第二五五號、一一月第四四五號、一一年三月第六七號、五月第二七七號、一二年五月第一九九號、一三年八月第一八二號、一〇月第二三六號、一二月第三五一號、昭和二年六月第一九六號改正

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法省官制

第一條　司法大臣ハ裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ民事、刑事、非訟事件、戸籍、供託、監獄、少年ノ審判矯正及釋放者ノ保護ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政ノ事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外司法ニ關スル資料ノ調査事務、少年ノ審判矯正及釋放者ノ保護ニ關スル事務竝裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　司法省專任書記官ハ十二人ヲ以テ定員トス

第四條　司法省ニ左ノ三局ヲ置ク

民事局

刑事局

行刑局

第五條　民事局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　裁判所ノ設立、廢止及管轄區域ニ關スル事項

二　民事及非訟事件ニ關スル事項

三　民事及非訟事件ノ裁判事務ニ關スル事項

四　調停ニ關スル事項

五　登記ニ關スル事項

六　戸籍ニ關スル事項
七　公證ニ關スル事項
八　供託ニ關スル事項

第五條ノ二　刑事局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　刑事ニ關スル事項
二　刑事ノ裁判事務及檢察事務ニ關スル事項
三　恩赦ニ關スル事項
四　犯罪人ノ引渡ニ關スル事項
五　辯護士會ニ關スル事項

第六條　行刑局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　刑ノ執行ニ關スル事項
二　監獄ニ關スル事項
三　假出獄ニ關スル事項
四　犯罪人異同識別ニ關スル事項

第七條　司法省ニ專任司法省事務官一人專任司法省衞生官一人ヲ置ク
司法省事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ受ケ供託ニ關スル事務ヲ掌ル
司法省衞生官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ衞生ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　司法省屬ハ專任五十九人ヲ以テ定員トス

第九條　司法省ニ專任技師一人專任技手一人ヲ置ク

附　則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年勅令第六十七號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ監獄事務官ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令書ヲ用ヰス同官等俸給ヲ以テ司法省事務官ニ任セラレタルモノトス

附　則（大正十一年勅令第二百七十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治二十九年勅令第四百號ハ之ヲ廢止ス
司法部內臨時職員設置制中第二條ヲ削リ同令第三條ヲ第二條トス
本令施行ノ際現ニ監獄衞生官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ同官等俸給ヲ以テ司法省衞生官ニ任セラレタルモノトス

●文部省官制

（明治三十一年十月二十二日勅令第二百七十九號）（總、文、大臣署副）

沿革　明治三二年四月勅令第一四一號、三三年三月第一〇六號、五月第二〇八號、三五年三月第九五號、三六年三月第五九號、一二月第二二七號、三七年五月第一四九號、三八年三月第九二號、四一年三月第六七號、四三年三月第六〇號、四四年五月第一四四號、大正二年六月第一七三號、三年六月第一二二號、一〇月第二一四號、第二二二號、五年六月第一六七號、九月第二一四號、七年五月第一一九號、八年四月第一四六號、九年四月第一二一號、八月第二九〇號、一〇年六月第二七三號、一一年四月第二〇三號、一二年五月第二二〇號、一三年八月第一八三號、一〇月第二三〇號、一二月第三五六號、一四年一一月第三一〇號、一五年三月第一九號、四月第八二號、昭和二年九月第二八二號、三年一〇月第二四八號改正

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條　文部大臣ハ教育、學藝及宗教ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル
一　公立學校職員ニ關スル事項
二　建築營繕ニ關スル事項
三　博覽會ニ關スル事項
四　褒章ニ關スル事項
五　學校衞生ニ關スル事項

第三條　文部省專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第四條　文部省ニ左ノ五局ヲ置ク
專門學務局
普通學務局
實業學務局
圖書局
宗教局

第五條　專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　大學及高等學校ニ關スル事項
二　專門學校ニ關スル事項
三　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
四　在外研究員ノ海外派遣ニ關スル事項
五　傳染病研究所、航空研究所、金屬材料研究所、地震研究所及化學研究所ニ關スル事項
六　天文臺氣象臺、測候所及緯度觀測所ニ關スル事項
七　學術技藝ノ奬勵及調査ニ關スル事項
八　測地學委員會、理學文書目錄委員會、航空評議會及震災豫防評議會ニ關スル事項
九　帝國學士院及帝國美術院ニ關スル事項
十　學術研究會議其ノ他ノ學術會ニ關スル事項
十一　學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
十二　醫師試驗、齒科醫師試驗及藥劑師試驗ニ關スル事項

第六條　普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　師範教育ニ關スル事項
二　中學校ニ關スル事項
三　小學校及幼稚園ニ關スル事項

四　高等女學校ニ關スル事項
五　盲唖學校ニ關スル事項
六　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
七　青年訓練所ニ關スル事項
八　社會教育ニ關スル事項
九　教育會ニ關スル事項
十　學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
十一　圖書館及博物館ニ關スル事項

第六條ノ二　實業學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　工業學校ニ關スル事項
二　農業學校ニ關スル事項
三　商業學校ニ關スル事項
四　商船學校ニ關スル事項
四ノ二　水産學校及前各號以外ノ實業教育ヲ爲ス學校ニ關スル事項
五　實業補習學校ニ關スル事項
六　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
七　實業教育費國庫補助ニ關スル事項
八　實業學校教員ノ養成ニ關スル事項

第六條ノ三　圖書局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　教科用圖書ノ編輯及發行ニ關スル事項
二　教科用圖書ノ調査、檢定及認可ニ關スル事項
三　國語ノ調査ニ關スル事項

第六條ノ四　宗教局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ供スル堂宇其ノ他宗教ニ關スル事項
二　古社寺保存ニ關スル事項
三　僧侶及教師ニ關スル事項

第六條ノ五　文部省ニ專任文部事務官三人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第七條　文部省ニ專任督學官十五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察監督ヲ掌ル

第八條　文部省ニ圖書事務官專任一人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ圖書ノ編輯及發行ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條ノ二　文部省ニ圖書監修官專任十四人ヲ置ク奏任トス教科用圖書ノ編修及審査ヲ掌ル

第八條ノ三　文部省ニ圖書監修官補專任七人ヲ置ク判任トス圖書監修官ノ事務ヲ助ク

第九條　文部省ニ專任技師一人ヲ置ク建築又ハ古社寺保存ニ關スル事務ヲ掌ル
文部省ニ技手ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク

第十條　文部省ニ學校衛生官專任三人ヲ置ク奏任トス學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條ノ二　文部省ニ學校衛生官補專任二人ヲ置ク判任トス

學校衛生官ノ事務ヲ助ク

第十一條　屬及技手ハ通シテ專任百人ヲ以テ定員トス

附　則

第十二條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●農林省官制

（大正十四年三月三十一日勅令第三十六號）（總、農、大臣署副）

沿革　大正一四年一二月勅令第三三〇號、一五年四月第七九號、一一月第三四六號、昭和二年五月第一二三號、三年二月第一四號、七月第一四〇號、第一五二號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ農林省官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

農林省官制

第一條　農林大臣ハ農、林、水産、畜産及米穀法施行ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　農林省ニ左ノ五局ヲ置ク
農務局
山林局
水産局
畜産局
蠶絲局

第三條　農務局ニ於テハ農事、茶、副業、産業組合、産業組合中央金庫及米穀法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　水産局ニ於テハ水産ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　畜産局ニ於テハ家畜ノ改良增殖、家畜衛生其ノ他畜産ニ關スル事務及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條ノ二　蠶絲局ニ於テハ蠶絲ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ米穀事務所ヲ設ケ米穀法施行ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
米穀事務所長ハ農林技師ヲ以テ之ニ充ツ

第七條ノ二　農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ國營獵區事務所ヲ設ケ國營獵區ノ管理ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトヲ得
國營獵區事務所長ハ農林技手ヲ以テ之ニ充ツ但シ農林大臣必要ト認ムルトキハ營林署長タル官吏ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第八條　農林書記官ハ專任十人ヲ以テ定員トス

第九條　農林省ニ農林事務官專任八人ヲ置ク
農林事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ農林省ノ事務ヲ掌ル

第十條　農林省ニ統計官專任二人ヲ置ク
統計官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ農林統計ヲ掌ル

第十一條　農林省ニ小作官專任三人ヲ置ク小作官ハ奏任トス
上官ノ命ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條　農林省ニ山林事務官專任一人ヲ置ク

山林事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　農林省ニ農林技師專任四十三人ヲ置ク
農林技師ハ奏任トス但シ內三人以內ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第十四條　農林技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
農林屬ハ專任九十四人ヲ以テ定員トス

第十五條　農林省ニ統計官補專任三人ヲ置ク
統計官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ農林統計ニ從事ス

第十六條　農林省ニ小作官補專任四人ヲ置ク
小作官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第十七條　農林省ニ農林技手專任六十人ヲ置ク
農林技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●商工省官制

（大正十四年三月三十一日總、農、大臣署副／勅令第三十七號）

沿革　大正一五年四月勅令第四四號、第八三號、昭和二年五月第一四〇號、三年六月第一〇四號、七月第一五〇號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ商工省官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　商工大臣ハ商、工、鑛山及地質竝ニ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　商工省ニ左ノ三局ヲ置ク
商務局
工務局
鑛山局

第三條　商務局ニ於テハ商事ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　工務局ニ於テハ工業竝ニ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　鑛山局ニ於テハ鑛山及地質ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條ノ二　商工省ニ保險部ヲ置キ保險ニ關スル事務ヲ掌ラシム
保險部長ハ保險事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　商工省ニ中央度量衡檢定所ヲ置キ度量衡器及計量器ノ檢定、比較檢査及試驗其ノ他度量衡及計算ニ關スル事務ヲ掌ラシム
商工大臣ハ必要ト認ムル地ニ中央度量衡檢定所ノ支所ヲ設ケ中央度量衡檢定所ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
中央度量衡檢定所長ハ商工技師、支所長ハ商工技師又ハ商工技手ヲ以テ之ニ充ツ
商工大臣ハ必要ト認ムル地ニ中央度量衡檢定所ノ出張所又ハ中央度量衡檢定所支所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

第七條　商工省ニ地質調査所ヲ置キ地質調査ニ關スル事項ヲ掌ラシム
地質調査所長ハ商工技師ヲ以テ之ニ充ツ

第八條　商工書記官ハ專任十一人ヲ以テ定員トス

第九條　商工省ニ商工事務官專任十五人ヲ置ク
商工事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ商工省ノ事務ヲ掌ル

第十條　商工省ニ統計官專任一人ヲ置ク
統計官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ商工統計ヲ掌ル

第十一條　商工省ニ保險事務官專任六人ヲ置ク
保險事務官ハ奏任トス但シ內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得保險事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ保險ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條　商工省ニ度量衡事務官專任一人ヲ置ク
度量衡事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　商工省ニ商工技師專任五十二人ヲ置ク
商工技師ハ奏任トス但シ內三人以內ヲ勅任ト爲スコトヲ得
商工技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十四條　商工屬ハ專任八十九人ヲ以テ定員トス

第十五條　商工省ニ統計官補專任二人ヲ置ク
統計官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ商工統計ニ從事ス

第十六條　商工省ニ保險事務官補專任十人ヲ置ク
保險事務官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ保險ニ關スル事務ニ從事ス

第十七條　商工省ニ商工技手專任百三十九人ヲ置ク
商工技手ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十八條　商工省ニ取引所監督官及取引所監督官補ヲ置ク
取引所監督官ハ商工書記官、商工事務官又ハ商工技師ヲ以テ、取引所監督官補ハ商工屬又ハ商工技手ヲ以テ之ニ充ツ
取引所監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ取引所法施行ニ關スル事務ヲ掌ル
取引所監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ取引所法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第十九條　商工省ニ鑛務監督官及鑛務監督官補ヲ置ク
鑛務監督官ハ商工書記官、商工事務官又ハ商工技師ヲ以テ、鑛務監督官補ハ商工屬又ハ商工技手ヲ以テ之ニ充ツ
鑛務監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ鑛業警察ニ關スル事務ヲ掌ル
鑛務監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑛業警察ニ關スル事務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●遞信省官制

（明治三十一年十月二十二日總、遞、大臣署副／勅令第二百九十五號）

沿革　明治三三年五月勅令第一七七號、三四年五月第一〇〇號、三五年三月第一一四號、三六年一二月第二四六號、三八年三月第一〇一號、三九年四月第七五號、四〇年五月第二〇〇號、四一年四月第八二號、一〇月第二六五號、一二月第二九八號、四二年六月第一七六號、七月第一九四號、四三年三月第八八號、大正二年六月第二〇七號、三年一〇月第二一六號、一一月第二四三號、五年三月第二七號、七月第一七七號、六年九月第一五五號、七年六月第二一〇號、八年五月第一九六號、九年八月第二九二號、一〇月第四五三號、一〇年七月第三四二號、一二月第四七九號、一一年七月第三四五號、一二年三月第一二一號、七月第三四六號、一三年八月第一八五號、一一月第二六七號、一四年五月第一八三號、一五年六月第一八六號、昭和二年八月第二四八號、三年八月第二〇一號改正

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省官制

第一條　遞信大臣ハ郵便、小包郵便、電信電話及航路標識ヲ管理シ發電水力及航空ニ關スル事務ヲ掌リ電氣、造船、水陸運輸ニ關スル事業及航路、船舶、海員ヲ監督ス

遞信大臣ハ日本無線電信株式會社ニ關スル事項ヲ管理ス

第一條ノ二　大臣官房ニ於テハ通則ニ定ムルモノノ外從事員ノ養成保健及遞信博物館ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　遞信省專任書記官ハ十八人ヲ以テ定員トス

第三條　遞信省ニ左ノ局ヲ設ク

郵務局
電務局
工務局
電氣局
管船局
航空局
經理局

第四條　郵務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　郵便及小包郵便ニ關スル事項
二　陸運事業ノ監督ニ關スル事項

第四條ノ二　電務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電信ニ關スル事項
二　電話ニ關スル事項
三　日本無線電信株式會社ニ關スル事項

第四條ノ三　工務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電信ノ建設及保存ノ工事ニ關スル事項
二　電話ノ建設及保存ノ工事ニ關スル事項

第五條　電氣局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電氣ノ取締ニ關スル事項
二　電氣測定器ノ檢定ニ關スル事項
三　發電水力ニ關スル事項

第六條　管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　航路標識ニ關スル事項
二　航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項
管船局ニ船舶試驗所ヲ置キ船舶ノ試驗竝ニ船用品ノ檢査及試驗ニ關スル事項ヲ掌ラシム
遞信大臣ハ必要ト認ムル地ニ船舶試驗所ノ支所ヲ置キ船舶試驗所ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
船舶試驗所長及支所長ハ遞信技師ヲ以テ之ニ充ツ

第六條ノ二　航空局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　航空ノ取締ニ關スル事項
二　航空ニ關スル事業ノ保護、奬勵及監督ニ關スル事項
三　航空ニ伴フ施設ニ關スル事項

第六條ノ三　經理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算竝會計ニ關スル事項
二　會計ノ監査ニ關スル事項
三　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
四　電信電話用品ノ製造及修繕ノ作業ニ關スル事項

第七條　遞信省ニ遞信省事務官專任九人ヲ置ク

遞信省事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス
前二項ノ職員ノ外航空局ノ事務ニ從事セシムル爲遞信大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ遞信省事務官ヲ命スルコトヲ得

第七條ノ二　遞信省ニ航空官專任九人ヲ置ク

航空官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ航空ニ關スル技術又ハ事務ヲ掌ル

第八條　遞信省ニ專任技師五十五人ヲ置ク但シ內四人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第九條　遞信省屬ハ專任百八十三人ヲ以テ定員トス

第十條　遞信省ハ專任技手八十九人ヲ置ク

第十條ノ二　遞信大臣ハ航空ニ關スル事務ニ關シ必要ニ應シ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ其ノ管理ニ屬スル人馬、艦船、航空機、器材等ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

附　則

第十一條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

附　則（大正十三年勅令第二百六十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
遞信省參事官ハ各省官制通則第十四條ノ規定ニ拘ラス之ヲ置カス
航空局官制ハ之ヲ廢止ス
航空局職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ航空局書記官ハ遞信書記官ニ、航空官ハ航空官ニ、航空局屬ハ遞信屬ニ、航空局技手ハ遞信技手ニ

同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ航空局ノ航空官又ハ技手ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ航空官ハ航空官ニ、航空局技手ハ遞信技手ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

●鐵道省官制

（大正九年五月十五日勅令第百四十四號）（總、大臣副署）

沿革　大正九年一二月勅令第五五七號、一〇年六月第二六五號、第二七六號、一一年五月第二七五號、一二年七月第三三〇號、一三年八月第一八六號、一二月第三八六號、一四年一〇月第二九八號、一五年九月第二九六號、昭和二年一二月第三三八號、三年一〇月第二三五號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ鐵道省官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道省官制

第一條　鐵道大臣ハ國有鐵道及其ノ附帶ノ業務ヲ管理シ地方鐵道及軌道ヲ監督ス

鐵道大臣ハ南滿洲鐵道株式會社ノ鐵道及航路ニ關スル業務ヲ監督ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外職員ノ養成保健、鐵道衞生ニ關スル事務及鐵道業務ニ關スル研究ヲ掌ル

第三條　鐵道省專任書記官ハ十八人ヲ以テ定員トス

第四條　鐵道省ニ左ノ七局ヲ置ク

監督局
運輸局
建設局
工務局
工作局
電氣局
經理局

第五條　監督局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　地方鐵道ノ免許及軌道ノ特許ニ關スル事項
二　地方鐵道及軌道ノ監督ニ關スル事項
三　地方鐵道ノ補助ニ關スル事項
四　南滿洲鐵道株式會社ノ鐵道及航路ノ監督ニ關スル事項

第六條　運輸局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國有鐵道ノ運輸及其ノ附帶ノ業務ニ關スル事項
二　國有鐵道ト他ノ鐵道、軌道及航路トノ聯絡運輸ニ關スル事項

第七條　建設局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　新設線路ノ調査計劃ニ關スル事項
二　新設ノ線路及建造物ノ工事ニ關スル事項

第八條　工務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　土地、線路及建造物ノ保存及管理ニ關スル事項
二　線路及建造物ノ改良ニ關スル事項

第九條　工作局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　車輛ノ製作、保存及改良ニ關スル事項
二　工場作業ニ關スル事項

第九條ノ二　電氣局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電氣設備ノ新設、保存及改良ニ關スル事項
二　電力ノ發生及配給ニ關スル事項

第十條　經理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項
二　會計ノ監査ニ關スル事項
三　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

第十一條　鐵道省ニ專任鐵道監察官三人ヲ置ク奏任トス但シ內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

鐵道監察官ハ鐵道大臣ノ命ヲ承ケ國有鐵道及其ノ附帶ノ業務ヲ監察ス

第十二條　鐵道省ニ專任事務官四十六人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十三條　鐵道省ニ專任技師二百二十五人ヲ置ク奏任トス但シ內八人ヲ勅任トスルコトヲ得

技師ハ上官ノ命ヲ受ケ技術ヲ掌ル

第十四條　鐵道省專任屬ハ九百九十五人ヲ以テ定員トス

第十五條　鐵道省ニ專任技手千二百九十四人ヲ置ク判任トス

上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十五條ノ二　鐵道省ニ鐵道手ヲ置ク判任官ノ待遇トス其ノ定員ハ鐵道大臣之ヲ定ム

鐵道手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ第十六條ノ規定ニ依ル事務所ニ於ケル事務又ハ技術ニ從事ス

第十六條　鐵道大臣ハ鐵道ノ建設、改良、工作又ハ電氣ニ關スル事務ヲ取扱フ爲必要アリト認ムルトキハ地方ニ事務所ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道院官制及大正二年勅令第七十五號ハ之ヲ廢止ス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中鐵道院トアルハ鐵道省、鐵道院總裁トアルハ鐵道大臣トス

●會計檢査院法

（明治二十二年五月十日法律第十五號）（總、大臣副署）

沿革　明治二九年五月法律第九〇號、三三年四月第八一號、四三年三月第三一號、四四年三月第二三號、大正二年四月第一一號、五年四月第三六號、八年三月第四號、一〇年四月第五三號、一四年四月第四三號、昭和二年三月第二六號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計檢査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計檢査院法

第一章　組織

第一條　會計檢査院ハ天皇ニ直隷シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條　會計檢査院ハ院長一員部長三員檢査官十二員ヲ置キ之ヲ會計檢査官トシ別ニ書記官專任一員副檢査官專任二十員及書記ヲ置ク

第三條　院長ハ親任、部長ハ勅任、檢査官ハ勅任又ハ奏任、書記官及副檢査官ハ奏任、書記ハ判任トス
勅任檢査官及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス
院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條　會計檢査院ニ三部ヲ設ケ各部部長一員檢査官四員ヲ以テ檢査ノ事務ヲ分掌ス

第六條　會計檢査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
會計檢査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ休職ヲ命セラルヽコトナシ
會計檢査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　父子兄弟ハ同時ニ會計檢査官トナルコトヲ得ス

第八條　會計檢査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條　會計檢査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス
議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス
一　第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ
二　第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ
三　第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ
四　檢査事務ノ規程計算證明ノ樣式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ
五　其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條　計算檢査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計檢査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章　職權

第十二條　會計檢査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ檢査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ要スルモノ左ノ如シ
一　總決算
二　各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
三　日本銀行ノ政府ノ爲取扱フ現金及有價證券ノ出納ニ關ル決算
四　政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算
五　法律勅令ニ依リ特ニ會計檢査院ノ檢査ニ屬セラレタル決算

第十四條　會計檢査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ檢査確定スルト同時ニ左ノ事項ニ付報告書ヲ作ルヘシ
一　總決算及各省決算報告書ノ金額ト日本銀行ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ
二　歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各々其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ
三　豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條　會計檢査院ハ各年度ノ會計檢査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條　會計檢査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ檢査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ檢査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計檢査院ニ報告セシムヘシ
前項ノ委託ニ拘ラス會計檢査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ檢査ヲ行フコトアルヘシ
第十三條第四號ノ團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　現金物品ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計檢査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得
會計檢査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條　會計檢査院ハ計算書及計算證明ノ樣式竝ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條　會計檢査院ハ各官廳ヲシテ檢査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得
會計檢査院長ハ檢査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地檢査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ檢査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得
前二項ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル各官廳以外ノモノニ付之ヲ準用ス

第二十條　會計檢査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ檢査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十條ノ二　會計檢査院ハ日本銀行ノ計算ヲ檢査シ正當ナリト決定シタ／トキハ其ノ旨ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ正當ナラスト決定シタルトキハ大藏大臣ニ移牒シテ相當ノ處置ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條　會計檢査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條　出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ樣式ヲ守ラサルトキハ會計檢査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條　政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計檢査院ニ於テ檢査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條　會計檢査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以內ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脫漏二重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐僞ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計檢査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章　附則

第二十五條　會計檢査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所令

（大正二年六月十三日勅令第百三十三號）（總、大臣、副署）

朕行政裁判所令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所令

第一條　行政裁判所ニ三部ヲ置ク

行政裁判所長官ハ各部ニ屬スヘキ事務ノ分配ヲ定ム

第二條　部ニ部長ヲ置ク

長官ハ一ノ部ノ長ト爲ル

他ノ部長ハ勅任官タル行政裁判所評定官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第三條　部長ハ裁判長ト爲リ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四條　長官ハ部長及評定官ノ部屬ヲ定ム

第五條　部長故障アルトキハ其ノ部ノ評定官行政裁判法第七條第二項ノ順序ニ依リ之ヲ代理ス

評定官故障アル場合ニ於テ之ヲ代理スヘキ者ハ長官臨時之ヲ定ム

第六條　部長ハ一事件每ニ審判準備ノ爲其ノ部ノ評定官ニ專理ヲ命スルコトヲ得

專理評定官ハ口頭審問ヲ爲ス前及合議ノ際部長及他ノ評定官ニ對シ訴訟ノ事實證憑及爭點ニ付說明ヲ爲スヘシ

第七條　判決ハ審問終結シタル期日又ハ其ノ期日ヨリ十四日內ニ之ヲ言渡スヘシ

第八條　裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟記錄ニ之ヲ記入セシム

第九條　行政裁判所ノ總會ハ評定官總員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

總會ノ決議ハ出席評定官ノ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　總會ハ長官之ヲ召集ス

長官ハ總會ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十一條　合議ノ際各評定官意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同シキトキハ年少ノ者ヲ始トシ專理ヲ命シタル事件ニ付テハ專理評定官ヲ始トス

第十二條　評定官ハ決議スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　法規ノ解釋ヲ一定シ又ハ判例ヲ變更スル必要アリト認ムルトキハ長官之ヲ總會ノ議ニ付ス

第十四條　書類ノ送達ハ使丁若ハ郵便ヲ以テシ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第十五條　行政裁判所ハ其ノ職權ニ屬スル事項ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十六條　本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

行政裁判所處務規程及明治三十四年勅令第七十二號ハ之ヲ廢止ス

地方官官制

（大正十五年六月四日勅令第百四十七號）（總、內、大臣、副署）

沿革　昭和二年六月勅令第一八五號、三年三月第二四號、七月第一三八號、九月第二二三號改正

朕地方官官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

第一條　府縣ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

知事	勅任
書記官	奏任
地方事務官	專任四百十六人
地方視學官	專任四十六人
	奏任

地方警視	專任二百三十八人	奏任
地方小作官	專任三十六人	奏任
地方技師	專任二百七十六人	奏任
視學	專任三十人	判任
屬	專任二千二百四十八人	判任
警部	專任千四百六十一人	判任
小作官補	專任三十七人	判任
技手	專任千十一人	判任
通譯	專任十四人	判任
警部補	專任十四人	判任

書記官ハ東京府ニ在リテハ專任二人、其ノ他ノ府縣ニ在リテハ各專任三人ヲ以テ定員トス

警部補ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ知事之ヲ定ム

第二條　前條ノ定員外ニ於テ府縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

視學	專任三百五十人以內	判任
屬 技手	專任三千七百人以內	判任

第三條　知事、書記官及警部補ヲ除クノ外第一條ノ職員竝ニ前條職員ノ各府縣內ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

第四條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル地方技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第五條　知事ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ管理ス

第六條　知事ハ部內ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第七條　知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得但シ東京府知事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條　知事ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ハ內務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

東京府知事ハ其ノ主務ニ付テハ東京府下ノ警察署長ヲ指揮監督ス

第九條　知事ハ支廳長又ハ警察署長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

知事ハ行政事務ニ付其ノ部內ノ市町村長ヲ指揮監督シ其ノ處分ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第十條　知事事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ書記官其ノ職務ヲ代理ス

知事及書記官共ニ事故アルトキハ內務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十一條　知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ支廳長、警察署長又ハ市町村長ニ委任スルコトヲ得

第十二條　各府縣ニ知事官房及左ノ三部ヲ置ク但シ東京府ニハ警察部ヲ置カス

內務部
學務部
警察部

第十三條　知事官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項
三　官印府縣印ノ管守ニ關スル事項
四　褒賞ニ關スル事項
五　統計ニ關スル事項

第十四條　內務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　議員選擧ニ關スル事項
二　府縣ノ行政ニ關スル事項
三　市町村其ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項
四　會計ニ關スル事項
五　土木ニ關スル事項
六　土地收用ニ關スル事項
七　水陸運輸ニ關スル事項
八　水面埋立ニ關スル事項
九　農工商森林水產ニ關スル事項
十　小作爭議調停ニ關スル事項
十一　度量衡ニ關スル事項
十二　他ノ主管ニ屬セサル事項

第十五條　學務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　教育學藝ニ關スル事項
二　社寺及宗教ニ關スル事項
三　兵事ニ關スル事項
四　社會事業ニ關スル事項
五　史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項

東京府ノ學務部ニ於テハ前項ノ外衞生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條　警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　警察ニ關スル事項
二　衞生ニ關スル事項
三　工場法施行ニ關スル事項
四　鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事項
五　勞働爭議調停ニ關スル事項

第十七條　內務大臣ハ須要ニ依リ府縣ヲ指定シテ土木部、產業部又ハ衞生部ヲ置クコトヲ得

土木部ニ於テハ第十四條第五號乃至第八號ノ事務ヲ掌ル
産業部ニ於テハ第十四條第九號乃至第十一號ノ事務ヲ掌ル
衛生部ニ於テハ前條第二號ノ事務ヲ掌ル
土木部又ハ産業部ヲ置ク府縣ニ於テハ知事ハ第十三條第二號乃至第五號ノ事務ノ一部又ハ全部ヲ内務部ニ於テ掌ラシムルコトヲ得

第十八條　部ニ部長ヲ置ク内務部、學務部及警察部ニ在リテハ書記官ヲ以テ、土木部、産業部及衛生部ニ在リテハ書記官又ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツ
部長ハ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十九條　部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第二十條　警察部長ハ警察事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ地方警視、警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十一條　知事ハ知事官房及各部ニ分課ヲ設クルコトヲ得

第二十二條　地方事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第二十二條ノ二　地方視學官ハ學務部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十三條　地方警視ハ警察部ニ屬シ又ハ内務大臣ノ指定シタル警察署ノ署長ト爲リ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス

警察部ニ屬スル地方警視ハ警察事務ノ執行ニ關シ上官ノ指揮ヲ承ケ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十四條　地方小作官ハ上官ノ命ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十五條　地方技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十六條　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル庶務ニ從事ス

第二十七條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十八條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生、徴發及召集ニ關スル事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十九條　小作官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第三十條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十一條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ飜譯通辯ニ從事ス

第三十二條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生、徴發及召集ニ關スル事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第三十三條　各府縣ニ工業組合監督官及工業組合監督官補ヲ置クコトヲ得
工業組合監督官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、工業組合監督官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ重要輸出品工業組合法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十四條　（削除）

第三十五條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ工場監督官及工場監督官補ヲ置クコトヲ得
工場監督官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、工場監督官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ工場法施行竝ニ鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齢法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十六條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ建築監督官及建築監督官補ヲ置クコトヲ得
建築監督官ハ地方事務官、地方警視又ハ地方技師ヲ以テ、建築監督官補ハ屬、警部、技手又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ
警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十七條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ調停官及調停官補ヲ置クコトヲ得
調停官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、調停官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第三十八條　大阪府ニ監察官一人ヲ置キ警察部ニ屬スル地方警視ヲ以テ之ニ充ツ
監察官ハ上官ノ命ヲ承ケ警察事務ノ實況ヲ監察ス

第三十九條　各府縣管内ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ知事之ヲ定ム

第四十條　警察署長ハ地方警視ヲ以テ充ツル場合ヲ除クノ外警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ地方ノ狀況ニ依リ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部内ノ警察、衛生、徴發及召集ニ關スル事務（市ニ於ケル徴發及召集ニ關スル事務ヲ除ク）ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第四十一條　警察署長ハ徴發及召集ニ關スル事務ニ付部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十二條　各府縣ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

第四十三條　島地其ノ他交通不便ノ地ニ府縣支廳ヲ置クコトヲ得其ノ位置、名稱及管轄區域ハ内務大臣之ヲ定ム
知事必要アリト認ムルトキハ支廳出張所ヲ置クコトヲ得

第四十四條　支廳長ハ地方事務官ヲ以テ之ニ充ツ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
支廳出張所長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ知事ノ定ムル所ニ依リ出張所主管ノ事務ヲ處理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第四十五條　支廳長ハ行政事務ニ付其ノ部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十六條　支廳長ハ町村長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益

ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第四十七條　支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ上席屬其ノ職務ヲ代理ス

第四十八條　支廳長ハ其ノ廳勤務ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十九條　本令中市長トアルハ市制第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區長ヲ、町村長トアルハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第百三十一號及明治四十二年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ本令ニ依ル廢官ニ係ル官ニ在リ休職中ナル者竝ニ大正十三年勅令第三百九十六號施行ノ際同令ニ依ル廢官ニ係ル官ニ在リ現ニ休職中ナル者ニ付テハ其ノ休職滿期ニ至ル迄ノ間臨時其ノ官ヲ置カレタルモノトス

●北海道廳官制

（大正二年六月十三日）（勅令第百五十號）總、內、大臣、副署

沿革　大正三年八月勅令第一六一號、一一月第二四九號、五年一月第五號、三月第五二號、六年八月第一一九號、一二月第二二〇號、第二三八號、七年五月第一五七號、八年七月第三四八號、九年九月第三八八號、一〇年六月第二五〇號、一一年九月第四一三號、一二年四月第一五三號、一〇月第四六六號、一三年九月第二一四號、一二月第三九四號、一四年二月第一一號、五月第一七一號、一五年五月第一一二號、六月第一四六號、昭和二年六月第一八四號、三年三月第二三號、七月第一三七號、八月第二一二號、九月第二二二號改正

朕北海道廳官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳官制

第一條　北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	勅任	
部長	專任五人	奏任
事務官	專任二十二人	奏任
視學官	專任一人	奏任
警視	專任十六人	奏任
小作官	專任一人	奏任
技師	專任二十一人	奏任
視學	專任十二人	判任
屬	專任二百二十六人	判任
警部	專任八十九人	判任
小作官補	專任一人	判任
技手	專任百七人	判任
通譯	專任二人	判任
警部補		判任

內務部長及土木部長ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

警部補ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ北海道廳長官之ヲ定ム

第二條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第三條　長官ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民ノ事務及部內ノ行政事務ヲ總理ス

第四條　長官ハ北海道ノ事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其ノ一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第五條　長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第六條　長官ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ高等官ノ功過ハ內務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第七條　長官ハ支廳長又ハ警察署長ノ處分又ハ命令ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分又ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

長官ハ行政事務ニ付其ノ部內ノ市長ヲ指揮監督シ其ノ處分ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第八條　長官事故アルトキハ內務部長タル部長其ノ職務ヲ代理ス

長官及內務部長タル部長共ニ事故アルトキハ內務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ長官ノ職務ヲ代理セシム

長官ハ道廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九條　長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ支廳長、警察署長又ハ市長ニ委任スルコトヲ得

第十條　北海道廳ニ長官官房及左ノ五部ヲ置ク

內務部
學務部
土木部
拓殖部
警察部

第十一條　長官官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項
三　官印廳印ノ管守ニ關スル事項
四　褒賞ニ關スル事項

五　統計ニ關スル事項

第十二條　內務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　職員選擧ニ關スル事項
二　北海道會、北海道參事會及北海道地方費ニ關スル事項
三　支廳及市町村其ノ他公共團體ニ關スル事項
四　道廳ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項
五　地方費經濟ニ屬スル收支出納ニ關スル事項
六　道廳所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項
七　地方費經濟ニ屬スル財產及物品ニ關スル事項
八　農工商ニ關スル事項
九　小作爭議調停ニ關スル事項
十　水產漁獵ニ關スル事項
十一　度量衡ニ關スル事項
十二　他ノ主管ニ屬セサル事項

學務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　敎育學藝ニ關スル事項
二　社寺及宗敎ニ關スル事項
三　兵事ニ關スル事項
四　社會事業ニ關スル事項
五　史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項

土木部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　土木ニ關スル事項
二　水陸運輸ニ關スル事項
三　水面埋立ニ關スル事項

拓殖部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　殖民地ノ選定經畫其ノ他殖民ニ關スル事項
二　土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
三　地籍ニ關スル事項
四　官有地管理ニ關スル事項
五　土地收用ニ關スル事項
六　森林原野ニ關スル事項

警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　警察ニ關スル事項
二　衞生ニ關スル事項
三　工場法施行ニ關スル事項
四　鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事項
五　勞働爭議調停ニ關スル事項

第十二條ノ二　內務大臣ハ須要ニ依リ北海道廳ニ產業部ヲ置キ前條第一項第八號乃至第十一號ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十三條　部長ハ長官ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十四條　部長事故アルトキハ長官ニ於テ道廳官吏ノ一人ヲ

シテ其ノ事務ヲ代理セシム

第十五條　警察部長ハ警察事務ノ執行ニ關シ長官ノ命ヲ承ケ警視、警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第十六條　（削除）

第十六條ノ一　道廳ニ工場監督官ヲ置キ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官ハ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ三　道廳ニ建築監督官ヲ置クコトヲ得事務官、警視又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官ハ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ四　道廳ニ調停官ヲ置クコトヲ得事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

調停官ハ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條　支廳長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十八條　支廳長ハ行政事務ニ付其ノ部內ノ町村長ヲ指揮監督ス

第十九條　支廳長ハ町村長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條　支廳長ハ法律命令ニ依リ又ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ得

第二十一條　支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ事務官其ノ職務ヲ代理ス

支廳長及其ノ廳勤務ノ事務官共ニ事故アルトキ又ハ前項ノ場合ニ於テ其ノ廳勤務ノ事務官ナキ支廳ニ在リテハ其ノ廳勤務上席屬支廳長ノ職務ヲ代理ス

第二十二條　支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二十三條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第二十三條ノ二　視學官ハ學務部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他敎育ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十四條　警視ハ警察部ニ屬シ又ハ內務大臣ノ指定シタル警察署ノ署長ト爲リ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス

第二十四條ノ二　小作官ハ上官ノ命ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十五條　長官ハ長官官房及各部ニ分課ヲ設クルコトヲ得

第二十六條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十七條　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル庶務ニ從事ス

第二十八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十九條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十九條ノ二　道廳ニ工場監督官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官補ハ警察部ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齢法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十九條ノ三　道廳ニ建築監督官補ヲ置クコトヲ得屬、警部、警部補又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官補ハ警察部ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十九條ノ四　道廳ニ調停官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

調停官補ハ警察部ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第二十九條ノ五　小作官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第三十條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十一條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ飜譯通辯ニ從事ス

第三十二條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第三十三條　管內須要ノ地ニ道廳支廳ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　北海道廳管內ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第三十五條　警察署長ハ警視ヲ以テ充ツル場合ヲ除クノ外警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ地方ノ狀況ニ依リ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部內ノ警察及衛生事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三十六條　北海道廳ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ法律命令ニ依リ郡區長ノ管掌ニ屬シタル事項ハ支廳長之ヲ處理ス

從前郡區長ノ兼掌シタル戶長ノ事務ハ支廳長ニ於テ之ヲ其ノ廳在勤ノ屬ニ委任スルコトヲ得

附　則（大正十三年勅令第三百九十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ本令ニ依ル廢官ニ係ル官ニ在リ休職中ナル

者ニ付テハ其ノ休職滿期ニ至ル迄ノ間臨時其ノ官ヲ置カレタルモノトス

●警視廳官制

（大正二年六月十三日勅令第百四十九號）副總、內、大臣署

沿革　大正三年一一月勅令第二四八號、四年六月第八九號、五年一月第四號、三月第五一號、四月第一一三號、六年八月第一一八號、七年五月第一五六號、八年六月第二八五號、九年九月第三八七號、一〇年六月第二四九號、一一年六月第三二七號、八月第三八八號、一二年四月第一六八號、一〇月第四六五號、一三年九月第二一三號、一二月第三九三號、一四年二月第一〇號、五月第一七〇號、九月第二八八號、一五年五月第一一一號、六月第一四五號、昭和二年六月第一八三號、三年七月第一三六號、九月第二二一號改正

朕警視廳官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

警視廳官制

第一條　警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

警視總監		勅任
書記官	專任五人	奏任
事務官	專任三人	奏任
警視	專任五十三人	奏任
消防司令	專任三人	奏任
技師	專任二十人	奏任
警部	專任百四十一人	判任
屬	專任三十三人	判任
消防士	專任二十二人	判任
消防機關士	專任十人	判任
技手	專任九十二人	判任
通譯	專任二人	判任
警部補		判任

警部補ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ警視總監之ヲ定ム

第二條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第三條　警視總監ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及特ニ內務大臣ノ指定スル衛生事務、工場法施行ニ關スル事務、鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務竝勞働爭議調停ニ關スル事務ヲ管理シ各省ノ主務ニ關スル事務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第四條　警視總監ハ部內ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其ノ一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第五條　警視總監ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警

護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ東京警備司令官又ハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第六條　警視總監ハ其ノ主務ニ付テハ管内ノ支廳長、市長、區長及町村長ヲ指揮監督ス

第七條　警視總監ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第八條　警視總監事故アルトキハ警務部長タル書記官其ノ職務ヲ代理ス

警視總監及警務部長タル書記官共ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ警視總監ノ職務ヲ代理セシム

警視總監ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九條　警視總監ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ警察署長ニ委任スルコトヲ得

第十條　警視總監ハ警察署長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十一條　警視廳ニ總監官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項

三　官印廳印ノ管守ニ關スル事項

四　各部所成案ノ審査及制規ニ關スル事項

五　高等警察ニ關スル事項

六　會計ニ關スル事項

七　他ノ主管ニ屬セサル事項

第十二條　警視廳ニ部ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

警務部

一　警務ニ關スル事項

刑事部

一　刑事ニ關スル事項

保安部

一　建築警察、風俗警察及危險物取締等ニ關スル事項

二　營業警察及交通警察等ニ關スル事項

衛生部

一　衛生警察及衛生ニ關スル事項

消防部

一　水火消防ニ關スル事項

第十三條　總監官房ニ官房主事ヲ置キ書記官ヲ以テ之ニ充ツ

警視總監ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條　部ニ部長ヲ置ク警務部長刑事部長保安部長及衛生部長ハ書記官、消防部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ警視總監ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

警務部長ハ行政警察事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ警察署長以下ヲ指揮監督ス

刑事部長ハ刑事警察事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ警察署長以下ヲ指揮監督ス

消防部長ハ消防事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ消防署長（消防署長アラサル地ニ在リテハ警察署長）以下ヲ指揮監督ス

第十五條　官房主事又ハ部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第十六條　警視廳ニ監察官二人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ

監察官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ警察事務ノ實況ヲ監察ス

第十六條ノ二　警視廳ニ工場監督官ヲ置キ事務官及技師ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ三　警視廳ニ建築監督官ヲ置キ事務官、警視又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ四　警視廳ニ調停官ヲ置キ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

調停官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條　警視及消防司令ハ監察官竝内務大臣ノ指定シタル警察署及消防署ノ署長タル者ヲ除クノ外總監官房又ハ部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十八條　警視總監ハ總監官房及各部ニ分課ヲ設クルコトヲ得

第十九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生、徵發及召集ニ關スル事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十一條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條　消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事シ部下ノ消防手ヲ指揮監督ス

消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防機關ノ運用ニ從事ス

第二十三條　警視廳ニ工場監督官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十三條ノ二　警視廳ニ建築監督官補ヲ置キ屬、警部、警部補又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關

スル事務ニ從事ス

第二十三條ノ三　警視廳ニ調停官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

調停官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第二十四條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十五條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通譯ニ從事ス

第二十六條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衞生、徵發及召集ニ關スル事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十七條　警視廳管內ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ警視總監之ヲ定ム

第二十八條　警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ部內ノ警察、衞生、徵發及召集ニ關スル事務（市ニ於ケル徵發及召集ニ關スル事務ヲ除ク）ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第二十八條ノ二　警察署長ハ徵發及召集ニ關スル事務ニ付部內ノ町村長ヲ指揮監督ス

第二十九條　東京市內及第二項ノ規定ニ依ル編入區域內ニ於ケル水火災ノ警戒防禦ヲ掌ラシムル爲消防署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ警視總監之ヲ定ム

警視總監ハ土地ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ受ケ東京市接近町村ノ全部又ハ一部ヲ消防署ノ管轄區域ニ編入スルコトヲ得

第二十九條ノ二　警視總監必要アリト認ムルトキハ第三條及前條第一項ノ規定ニ拘ラス消防署ヲシテ其ノ管轄區域外ノ水火災ノ警戒防禦ニ應援セシムルコトヲ得

第三十條　消防署長ハ消防司令又ハ消防士ヲ以テ之ニ充ツ

消防署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三十一條　警視廳ニ巡査及消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査及消防手ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

第三十二條　警視廳ニ警察練習所及消防練習所ヲ置ク

警察練習所ハ警察ニ從事スル職員、消防練習所ハ消防ニ從事スル職員ノ教習及訓練ニ關スル事項ヲ掌ル

第三十三條　警察練習所長ハ警務部長タル書記官、消防練習所長ハ消防部長タル事務官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ其ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府官制

（明治四十三年九月三十日總陸、海、大臣署勅令第三百五十四號）

沿革　明治四四年五月勅令第一三六號、四五年三月第二二號、大正二年六月第一一四號、四年五月第六〇號、五年八月第一九二號、六年七月第七八號、一一月第二〇七號、七年五月第一六二號、八年五月第二四〇號、八月第三八六號、一〇年二月第二二號、八月第三五六號、一二年六月第二九六號、一三年一二月第四一一號、一四年四月第八二號、一五年六月第一六二號、昭和二年六月第一九三號、三年七月第一六八號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府官制

第一條　朝鮮總督府ニ朝鮮總督ヲ置ク

總督ハ朝鮮ヲ管轄ス

第二條　總督ハ親任トス

第三條　總督ハ諸般ノ政務ヲ統理シ內閣總理大臣ヲ經テ上奏ヲ爲シ及裁可ヲ受ク

第三條ノ二　總督ハ安寧秩序ノ保持ノ爲必要ト認ムルトキハ朝鮮ニ於ケル陸海軍ノ司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第四條　總督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ朝鮮總督府令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條　總督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第六條　總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任文官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任文官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條　總督ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

第八條　總督府ニ政務總監ヲ置ク

政務總監ハ親任トス

政務總監ハ總督ヲ輔佐シ府務ヲ統理シ各部局ノ事務ヲ監督ス

第九條　總督府ニ總督官房竝左ノ六局及一部ヲ置ク

內務局
財務局
殖產局
法務局
學務局
警務局
山林部

第十條　總督官房、各局及部ノ事務ノ分掌ハ總督之ヲ定ム

第十一條　總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	六人	勅任
山林部長	一人	勅任
祕書官	專任　二人	奏任

事務官	専任	三十三人	奏任内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
山林事務官	専任	一人	奏任
視學官	専任	三人	奏任
編修官	専任	四人	奏任
技師	専任	三十九人	奏任内三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
通譯官	専任	九人	奏任
屬	専任	二百二十九人	判任
編修書記	専任	五人	判任
技手	専任	百十八人	判任
通譯生	専任	三人	判任

第十二條　局長ハ各局ノ長ト爲リ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十三條　山林部長ハ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條　（削除）

第十五條　祕書官ハ總督ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル

第十七條　山林事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ林野ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條ノ二　視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ヲ掌ル

第十七條ノ三　編修官ハ上官ノ命ヲ承ケ教科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第十八條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十九條　通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十條　屬、編修書記、技手又ハ通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、教科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務、技術又ハ通譯ニ從事ス

第二十一條　（削除）

第二十二條　（削除）

第二十三條　學務局ニ觀測所ヲ置キ氣象ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第二十四條　觀測所長ハ朝鮮總督府技師ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條　觀測所ノ名稱及位置ハ總督之ヲ定ム

第二十六條　殖產局ニ地質調査所ヲ置キ地質ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第二十七條　地質調査所長ハ朝鮮總督府技師ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百十九號ハ（其ノ官立學校ニ關スルモノヲ除クノ外）之ヲ廢止ス

參照　明治四十三年勅令第三百十九號朝鮮總督府設置ニ關スル件

附　則（大正八年勅令第三百八十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中朝鮮總督府各部長官トアルハ朝鮮總督府各局長、朝鮮總督府度支部長官トアルハ朝鮮總督府財務局長、朝鮮總督府農商工部長官トアルハ朝鮮總督府殖產局長、朝鮮總督府司法部長官トアルハ朝鮮總督府法務局長、朝鮮總督府ノ鐵道局長トアルハ朝鮮總督府鐵道部長トス

●臺灣總督府官制

（明治三十年十月二十一日）總、海、陸、大臣署
（勅令第三百六十二號）副

沿革　明治三一年二月勅令第二三號、六月第一〇六號、三二年七月第三四八號、三三年二月第三六號、六月第二五四號、三四年五月第七四號、一一月第二〇一號、三五年一一月第二五七號、三七年四月第一二三號、三八年一一月第二三三號、四〇年五月第一六七號、四一年三月第四四號、四二年五月第一二七號、一〇月第二七〇號、四三年六月第二八一號、四四年一〇月第二六〇號、四五年七月第一四三號、大正二年六月第一一五號、三年七月第一四八號、四年二月第一六號、七月第一二九號、六年七月第八一號、一一月第二〇九號、七年八月第三〇四號、八年六月第三一一號、八月第三九三號、九年九月第三四八號、一〇年二月第一八號、八月第三六〇號、一三年二月第三二號、一二月第四二七號、一五年一〇月第三二一號、昭和二年七月第二四二號、三年七月第一六九號改正

第一條　臺灣總督府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府官制

第一條　臺灣總督府ニ臺灣總督ヲ置ク

總督ハ臺灣ヲ管轄ス

第二條　總督ハ親任トス

第三條　總督ハ內閣總理大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス

第三條ノ二　總督ハ安寧秩序ノ保持ノ爲必要ト認ムルトキハ其ノ管轄區域內ニ於ケル陸海軍ノ司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第四條　總督陸軍武官ナルトキハ臺灣軍司令官ヲ兼ネシムルコトヲ得

第五條　總督ハ其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ依リ總督府令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第六條乃至第八條　（削除）

第九條　總督ハ必要ト認ムル地域內ニ於テ其ノ地ノ守備隊長若ハ駐在武官ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第十條　總督ハ知事又ハ廳長ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第十一條　總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任文官ノ進退ハ內閣

總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　總督ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

第十三條　總督ハ所部文官ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ係ルモノ竝ニ奏任官ノ免官ハ內閣總理大臣ヲ經テ上奏シ其ノ他ハ之ヲ專行ス

第十四條　總督府ニ總督官房ヲ置ク

總督官房ニ專任祕書官一人ヲ置ク機密ニ關スル事務ヲ掌ル

祕書官ハ奏任トス

第十五條　（削除）

第十六條　（削除）

第十七條　總督府ニ總督官房ノ外左ノ五局ヲ置ク

內務局
文敎局
財務局
殖產局
警務局

內務局ニ測候所ヲ附屬セシム

殖產局ニ獸疫血淸製造所ヲ置キ獸疫血淸ノ製造及配付ニ關スル事務ヲ掌ラシム

殖產局ニ營林所及其ノ出張所ヲ置キ總督ノ指定スル國有林野ノ造林ニ關スル事務、其ノ國有林野ノ產物ノ採取、製造、加工及販賣ニ關スル事務竝之ニ附帶スル鐵道、道路及其ノ鐵道ニ依ル貨客ノ運輸營業ニ關スル事務ヲ掌ラシム

殖產局ニ度量衡所ヲ置キ度量衡器ノ製造、修理、販賣及取締其ノ他ノ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第十八條　總督官房及各局ノ事務ノ分掌及其ノ分課ハ總督之ヲ定ム

第十九條　總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

總務長官	勅任	
局長	五人	勅任
事務官	專任二十人	奏任（內一人ヲ勅任トス爲スコトヲ得）
警視	專任一人	奏任
視學官	專任五人	奏任
編修官	專任二人	奏任
技師	專任三十九人	奏任（內二人ヲ勅任トス爲スコトヲ得）
統計官	專任一人	奏任
翻譯官	專任二人	奏任
屬	專任百九十六人	判任
警部	專任五人	判任
編修書記	專任四人	判任
技手	專任百六人	判任
通譯	專任一人	判任

各測候所ヲ通シテ技師一人技手十六人ヲ置ク

測候所技師ハ奏任、測候所技手ハ判任トス

第二十條　總務長官ハ總督ヲ佐ケ部務ヲ總理シ總督官房及各局ノ事務ヲ監督ス

第二十一條　局長ハ總督及總務長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十二條　警務局長ハ總督ノ特ニ命スル場合ニ限リ警察事務ノ執行ニ關シ總督及總務長官ノ命ヲ承ケ廳長、警務部長及警視以下ノ警察官吏ヲ指揮監督ス

第二十三條　（削除）

第二十四條　（削除）

第二十五條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ總督官房及各局ノ事務ヲ掌ル

第二十六條　警視ハ警務局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ蕃務ヲ掌ル

警視ハ蕃務警察事務ノ執行ニ關シ警務局長ノ命ヲ承ケ警部以下ノ警察官吏ヲ指揮監督ス

第二十六條ノ二　視學官ハ文敎局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ヲ掌ル

第二十六條ノ三　編修官ハ文敎局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ敎科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ總督官房及各局ノ事務ヲ助ク

第二十七條ノ二　統計官ハ上官ノ命ヲ承ケ統計ヲ掌ル

第二十七條ノ三　測候所技師ハ上官ノ命ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ヲ掌リ測候所技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ニ從事ス

第二十八條　翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十九條　各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

第三十條　屬、技手及通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務技術通譯ニ從事ス

第三十一條　警部ハ警務局ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ蕃務ニ從事ス

第三十二條　編修書記ハ文敎局ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ敎科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務ニ從事ス

第三十三條　測候所、獸疫血淸製造所、營林所、營林所出張所及度量衡所ノ名稱及位置ハ總督之ヲ定ム

附　則

〔第二十六條〕　本令ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

〔第二十七條〕　明治二十九年勅令第八十八號臺灣總督府條例同年勅令第九十號臺灣總督府民政局官制同年勅令第百十六號臺灣總督府軍務局官制竝ニ同年勅令第百六十九號臺灣總督府民政局臨時土木部官制ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（大正八年勅令第三百九十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際臺灣總督府民政長官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ臺灣總督府總務長官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中民政長官トアルハ臺灣總督府總務長官トス

附　則（大正九年勅令第三百四十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府營林局官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際臺灣總督府營林局ノ技師、書記又ハ技手ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各臺灣總督府ノ技師、屬又ハ技手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●關東廳官制

（大正八年四月十二日）勅令第九十四號）總、外、陸、大臣署副

沿革　大正八年八月勅令第三八三號、九年一〇月第五〇〇號、一〇年六月第二四七號、一一年七月六三三四號、一二年五月第二六二號、一三年一二月第四三九號、一五年七月第二六三號、昭和二年六月第一九八號、三年七月第一七八號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東廳官制

第一條　關東州ニ關東廳ヲ置ク

第二條　關東廳ニ關東長官ヲ置ク

關東長官ハ關東州ヲ管轄シ南滿洲ニ於ケル鐵道線路ノ警務上ノ取締ノ事ヲ掌ル

關東長官ハ南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三條　關東長官ハ親任トス

陸軍武官關東長官ニ任セラレタルトキハ之ニ關東軍司令官ヲ兼ネシムルコトヲ得

第四條　關東長官ハ內閣總理大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス但シ涉外事項ニ關シテハ外務大臣ノ監督ヲ承ク

第五條　關東長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ二百圓以內ノ罰金若ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第六條　關東長官ハ安寧秩序ヲ保持スル爲臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ前條ノ制限ヲ超ユル罰則ヲ附シタル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ發シタル命令ハ發布後直ニ內閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ若シ勅裁ヲ得サルトキハ關東長官ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第七條　關東長官ハ其ノ管轄區域ノ安寧秩序ノ保持又ハ鐵道線路ノ警護ノ爲必要アルトキハ關東軍司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第八條　關東長官ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第九條　關東長官ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十條　關東長官ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部ノ職員ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

第十一條　關東長官ハ所部ノ職員ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ係ルモノ及奏任官ノ免官ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス

第十二條　關東廳ニ長官官房、內務局、警務局及財務部ヲ置ク

長官官房、內務局、警務局及財務部ノ事務ノ分掌ハ關東長官之ヲ定ム

第十三條　關東州ヲ二區ニ分チ各區ニ民政署ヲ置ク其ノ位置名稱及管轄區域ハ關東長官之ヲ定ム

第十四條　民政署ノ事務ヲ分掌セシムル爲須要ノ地ニ民政支署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ關東長官之ヲ定ム

第十四條ノ二　管內ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ關東長官之ヲ定ム

第十五條　關東廳ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	二人	勅任
財務部長	專任十五人	奏任
事務官	專任一人	奏任內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
祕書官	專任五人	奏任
理事官	專任五人	奏任
技師	專任九人	奏任
警視	專任十一人	奏任
翻譯官	專任一人	奏任
屬	專任百四十五人	判任
視學	專任九人	判任
警部	專任六十三人	判任
技手	專任六十五人	判任
翻譯生	專任二十六人	判任
稅務吏	專任三十人	判任
森林主事	專任五人	判任
警部補	專任百二十人	判任

事務官ハ南滿洲ニ駐在スル領事官ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

交通ノ事務ニ關シ關東廳ニ顧問ヲ置ク顧問ハ南滿洲鐵道株式會社ノ社長ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　（削除）

第十七條　局長ハ各局ノ長ト爲リ關東長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

警務局長ハ警察及衛生ノ事務ノ執行ニ關シ關東長官ノ命ヲ承ケ民政署長、民政支署長、警視、警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

財務部長ハ關東長官ノ命ヲ承ケ財務部ノ事務ヲ掌理ス

第十八條　（削除）

第十九條　事務官ハ民政署長又ハ民政支署長タル者ヲ除クノ外上司ノ命ヲ承ケ廳務ヲ分掌ス

第二十條　民政署長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ關東長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ施行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第二十一條　民政署長ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ民政署令ヲ發シ之ニ五十圓以内ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二十二條　民政署長ハ管内ノ警察署長ヲ指揮ス

第二十三條　民政署長ハ所部ノ職員ヲ監督シ判任官ノ進退ヲ關東長官ニ具狀ス

第二十四條　民政署長ハ署中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　民政署長事故アルトキハ上席ノ官吏其ノ職務ヲ代理ス

民政署長ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二十六條　（削除）

第二十七條　祕書官ハ關東長官ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十八條　理事官ハ民政支署長タル者ヲ除クノ外上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第二十九條　技師ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第三十條　警視ハ上司ノ命ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ヲ掌リ部下ノ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第三十一條　翻譯官ハ上司ノ命ヲ承ケ翻譯通辯ヲ掌ル

第三十二條　屬ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十三條　視學ハ上司ノ指揮ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ニ從事ス

第三十四條　警部ハ上司ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ從事シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第三十五條　技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十六條　翻譯生ハ上司ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス

第三十六條ノ二　稅務吏ハ上司ノ指揮ヲ承ケ稅務ニ從事ス

第三十六條ノ三　森林主事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ從事ス

第三十六條ノ四　警部補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第三十七條　民政支署長ハ事務官、理事官、警視、屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第三十八條　民政支署長事故アルトキハ上席官吏其ノ職務ヲ代理ス

第三十八條ノ二　警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上司ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ警察及衛生ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三十八條ノ三　民政署長又ハ關東州外ノ警察署長ハ管内ノ靜謐ヲ維持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ關東長官ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ其ノ附近ノ守備隊長ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條　關東廳ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ノ定員ハ關東長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ關東都督府ノ參事官、事務官、祕書官、學務官、技師、警視、翻譯官、屬、視學、警部、技手、翻譯生警部補又ハ巡査ノ職ニ在ル者ハ關東廳ノ參事官、事務官、祕書官、學務官、技師、警視、翻譯官、屬、視學、警部、技手翻譯生、警部補又ハ巡査ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中關東都督府トアルハ關東廳、關東都督又ハ都督トアルハ關東長官トス

他ノ勅令中任用給與等ニ付テノ在職年數ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ關東都督府職員トシテノ在職ハ之ヲ關東廳職員トシテノ在職ト看做ス

附　則（大正十年勅令第二百四十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州裁判事務取扱令第七十一條中「民政署長及憲兵隊長」ヲ「警務署長」ニ改メ同條第二項第三號ヲ削ル

關東州罰金及笞刑處分令第九條及第十一條中「民政署又ハ民政支署」ヲ「警務署又ハ警務支署」ニ、同令第十二條中「關東都督」ヲ「關東長官」ニ改ム

關東州犯罪既決例第一條及第七條中「民政署長、民政支署長又ハ其ノ職務ヲ代理スル官吏」ヲ「警務署長又ハ警務支署長」ニ改ム

關東廳警察官服制別表中「警務官」ヲ「警務局長」ニ改ム

（大正八年四月十二日勅令第九十五號）

朕關東廳官制施行ノ際現ニ關東都督府所屬官署ノ職員タル者ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東廳官制施行ノ際現ニ關東都督府所屬官署ノ職員タル者ハ關東廳所屬當該官署ノ職員ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太廳官制

（大正七年六月六日勅令第百九十八號）副署　大臣

沿革　大正八年六月勅令第二九五號、九年一一月第五二二號、一〇年六月第二八一號、一一年一〇月第四五九號、一二年五月第二六四號、一三年一二月第四四八號、一五年五月第一二八號、昭和二年六月第一九九號、三年七月第一七一號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ樺太廳官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太廳官制

第一條　樺太ニ樺太廳ヲ置ク

第二條　樺太廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官		勅任
部長	三人	奏任
事務官	專任六人	奏任
支廳長	七人	奏任
警視	專任二人	奏任
技師	專任五人	奏任
屬	專任百二十人	判任
視學	專任四人	判任
警部	專任十二人	判任
技手	專任六十二人	判任
森林主事	專任二百六十三人	判任
警部補	專任十七人	判任

教習中ノ森林主事ハ之ヲ前項定員ノ外トス

第三條　長官ハ內閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ管理ス但シ郵便電信及電話ニ關スル事務ニ付テハ遞信大臣、貨幣銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣、度量衡及計量ニ關スル事務ニ付テハ商工大臣ノ監督ヲ承ク

第四條　長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發シ之ニ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條　長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第六條　長官ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ高等官ノ功過ハ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第七條　長官ハ所部ノ高等官ノ懲戒ヲ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ懲戒ハ之ヲ行フ

第八條　長官ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條　長官專故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ部長其ノ職務ヲ代理ス

長官及部長共ニ事故アルトキハ內閣總理大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ長官ノ職務ヲ代理セシム

長官ハ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十條　長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ所轄官廳ニ委任スルコトヲ得

第十一條　樺太廳ニ長官官房及左ノ三部ヲ置ク

內務部
農林部
警察部

長官官房及各部ノ事務分掌ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十二條　樺太廳管內須要ノ地ニ樺太廳支廳ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十三條　部長ハ長官ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條　警察部長ハ事務ノ執行ニ關シ長官ノ命ヲ承ケ警視警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第十五條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十六條　支廳長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十七條　支廳長ハ法律命令ニ依リ又ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ得

第十八條　支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ上席屬其ノ職務ヲ代理ス

第十九條　支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十九條ノ二　警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察及衛生ニ關スル事務ヲ掌リ部下ノ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十一條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ニ從事ス

第二十三條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ從事シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十四條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十五條　（削除）

第二十六條　（削除）

第二十七條　森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ從事ス

第二十八條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十九條　長官ハ支廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲支廳出張所ヲ置クコトヲ得其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第三十條　支廳出張所長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第三十一條　樺太廳管內須要ノ地ニ警察署ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第三十二條　警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ地方ノ狀況ニ依リ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部內ノ警察及衛生ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三十三條　樺太廳ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年勅令第六十二號及大正五年勅令第二百四十六號ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十年勅令第百八十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ樺太廳稅務吏ノ官ニ在ル者ハ別ニ辭令書ヲ用ヰス樺太廳屬ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●南洋廳官制

（大正十一年三月三十一日〈總、大、海、農、勅令第百七號〉遞、大臣副署）

沿革　大正一三年一一月勅令第四五三號、昭和二年六月第二〇〇號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ南洋廳官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

南洋廳官制

第一條　南洋群島ニ南洋廳ヲ置ク

第二條　南洋廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	專任一人	勅任
書記官	專任五人	奏任
事務官	專任一人	奏任
警視	專任二人	奏任
技師	專任四十七人	判任
屬〈警部警部補〉	專任十一人	判任
技手	專任十二人	判任

第三條　長官ハ內閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ部內ノ政務ヲ管理ス但シ郵便及電信ニ關スル事務ニ付テハ遞信大臣、貨幣銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣、度量衡及計量ニ關スル事務ニ付テハ商工大臣ノ監督ヲ承ク

第四條　長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條　長官ハ安寧秩序ヲ保持スル爲臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テハ前條ノ制限ヲ超ユル罰則ヲ附シタル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ發シタル命令ハ公布後直ニ內閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ勅裁ヲ得サルトキハ長官ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第六條　長官ハ其ノ管轄區域ノ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ鎭守府司令長官又ハ附近ノ海軍主席指揮官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第七條　長官ハ所部ノ職員ヲ指揮監督シ高等官ノ功過ハ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第八條　長官ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條　長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ所轄官廳ニ委任スルコトヲ得

第十條　南洋廳ノ事務分掌ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十一條　南洋廳管內須要ノ地ニ南洋廳支廳ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十二條　長官ハ支廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲支廳出張所ヲ置クコトヲ得其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第十三條　書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ廳務ヲ掌理ス

第十四條　事務官ハ支廳長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十五條　支廳長ハ事務官、屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十六條　支廳長ハ部內ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ支廳令ヲ發スルコトヲ得

第十七條　支廳出張所長ハ屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第十八條　警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察、衛生及監獄ノ事務ヲ掌リ其ノ執行ニ關シ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第十九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十條　屬ハ支廳長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條　警部ハ支廳長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生及監獄ノ事務ニ從事シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十二條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十三條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衞生及監獄ノ事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十四條　氣象ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲南洋廳ニ觀測所ヲ置ク其ノ名稱及位置ハ長官之ヲ定ム

觀測所長ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第二十五條　南洋廳ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ノ定員ハ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第二百六十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ臨時南洋群島防備隊ニ在勤スル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ海軍書記生ハ南洋廳屬ニ、海軍警部ハ南洋廳警部ニ、海軍技官補ハ南洋廳技手ニ、海軍警部補ハ南洋廳警部補ニ、海軍巡査ハ南洋廳巡査ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

第二編　官　規

第一章　官等、諸給

●高等官官等俸給令

（明治四十三年三月二十八日勅令第百三十四號）總、大臣副署

沿革　明治四三年四月勅令第二〇八號、五月第二三七號、六月第二八七號、第二九一號、第二九八號、七月第三六〇號、九月第三七七號、一〇月第四二二號、一二月第四四二號、四四年三月第一九號、第六〇號、四月第七五號、第一〇四號、第一〇六號、五月第一三七號、第一四六號、第一五二號、七月第二〇六號、第二一一號、八月第二二七號、一〇月第二五八號、第二六四號、一一月第二七七號、四五年一月第二號、三月第四五號、第六七號、四月第八二號、第一〇三號、大正二年四月第五八號、五月第七八號、六月第二一四號、一一月第三〇一號、一二月第三一一號、三年四月第六四號、五月第七三號、第七七號、第九三號、第九七號、六月第一二七號、第一三四號、一〇月第二一七號、第二三三號、一一月第二五三號、第二五六號、四年二月第八號、三月第二九號、五月第五九號、第六七號、第七五號、六月第九九號、七月第一〇五號、第一一三號、第一三四號、第一四一號、第一四三號、八月第一五〇號、第一五三號、一二月第二一七號、第二三二號、五年一月第一號、第七號、二月第一二號、三月第三一號、第五三號、第五六號、四月第八三號、第九五號、第一〇〇號、第一〇三號、五月第一三二號、第一四四號、第一四六號、第一五〇號、六月第一六八號、七月第一七四號、一〇月第二二九號、一二月第二四三號、六年一月第六號、二月第二一號、第二六號、四月第四〇號、五月第五一號、第五四號、六月第五六號、七月第八五號、八月第九六號、第一〇〇號、第一〇九號、第一二一號、九月第一三一號、第一五〇號、第一七三號、一〇月第一七七號、第一八六號、七年一月第三號、三月第二六號四月第五二號、第九四號、第一〇四號、第一〇五號、第一〇九號、五月第一二五號、第一三八號、第一四九號、第一五九號、第一六八號、第七七一號、六月第一八〇號、第一九二號、第二〇一號、第二二〇號、第二二五號、第二四一號、第二五二號、第二五八號、七月第二七一號、第二八八號、第二九二號、八月第三〇七號、第三二七號、九月第三四二號、第三五六號、一一月第三七七號、第三八四號、八年四月第七三號、第九一號、第九四號、第九六號、第一二八號、第一四七號、第一六四號、五月第一八一號、第二〇四號、第二〇六號、第二二一號、第二二四號、第二五一號六月第二八六號、第二九六號、第三〇〇號、第三〇二號、第三一〇號、第三一六號、七月第三二一號、第三二四號、第三二七號、第三三五號、第三五一號、八月第三八四號、第三九九號、一〇月第四三八號、第四四七號、九年一月第一二號、三月第六一號、四月第七六號、第八六號、第九一號、第一二三號、五月第一二八號、第一五七號、七月第二二五號、八月第二四二號、第二五七號、第三一六號、九月第三五三號、第三六四號、第三七七號、第三九二號、第四〇四號、第四一八號、第四二四號、第四二八號、一〇月第四五一號、第四六二號、第四七九號、第四九六號、第五〇五號、第五一二號、一二月第五五九號、第五六五號、第五七二號、一〇年二月第二四號、三月第二九號、第五四號、四月第七九號、第一一四號、第一四一號、第一六六號、第一六九號、五月第一八六號、第二〇三號、第二二六號、六月第二五二號、第二五八號、第二六六號、第二八七號、七月第三〇二號、第三一七號、第三四九號、第三五二號、八月第三六四號、第三八八號、九月第四一〇號、一〇月第四二〇號、一二月第四七〇號、一一年一月第三號、三月第七三號、第九三號、第一一五號、第一四四號、第一五三號、第一五六號、第一五九號、第一六一號、四月第二二五號、第二三六號、第二三九號、五月第二七三號、第二八一號、第二八七號、六月第三一三號、八月第三七三號、九月第四一四號、第四一九號、一〇月第四三五號、第四五五號、一一月第四六九號、第四八六號、第四九〇號、一二年二月第三六號、三月第七七號、第九六號、第一一〇號、第一一五號、第一二二號、四月第一四七號、第一五一號、第一九三號、五月第二〇五號、第二一二號、第二四〇號、第二四六號、第二六五號、第二八二號、六月第二九一號、第二九七號、第三〇三號、七月第三五二號、八月第三七三號、第三八三號、第三九一號、九月第四二六號、一〇月第四三五號第四五五號、一一月第四八四號、第四八六號、第四九二號第四九六號、一三年二月第二七號、第三七號、三月第六一號、四月第六七號、五月第一〇六號、第一三六號、八月第一八七號、九月第二〇五號、第二一七號、一〇月第二三二

號、一一月第二七六號、一二月第四〇〇號、第四五六號、一四年三月第二二號、第四四號、四月第九三號、第一四六號、五月第一七三號、第一八〇號、第一八六號、第二〇六號、六月第二一九號、九月第二八三號、一五年二月第七號四月第五〇號、五月第一〇五號、第一二〇號、六月第一五〇號、第一六六號、第一八一號、第一九五號、第二二六號、八月第二七三號、第二八五號、一〇月第三一七號、昭和二年三月第二二號、四月第五五號、第七八號、五月第一二五號、第一三五號、第一四二號、六月第一八七號、第一九四號、第二〇五號、七月第二一七號、第二三〇號、一〇月第三〇九號、一一月第三一七號、一二月第三四五號、第三六九號、三年一月第五號、三月第二五號、第三五號、第五一號、五月第九八號、七月第一三九號、第一七七號、第一八五號、八月第二〇九號、一〇月第二三六號、第二五八號改正

朕高等官官等俸給令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等官官等俸給令

第一條　親任式ヲ以テ敍任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ敍任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條　奏任官ノ任免及敍等ハ內閣總理大臣之ヲ奏薦シ其ノ各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ內閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第三條　高等官ノ高等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシムル官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第四條　初メテ高等文官ニ任セラルル者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラルル場合ニ於テハ其ノ官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官官等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第五條　高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ陞敍スルコトヲ得ス

陸海軍武官ヲ其ノ部內ノ文官ニ任用シタル場合ニ於テハ武官在職ノ年數ハ之ヲ前項ノ在職年數ニ通算ス

第六條　親任式ヲ以テ敍任スル官、內閣書記官長、特命全權公使及辨理公使ニ任セラルル場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ文官任用令(第一條第四項)ノ規定ニ依リ勅任文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ第四條ノ規定ヲ適用セス

第七條　親任式ヲ以テ敍任スル文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

內閣總理大臣	年俸　一萬二千圓
各省大臣 朝鮮總督 樞密院議長 特命全權大使 判事 檢事 臺灣總督 關東長官 會計檢査院長 行政裁判所長官 樞密院副議長 朝鮮總督府政務總監 樞密顧問官	年俸　八千圓
帝國大學總長 製鐵所長官 京城帝國大學總長 臺北帝國大學總長 北海道廳長官 內閣書記官長 法制局長官	年俸　七千圓
帝國大學總長 製鐵所長官 京城帝國大學總長 臺北帝國大學總長 北海道廳長官 內閣書記官長 法制局長官	年俸　六千五百圓

第八條　勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

各省政務次官 各省次官 復興局長官 內務技監 製鐵所技監 朝鮮總督府判事長タルモノ 臺灣總督府總務長官 警視總監 資源局長官 社會局長官 海外駐剳財務官 專賣局長官 特許局長官	年俸　六千五百圓
臺灣總督府法院判官高等法院長タルモノ	年俸　一級　六千五百圓 二級　五千七百圓
特命全權公使 大使館參事官 大使館商務參事官 國際勞働機關帝國事務所長 判事　大審院部長、控訴院長タルモノ 檢事　大審院檢事タルモノ 會計檢査院部長　四人檢事長タルモノ 行政裁判所評定官部長タル者	年俸　一級　六千五百圓 二級　五千七百圓 三級　五千二百圓

朝鮮總督府各局長
朝鮮總督府遞信局長
朝鮮總督府鐵道局長
朝鮮總督府檢事　高等法院檢事長タルモノ
臺灣總督府法院檢察官　高等法院檢察官長タルモノ
官立大學長
旅順工科大學長
樺太廳長官
南洋廳長官
府縣知事
朝鮮總督府道知事
年俸　一級　六千圓
二級　五千五百圓
三級　五千二百圓

賞勳局總裁
樞密院書記官長
陸軍法務官　高等軍法會議法務官タル者
海軍法務官　高等軍法會議法務官タル者
製鐵所理事　總務部長タルモノ
朝鮮總督府專賣局長　高等法院長、覆審法院長
年俸　五千五百圓

年俸　一級　五千七百圓
二級　五千二百圓

タルモノ
朝鮮總督府檢事　覆審法院檢事長タルモノ
臺灣總督府交通局總長
關東廳法院判官
貴族院書記官長
衆議院書記官長
年俸　一級　六千圓
二級　五千五百圓
三級　五千二百圓
四級　四千八百圓

各廳技師
內閣恩給局長
內閣拓殖局長
內閣統計局長
內閣印刷局長
各省參與官
各省局長
外務省情報部長
辨理公使
總領事
復興局部長
社會局部長
造幣局長
年俸　五千二百圓

貯金局長
簡易保險局長
朝鮮總督府山林部長
朝鮮總督府土地改良部長
臺灣總督府各局長
臺灣總督府專賣局長
臺灣總督府州知事
法制局參事官
內務事務官
銀行檢査官
營繕管財局理事
稅關長
稅務監督局長
專賣局部長
專賣局理事
陸軍法務官
千住製絨所長
海軍法務官
營林局事務官
保險事務官
特許局事務官
鑛山監督局長
製鐵所理事
製鐵所醫官
遞信局長
燈臺局長
鐵道監察官
鐵道局長
朝鮮總督府事務官
朝鮮總督府鐵道局理事
朝鮮總督府道參與官
朝鮮道立醫院醫官
臺灣總督府事務官
臺灣總督府交通局理事
臺灣總督府醫院醫長
臺灣總督府諸學校長
關東廳各局長
關東廳事務官
關東廳法院檢察官
北海道廳部長　內務部長、土木部長タルモノ
神宮皇學館長
陸軍教授
海軍教授
判事　大審院判事、控訴院判事、地方裁判所長部長
年俸　一級　五千二百圓
二級　四千八百圓

タルモノ
大審院檢事、控訴院檢事、檢事正タルモノ
文部省直轄諸學校長
朝鮮總督府判事高等法院判事、覆審法院部長、地方法院長タルモノ
朝鮮總督府檢事高等法院檢事、覆審法院檢事、地方法院檢事正タルモノ
朝鮮總督府專門學校長
臺灣總督府法院判官高等法院上告部判官、地方法院長タルモノ
臺灣總督府法院檢察官長、地方法院檢察官長タルモノ
檢査官
行政裁判所評定官

年俸（一級五千二百圓　二級四千八百圓　三級四千五百圓）

第九條　勅任文官親任式ヲ以テ敍任スル文官ヲ除クニシテ五年以上其ノ官ノ最高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ勅任文官親任式ヲ以テ敍任スル文官ヲ除クノ在職年數ニシテ現官ノ最高俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ最高俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ勅任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第九條ノ二　高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニシテ三年以上（各省參與官ニ在リテハ二年以上）高等官二等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ高等官一等ニ陞敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ノ高等官二等以上ノ在職年數ハ之ヲ現官ノ高等官二等ノ在職年數ニ通算ス

前官高等官一等ノ勅任文官ニ在リタル者ヲ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官一等ニ敍スルコトヲ得

第十條　神宮皇學館教授、陸軍大學校及海軍大學校以外ノ陸軍及海軍諸學校教官タル陸軍教授若ハ海軍教授又ハ督學官ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

文部省直轄諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ六十人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

北海道帝國大學豫科、附屬土木專門部、附屬水產專門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各科ヲ通シテ三人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

東京商科大學豫科教授又ハ東京商科大學附屬商學專門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ二人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

官立醫科大學附屬藥學專門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

京城帝國大學豫科教授又ハ朝鮮總督府專門學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

臺北帝國大學附屬農林專門部教授又ハ臺灣總督府諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ二人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

旅順工科大學豫科教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

第十一條　各廳ニ於テ勅任技師ヲ置クコトヲ要スルモノハ官制ニ於テ之ヲ定ム

第十二條　奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ依ル

第十三條　別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等乃至七等、同第二號ニ依ルモノハ高等官四等乃至八等、同第三號ニ依ルモノハ高等官五等以下トス

第十四條　別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ

内閣書記官
内閣總理大臣祕書官
内閣恩給局書記官
内閣拓殖局書記官
内閣統計局書記官
内閣統計局統計官
内閣印刷局書記官
法制局參事官
賞勳局書記官
資源局書記官
資源局統計官
樞密院書記官
樞密院議長祕書官
各省大臣祕書官
各省書記官
外務事務官
外務省飜譯官
外務省電信官
内務事務官
考證官

防疫官
復興局書記官
社會局書記官
社會局事務官
國際勞働機關帝國事務所事務官
神宮皇學館教授
警察講習所教授
國立癩療養所醫官
大藏事務官
銀行檢査官
營繕管財局書記官
造幣局書記官
專賣局參事
釀造試驗所事務官
稅關事務官
植物檢査官
稅關港務官（港務部長タルモノ）
稅務監督局書記官
陸軍司法事務官
陸軍法務官
千住製絨所事務官
海軍司法事務官
海軍法務官
司法省衞生官
判事
檢事
少年審判官
矯正院敎官（矯正院長タルモノ）
文部事務官
圖書事務官
圖書監修官
學校衞生官
帝國大學書記官
帝國大學醫學部附屬醫院藥局長
官立大學附屬醫院藥局長
臨時敎員養成所敎授
農林事務官
農林省統計官
農林省小作官
營林局事務官
水產講習所敎授
商工事務官
商工省統計官
保險事務官

輸出品監督官
特許局事務官
鑛山監督局書記官
製鐵所參事
製鐵所醫官
航空官
貯金局書記官
簡易保險局書記官
遞信局書記官
通信技師
燈臺局書記官
高等海員審判所審判官
高等海員審判所理事官
地方海員審判所審判官
地方海員審判所理事官
鐵道監察官
鐵道局參事
朝鮮總督府祕書官
朝鮮總督府事務官
朝鮮總督府中樞院書記官
朝鮮總督府修史官
朝鮮總督府視學官
朝鮮總督府遞信事務官
朝鮮總督府遞信技師
朝鮮總督府鐵道局參事
朝鮮總督府專賣局事務官
朝鮮總督府判事
朝鮮總督府檢事
京城帝國大學醫學部附屬醫院藥劑官
朝鮮總督府諸學校長（專門學校長ヲ除ク）
朝鮮總督府林野調査委員會事務官
朝鮮公立師範學校長
朝鮮公立中學校長
朝鮮公立高等女學校長
朝鮮公立高等普通學校長
朝鮮公立女子高等普通學校長
朝鮮公立實業學校長
朝鮮總督府道事務官
朝鮮總督府道慈惠醫院醫官
朝鮮道立醫院醫官
臺灣總督祕書官
臺灣總督府事務官
臺灣總督府視學官
臺灣總督府法院判官

臺灣總督府法院檢察官
臺灣總督府交通局參事
臺灣總督府專賣局參事
臺灣總督府稅關事務官
臺灣公立中學校長
臺灣公立高等女學校長
臺灣總督府師範學校長
臺灣公立實業學校長
臺灣總督府醫院醫長
臺灣總督府州事務官
臺灣總督府廳長
臺灣督府地方技師
關東長官祕書官
關東廳事務官
關東廳法院判官
關東廳法院檢察官
關東廳醫院醫官
關東廳海務局技師
關東廳遞信事務官
關東廳遞信技師
關東廳中學校長
關東廳高等女學校長

旅順師範學堂長
關東州公立高等女學校長
關東州公立實業學校長
樺太廳各部長
樺太廳醫院醫長
樺太廳鐵道技師
樺太廳通信技師
樺太廳中學校長
樺太廳高等女學校長
樺太公立高等女學校長
南洋廳書記官
南洋廳判事
南洋廳檢事
南洋廳醫院醫長
南洋廳通信技師
檢査官
會計檢査院書記官
行政裁判所評定官
貴族院書記官
衆議院書記官
警視廳書記官
北海道廳部長

各府縣書記官
各廳技師
地方技師

第十五條　別表第二表第二號ニ依ル諸官左ノ如シ

外務理事官
外務省警視
土木事務官
復興局事務官
都市計畫地方委員會事務官
職業紹介事務局事務官
癈兵院事務官
健康保險署事務官
造神宮主事
國立感化院院醫
癈兵院院醫
移民收容所醫官
主稅局事務官
營繕管財局事務官
專賣局副參事
稅關鑑査官
關稅官
稅務監督局事務官

司稅官
陸軍通譯官
隆軍事務官
陸地測量師
陸軍監獄長
海軍通譯官
海軍編修
海軍事務官
海軍監獄長
司法省事務官
裁判所通譯官
供託局事務官
典獄小菅、市谷、豐多摩、巢鴨、大阪、名古屋、廣島長崎、宮城、札幌ノ刑務所ノ長タル者ヲ除ク
少年保護司
矯正院教官
矯正院醫官
維新史料編纂官
東京博物館學藝官
帝國大學事務官
帝國大學司書官
航究研究所事務官
官立大學事務官

產業組合事務官
農林省山林事務官
營林局山林事務官
營林署山林事務官
度量衡事務官
製鐵所副參事
遞信省事務官
貯金局事務官
簡易保險局事務官
遞信局事務官
通信事務官
鐵道省事務官
鐵道局副參事
朝鮮總督府土木事務官
朝鮮總督府山林事務官
朝鮮總督府編修官
朝鮮總督府通譯官
朝鮮總督府中樞院通譯官
朝鮮總督府圖書館長
朝鮮總督府警察官講習所教授
朝鮮總督府遞信副事務官
朝鮮總督府鐵道局副參事

朝鮮總督府專賣局副事務官
朝鮮總督府營林署山林事務官
朝鮮總督府稅關關稅官
朝鮮總督府稅關鑑査官
朝鮮總督府典獄ノ監獄ノ長タル者ヲ除ク（京城、西大門、平壤、大邱）
京城帝國大學事務官
京城帝國大學司書官
朝鮮總督府諸學校教諭
朝鮮總督府鐵道從事員養成所教諭
朝鮮總督府林野調査委員會副事務官
朝鮮公立師範學校教諭
朝鮮公立中學校教諭
朝鮮公立高等女學校教諭
朝鮮公立高等普通學校教諭
朝鮮公立女子高等普通學校教諭
朝鮮公立實業學校教諭（京城、大邱、釜山、平壤）
朝鮮總督府尹ノ府尹タルモノヲ除ク
朝鮮總督府郡守
朝鮮總督府島司
朝鮮總督府道理事官
朝鮮總督府道警視
朝鮮總督府府理事官

臺灣總督府土木事務官
臺灣總督府統計官
臺灣總督府編修官
臺灣總督府警視
臺灣總督府飜譯官
臺灣總督府中央研究所事務官
臺灣總督府交通局副參事
臺灣總督府專賣局副參事
臺灣總督府稅關鑑定官
臺北帝國大學事務官
臺北帝國大學司書官
臺灣總督府諸學校教諭
臺灣公立中學校教諭
臺灣公立高等女學校教諭
臺灣公立實業學校教諭
臺灣總督府警察官及司獄官練習所教官
臺灣總督府圖書館長
臺灣總督府醫院醫官
臺灣總督府醫院藥局長
臺灣總督府結核療養所醫官
臺灣總督府州港務官
臺灣總督府州港務醫官

臺灣總督府典獄
臺灣總督府地方理事官（臺北市尹タルモノヲ除ク）
臺灣總督府地方警視
關東廳理事官
關東廳警視
關東廳飜譯官
關東廳典獄
關東廳遞信副事務官
關東廳專賣局理事官
旅順工科大學事務官
關東廳中學校教諭
關東廳高等女學校教諭
旅順師範學堂教諭
關東州公立高等女學校教諭
關東州公立實業學校教諭
樺太廳事務官
樺太廳鐵道事務官
樺太廳醫院醫官
樺太廳通信事務官
樺太廳中學校教諭
樺太廳高等女學校教諭
樺太公立高等女學校教諭

樺太廳支廳長
樺太廳警視
南洋廳事務官
南洋廳警視
南洋廳醫院醫官
副檢査官
警視廳事務官
警視廳警視
北海道廳事務官
北海道廳視學官
北海道廳警視
北海道廳小作官
地方事務官
地方視學官
地方警視
地方小作官

第十六條　別表第二表第三號ニ依ル諸官左ノ如シ

神宮皇學館教諭
國立感化院教諭
裁判所書記長
典獄補
帝國圖書館司書官
朝鮮總督府裁判所書記長
朝鮮總督府裁判所通譯官
朝鮮總督府典獄補
朝鮮總督府濟生院主事
朝鮮總督府感化院教諭
朝鮮總督府道通譯官
朝鮮道立醫院教官
朝鮮道立醫院事務官
朝鮮道立醫院藥劑官
臺灣總督府法院書記長
臺灣總督府法院通譯
臺灣總督府典獄補
臺灣公立盲唖學校長
關東廳典獄補
貴族院速記士
衆議院速記士
貴族院守衛長
衆議院守衛長

第十七條　在外公館職員タル高等文官ノ年俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第三表ニ依ル

大使館一等書記官、公使館一等書記官、大使館商務書記官、公使館商務書記官、奏任官タル總領事、領事又ハ貿易事務

官ニシテ五年以上年俸四千五百圓ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ニシテ年俸四千五百圓以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ年俸四千五百圓ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ第二項ニ掲クル官ニ任スル際ハ特ニ第二項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

大使館理事官、公使館理事官又ハ副領事ニシテ三年以上高等官五等ニ在リ功績顯著ナル者ハ一等ヲ陞敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ高等官五等以上ノ在職年數ハ之ヲ前項ニ規定スル在職年數ニ通算ス

第二十條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第五項ノ規定ニ依リ一等ヲ陞敍セラレタル大使館理事官、公使館理事官又ハ副領事ニハ年俸三千八百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第十八條　前數條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外高等文官ノ年俸ハ別表第四表又ハ第五表ニ依ル但シ別段ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　別表第二表第一號乃至第三號又ハ別表第五表ニ依ル奏任文官ニシテ五年以上各其ノ官ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ニシテ現官ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ一級俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ奏任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第二十條　高等官四等又ハ高等官五等ヲ最高官等トスル奏任文官外交官ヲ除クニシテ三年以上各其ノ官ノ最高官等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ一等ヲ陞敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ高等官四等以上ノ在職年數ハ之ヲ高等官四等ヲ最高官等トスル現官ノ最高官等ノ在職年數ニ、高等官五等以上ノ在職年數ハ之ヲ高等官五等ヲ最高官等トスル現官ノ最高官等ノ在職年數ニ通算ス

第四條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル文官他ノ文官ト爲ル場合ニ於テ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ明治三十六年勅令第二百八十五號第三條ノ規定ニ依リ敍シ得ル官等ニ依ル

第二十一條　第九條ノ二第二項、第十七條第六項及前條第二項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シテ官等ヲ陞敍スル場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十一條ノ二　前官第二十條第一項ノ規定ニ依リ高等官三等ノ奏任文官ニ在リタル者ヲ高等官四等ヲ最高官等トスル

奏任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官三等ニ、前官第十七條第五項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ高等官四等ノ奏任文官ニ在リタル者ヲ高等官五等ヲ最高官等トスル奏任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官四等ニ敍スルコトヲ得

第二十二條　陸海軍武官ノ俸給ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

現役武官ニシテ高等文官タル者其ノ武官トシテ受クヘキ俸給額カ文官トシテ受クヘキ俸給額ヨリ多キトキハ武官ノ俸給額ヲ其ノ所屬廳ニ於テ給スルコトヲ得

第二十二ノ二　豫備判事又ハ豫備檢事ヲ命セラレタル判事、檢事、朝鮮總督府判事及朝鮮總督府檢事ノ俸給ハ十一級以下トス

第二十三條　高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍內ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭ケタル順序ニ依リ同順位內ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

終身官ニ付テハ其ノ在職中死亡シタル場合ニ限リ前三項ノ規定ヲ適用ス

第二十四條　年俸ハ十二分シテ每月之ヲ支給ス

第二十五條　俸給ハ新任增俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス但シ廢官又ハ廢廳ニ因ル退官者卽日他官ニ任セラルルトキハ發令ノ當日ヨリ計算ス

休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸全額ヲ給セサル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十六條　俸給令ノ改正ニ因リ新ニ給スヘキ俸給ハ改正規定施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第二十七條　廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第二十八條　休職廢官退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ受ケ事務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ間仍從前ノ年俸ヲ給ス

第二十九條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治二十四年勅令第九十六號
明治二十四年勅令第九十八號
府縣立師範學校長官等及俸給令
明治二十七年勅令第十八號
明治二十九年勅令第百六十一號
技術官俸給令
明治三十二年勅令第九十四號
明治三十二年勅令第百二十八號
明治三十二年勅令第二百六十八號
在外公館職員官等令
陸軍所屬特別文官俸給令
警視廳高等官俸給令
明治三十三年勅令第二百五十九號
帝國圖書館高等官官等俸給令
臺灣總督府職員官等俸給令
港務部高等官俸給令
典獄俸給令
北海道廳高等官俸給令
地方高等官俸給令
統監府及理事廳高等官官等令
關東都督府職員官等給與令
明治四十年勅令第二十八號

樺太廳職員官等給與令
統監府所屬官署技師官等給與令
統監府營林廠職員官等給與令
明治四十年勅令第百四號
統監府特許局職員官等俸給令
關東都督府中學校職員官等俸給令
旅順工科學堂高等官官等俸給令
統監府司法廳職員官等給與令
統監府裁判所書記長、統監府裁判所通譯官、統監府裁判所書記、統監府裁判所通譯生及統監府監獄職員官等給與令
統監府警視警部官等給與令

本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ俸給額ヲ受クル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ官等ニ拘ラス各其ノ相當下欄ノ俸給額又ハ之ニ相當スル級俸ヲ給スルモノトス

現行俸給	改正俸給
五、〇〇〇圓	六、〇〇〇圓
四、五〇〇	五、五〇〇
四、〇〇〇	五、〇〇〇
三、六〇〇	四、五〇〇

三、五〇〇	四、二〇〇	一、一〇〇	九〇〇
三、三〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	八〇〇
三、〇〇〇	三、七〇〇	八五〇	七〇〇
二、八〇〇	三、五〇〇	七五〇	六〇〇
二、六〇〇	三、二〇〇	六〇〇	五〇〇
二、五〇〇	三、〇〇〇	五五〇	四五〇
二、四〇〇		五〇〇	四〇〇
二、二〇〇	二、七〇〇	四〇〇	三〇〇
二、〇〇〇	二、五〇〇		
一、八〇〇	二、二〇〇		
一、六〇〇	二、〇〇〇		
一、五〇〇	一、八〇〇		
一、四〇〇	一、七〇〇		
一、三〇〇	一、六〇〇		
一、二〇〇	一、五〇〇		
一、一〇〇	一、三〇〇		
一、〇〇〇	一、二〇〇		

年功加俸、在勤加俸、加俸、在勤俸、職務俸ハ前項上欄ノ額ニ算入セス

現ニ各種ノ加俸ヲ受クル者本令ニ該當スル場合ニ於テ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ其ノ加俸ノ額ハ從前ノ額ニ依ル

舊俸給令ニ依リ一級俸又ハ各官ノ最高俸ヲ受ケタル年數ハ第二十三條第一項第二項、第二十六條及第二十八條第二項ノ年數中ニ通算ス但シ舊俸給令ノ一級俸又ハ各官ノ最高俸カ第三項ノ規定ニ依リ改正二級俸以下ニ對當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

舊俸給令ニ依ル各官ノ最高俸以下ノ俸給カ第三項ノ規定ニ依リ改正一級俸ニ對當スル場合ニ於テハ第二十三條第一項第二

項ノ年數ハ在職者カ其ノ官ノ最高官等ニ達シタルトキヨリ起算ス

舊俸給令ニ依ル各官ノ最高俸以下ノ俸給カ第三項ノ規定ニ依リ改正一級俸以上ノ額ニ對當スル場合亦前項ニ同シ但シ本俸ト年功加俸トノ總額ハ改正一級俸ト第二十三條第一項第二項ノ規定ニ依ル年功加俸トノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

本令ニ依リ從前ノ官等ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ於テ現ニ本令ニ存セサル官等ニ在ル者ハ本令施行ノ際ノ在官者ニ限リ其ノ官等ヲ存スルモノトス

現ニ最低額以下ノ俸給ヲ受クル者、休職中ノ者及本俸全額ヲ給セラレサル待命中ノ者ノ俸給額ハ從前ノ額ニ依ル

本令公布前ニ公布セラレタル勅令ニ於テ高等官官等俸給令第七條又ハ第八條ヲ援用シタルモノハ本令第四條又ハ第五條ヲ援用シタルモノト看做ス

（第一表）

文官高等官官等表

勅任									奏任								
官廳	官等	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等						
內閣	內閣總理大臣																
	內閣書記官長																
	同																
	上																
	恩給局長																
	拓殖局長																
	統計局長																
	印刷局長																
	印刷局技師																
	法制局長官																
	同																
	上																

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
閣			法制局參事官							
		賞勲局總裁	同上							
		資源局長官	同上							
樞密院	樞密院議長									
	樞密院副議長									
	樞密顧問官									
		樞密院書記官長	同上							
外	外務大臣									
		政務次官	同上							
		外務次官	同上							
			參與官							
			各局長							
			情報部長							
	特命全權大使									
		特命全權公使	同上							
		大使館參事官	同上							
		大使館商務參事官	同上							
			辨理公使							
務				大使館一等書記官	同上					
				公使館一等書記官	同上					
					大使館二等書記官	同上				
					公使館二等書記官	同上				
						大使館三等書記官	同上			
						公使館三等書記官	同上			
				大使館商務書記官	同上	同上	同上	同上		
				公使館商務書記官	同上	同上	同上	同上		
			總領事	同上	同上					
				領事	同上	同上	同上			
				貿易事務官	同上	同上	同上			
省						大使館理事官	同上	同上		
						公使館理事官	同上	同上		
						副領事	同上	同上		
						大使館一等通譯官	同上			
						公使館一等通譯官	同上			
								大使館二等通譯官		
								公使館二等通譯官		

							外交官補	同上		
							領事官補	同上		
内務省	内務大臣									
		政務次官	同上							
		内務次官	同上							
			參與官							
			各局長							
			内務事務官							
		内務技監	同上							
		復興局長官	同上							
			復興局部長							
		社會局長官	同上							
			社會局部長							
		國際勞働機關帝國事務所長	同上							
			各廳技師							
			造神宮副使							
				國立感化院教諭	同上	同上	同上	同上		

				國立感化院長タルモノ						
			神宮皇學館長	同上	同上	同上				
大藏省	大藏大臣									
		政務次官	同上							
		大藏次官	同上							
			參與官							
		海外駐劄財務官	同上							
			各局長							
			銀行檢查官							
			營繕管財局理事							
			造幣局長							
			各廳技師							
		專賣局長官	同上							
			專賣局部長							
			專賣局理事							
			稅關長	同上	同上					
						稅關港務官 稅關港務部長タルモノ	同上	同上	同上	

省									
省					ヲ除ク				
省					稅關醫官	同上	同上	同上	
省					稅關獸醫官	同上	同上	同上	
省			稅務監督局長	同上	同上				
陸軍省	陸軍大臣								
陸軍省		政務次官	同上						
陸軍省		陸軍次官	同上						
陸軍省			參與官						
陸軍省			法務局長						
陸軍省	陸軍大將	陸軍中將 陸軍中將相當官	陸軍少將 陸軍少將相當官	陸軍大佐 陸軍大佐相當官	陸軍中佐 陸軍中佐相當官	陸軍少佐 陸軍少佐相當官	陸軍大尉 陸軍大尉相當官	陸軍中尉 陸軍中尉相當官	陸軍少尉 陸軍少尉相當官
陸軍省		陸軍法務官	同上						
陸軍省			陸軍司法事務官						
陸軍省			各廳技師						
陸軍省			千住製絨所長	同上					
陸軍省			陸軍教授	同上	同上	同上	同上	同上	
海軍省	海軍大臣								
海軍省		政務次官	同上						
海軍省		海軍次官	同上						
海軍省			參與官						
海軍省			法務局長						
海軍省	海軍大將	海軍各科中將	海軍各科少將	海軍各科大佐	海軍各科中佐	海軍各科少佐	海軍各科大尉 海軍各科特務大尉	海軍各科中尉 海軍各科特務中尉	海軍各科少尉 海軍各科特務少尉
海軍省				海軍豫備大佐 海軍豫備機關大佐	海軍豫備中佐 海軍豫備機關中佐	海軍豫備少佐 海軍豫備機關少佐	海軍豫備大尉 海軍豫備機關大尉	海軍豫備中尉 海軍豫備機關中尉	海軍豫備少尉 海軍豫備機關少尉
海軍省									海軍豫備特務少尉 海軍豫備機關特務少尉
海軍省		海軍法務官	同上						
海軍省			海軍司法事務官						
海軍省			各廳技師						
海軍省			海軍教授	同上	同上	同上	同上	同上	
司法省	司法大臣								
司法省		政務次官	同上						
司法省		司法次官	同上						
司法省			參與官						
司法省			各局長						
司法省			司法技師						

省	部																	
法省	文部																	
判事	同	上	帝國大學豫科教授	同	上	同	上	官立大學長	同	上	官立大學教授	同	上	帝國大學附屬專門部教授	同	上	史科編纂官	同
檢事	同	上	文部省直轄諸學校教授	同	上	同	上	文部省直轄諸學校長、東京盲學校長、東京聾啞學校長ヲ除ク	同	上	官立大學豫科教授	同	上	官立大學附屬專門部教授	同	上	官立大學主事	同
典獄ル所者	小菅、谷、大阪、摩古屋、宮城、島ノ巣、幌ノ豐長、名鴨廣崎札多市ノ刑務	同	文部省直轄諸學校生徒	同	上	東京盲學校長	同	東京聾啞學校長	同	上	官立大學助教授	同	上	帝國大學學生主事	同	上		

文部大臣	政務次官	同	上	文部次官	同	上	參與官	各局長	督學官	同	上	各廳技師	帝國大學總長	同	上	帝國大學教授	同	上

	文部省直轄諸學校教諭	同上
	帝國圖書館長	同上
	東京博物館長	同上

農林省

農林大臣		
政務次官	同上	
農林次官	同上	
參與官		
各局長		
各廳技師		
營林局事務官		

商工

商工大臣		
政務次官	同上	
商工次官	同上	
參與官		
各局長		
保險事務官		
特許局長官	同上	
特許局事務官		

省

各廳技師		
鑛山監督局長	同上	
製鐵所長官	同上	
製鐵所理事總務部長タルモノ	同上	
製鐵所理事	同上	
製鐵所技監	同上	
製鐵所醫官		

遞信省

遞信大臣		
政務次官	同上	
遞信次官	同上	
參與官		
各局長		
各廳技師		
貯金局長		
簡易保險局長		
遞信局長		
燈臺局長	同上	

鐵道	鐵道大臣		
	政務次官	同	上
	鐵道次官	同	上
	參與官		
省	各局長		
	鐵道監察官		
	各廳技師		
	鐵道局長		
會計檢査院	會計檢査院長		
	會計檢査院部長	同	上
	檢査官		
行政裁判所	行政裁判所長官		
	行政裁判所評定官	同	上
朝鮮	朝鮮總督		
	政務總監		
	各局長	同	上
	山林部長		
	土地改良部長		

朝鮮總督	事務官		
	各廳技師		
	遞信局長	同	上
	鐵道局長	同	上
	鐵道局理事		
	專賣局長	同	上
	稅關長	同	上
	道知事	同	上
	道參與官	同	上
	朝鮮道立醫院		
	道港務醫官	同	上
	道獸醫官	同	上
	府尹	同	上
	京城、釜山大邱平壤ノ府尹タルモノ	同	上
	判事	同	上
	檢事	同	上
	典獄		

府				京城、西大門、平壤、大邱ノ監獄ノ長タル者	同上	同上				
府		京城帝國大學總長	同上							
府		京城帝國大學教授	同上	同上	同上	同上	同上			
府				京城帝國大學助教授	同上	同上	同上	同上		
府			京城帝國大學豫科教授	同上	同上	同上	同上	同上		
府			專門學校長	同上	同上	同上				
府			專門學校教授	同上	同上	同上	同上	同上		
臺灣	臺灣總督									
臺灣		總務長官	同上							
臺灣			各局長							
臺灣			事務官							
臺灣			各廳技師							
臺灣		交通局總長	同上							
臺灣			交通局理事	同上	同上					
臺灣					測候所技師	同上	同上	同上	同上	同上
臺灣			專賣局長							

總督府				稅關長	同上					
總督府			州知事							
總督府				地方理事官臺北市尹タルモノ	同上	同上				
總督府		法院判官	同上							
總督府		法院檢察官	同上							
總督府		臺北帝國大學總長	同上							
總督府		臺北帝國大學教授	同上	同上	同上	同上	同上			
總督府				臺北帝國大學助教授	同上	同上	同上	同上		
總督府			臺北帝國大學附屬農林專門部教授	同上	同上	同上	同上	同上		
總督府			臺灣總督府諸學校長臺灣總督府臺北師範學校長ヲ除ク	同上	同上					
總督府			臺灣總督府諸學校教授	同上	同上	同上	同上	同上		
總督府			醫院醫長							
關	關東長官									
關			各局長							
關				財務部長	同上					

官廳	官職										
東廳	事務官			事務官							
	遞信局長				遞信局長	同上					
	專賣局長				專賣局長	同上	同上				
	觀測所技師					觀測所技師	同上	同上	同上	同上	同上
	旅順工科大學長		旅順工科大學長	同上							
	旅順工科大學教授		旅順工科大學教授	同上	同上	同上	同上	同上			
	旅順工科大學助教授				旅順工科大學助教授	同上	同上	同上	同上		
	旅順工科大學豫科教授			旅順工科大學豫科教授	同上	同上	同上	同上	同上		
	法院判官			法院判官							
	法院檢察官			法院檢察官							
樺太廳	長官		長官	同上							
	觀測所技師					觀測所技師	同上	同上	同上	同上	同上
南洋廳	長官		長官	同上							
警視廳	警視總監		警視總監	同上							
	消防司令						消防司令	同上	同上	同上	
北海道廳	長官		長官	同上							
	內務部長、土 部長木部長タルモノ			內務部長、土 部長木部長タルモノ							
	技師			技師							
	師範學校長					師範學校長	同上	同上	同上	同上	
府縣	知事		知事	同上							
	師範學校長					師範學校長	同上	同上	同上	同上	
貴族院事務局	貴族院書記官長		貴族院書記官長	同上							
衆議院事務局	衆議院書記官長		衆議院書記官長	同上							

（第二表）

奏任文官年俸表

級	俸 第一號	第二號	第三號
一級	四、五〇〇圓	三、八〇〇圓	三、一〇〇圓
二級	四、一〇〇	三、四〇〇	二、七〇〇
三級	三、八〇〇	三、一〇〇	二、四〇〇
四級	三、四〇〇	二、七〇〇	二、〇〇〇
五級	三、一〇〇	二、四〇〇	一、八〇〇
六級	二、七〇〇	二、〇〇〇	一、六〇〇
七級	二、四〇〇	一、八〇〇	一、四〇〇

級	官等	三等	四等	五等	六等	七等
八級	二、〇〇〇			一、六〇〇		一、二〇〇
九級	一、八〇〇			一、四〇〇		一、一〇〇
十級	一、六〇〇			一、二〇〇		一、〇〇〇
十一級	一、四〇〇			一、一〇〇		九〇〇
十二級	一、二〇〇					

（第三表）

在外公館奏任職員年俸表

官名	三等	四等	五等	六等	七等
大使館一等書記官 公使館一等書記官 領事	四、五〇〇圓	一級 四、一〇〇圓	一級 三、四〇〇圓	一級 二、七〇〇圓	一級 二、〇〇〇圓
大使館二等書記官 公使館二等書記官		一級 四、一〇〇 二級 三、八〇〇	一級 三、四〇〇 二級 三、一〇〇	一級 二、七〇〇 二級 二、四〇〇	一級 二、〇〇〇 二級 一、八〇〇
大使館三等書記官 公使館三等書記官		一級 二級	一級 三、四〇〇 二級 三、一〇〇	一級 二、七〇〇 二級 二、四〇〇	
大使館商務書記官 公使館商務書記官	四、五〇〇	一級 四、一〇〇 二級 三、八〇〇	一級 三、四〇〇 二級 三、一〇〇	一級 二、七〇〇 二級 二、四〇〇	一級 二、〇〇〇 二級 一、八〇〇
領事 貿易事務官	四、五〇〇	一級 四、一〇〇 二級 三、八〇〇	一級 三、四〇〇 二級 三、一〇〇	一級 二、七〇〇 二級 二、四〇〇	
大使館理事官 公使館理事官 副領事			一級 三、四〇〇 二級 三、一〇〇	一級 二、七〇〇 二級 二、四〇〇	一級 二、〇〇〇 二級 一、八〇〇
大使館一等通譯官 公使館一等通譯官			一級 三、四〇〇 二級 三、一〇〇	一級 二、七〇〇 二級 二、四〇〇	一級 二、〇〇〇 二級 一、八〇〇
大使館二等通譯官					一級 二、〇〇〇 二級 一、八〇〇

（第四表）

官名	級俸 一級	二級	三級	四級	五級
千住製絨所長 奏任タルモノ	四、五〇〇圓				
神宮皇學館長　奏任タルモノ 文部省直轄諸學校長　奏任タルモノ但シ東京盲學校長東京聾啞學校長ヲ除ク 製鐵所理事　奏任タルモノ 燈臺局長　奏任タルモノ 朝鮮總督府專門學校長　奏任タルモノ 朝鮮總督府道參與官　奏任タルモノ 臺灣總督府諸學校長　奏任タルモノ但シ臺灣總督	四、五〇〇	四、一〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇
公使館二等通譯官			三級 一、六〇〇圓		
外交官補 領事官補		一級 二、七〇〇 二級 二、四〇〇	二級 二、〇〇〇 一、八〇〇	四級 一、四〇〇	

府師範學校長ヲ除ク

（第五表）

官名	級俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
稅關長	奏任タルモノ	四、五〇〇圓	四、一〇〇圓	三、八〇〇圓	三、四〇〇圓	三、一〇〇圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
稅務監督局長	奏任タルモノ												
典獄	小菅、市谷、豐多摩、巢鴨、大阪、名古屋、廣島、長崎、宮城、札幌ノ刑務所ノ長タル者												
帝國圖書館長													
東京博物館長													
鑛山監督局長	奏任タルモノ												
朝鮮總督府稅關長	朝鮮總督府京城、大邱、釜山、平壤ノ府尹タルモノ												
朝鮮總督府典獄	京城、西大門、平壤、大邱ノ監獄ノ長タルモノ												
臺灣總督府交通局理事	奏任タルモノ												
臺灣總督府稅關長													
臺灣總督府地方理事官	臺北市尹タルモノ												
關東廳財務部長													
關東廳遞信局長													
關東廳專賣局長													
稅關官													
陸軍教授	奏任タルモノ												
海軍教授	奏任タルモノ												
督學官													
帝國大學教授													
帝國大學學生主事													
帝國大學豫科教授													
帝國大學附屬專門部教授													
史料編纂官													
官立大學教授		四、五〇〇	四、一〇〇	三、八〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇	二、八〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇
官立大學學生主事													
官立大學豫科教授													
官立大學附屬專門部教授													
文部省直轄諸學校教授													
文部省直轄諸學校生徒主事													
京城帝國大學教授													
旅順工科大學教授													

京城帝國大學豫科教授												
朝鮮總督府專門學校教授												
臺北帝國大學教授												
臺北帝國大學附屬農林專門部教授												
臺灣總督府諸學校教授												
旅順工科大學豫科教授												
國立感化院教諭 國立感化院院長タルモノ												
東京盲學校長 東京聾啞學校長 師範學校長	三、八〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇	二、八〇〇	二、六〇〇	二、四〇〇	二、二〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇
稅關港務官 港務部長タルモノヲ除ク	三、四〇〇	三、一〇〇	二、八〇〇	二、六〇〇	二、四〇〇	二、二〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇
帝國大學助教授 官立大學助教授												
文部省直轄諸學校教諭												
京城帝國大學助教授												
旅順工科大學助教授												
朝鮮總督府道港務醫官	三、一〇〇	二、八〇〇	二、六〇〇	二、四〇〇	二、二〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	
朝鮮總督府道歌醫官												
臺灣總督府測候所技師												
臺北帝國大學助教授												
關東廳觀測所技師												
樺太廳觀測所技師												
警視廳消防司令												

附　則（大正九年勅令第七十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ東京高等商業學校教授ニシテ東京商科大學豫科又ハ東京商科大學附屬商學專門部ノ教授ニ任セラレタルモノ者ノ東京高等商業學校教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第六項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ東京商科大學豫科又ハ東京商科大學附屬商學專問部ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

附　則（大正九年勅令第百五十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ內閣統計局長、軍需局長又ハ鐵道院理事ノ官ニ在ル者ノ內閣統計局長、軍需局長又ハ鐵道院理事トシテノ高等官二等ノ在職ハ高等官官等俸給令第九條ノ四第一項及第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條第一項ニ揭クル各官ノ高等官二等ノ在職ト看做ス

○大正九年勅令第二百五十七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ俸給ニ關スル改正規定ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸額ニ付左ノ區分ニ依リ算出シタル金額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

一　本俸年額六千五百圓ヲ超ユルモノ
　其ノ年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額但シ年額七千五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

二　本俸年額五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ
　年額七千圓

三　本俸年額三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額二千五百圓ヲ加ヘタル額

四　本俸年額千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ其ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額及二百圓ヲ加ヘタル額

五　本俸年額三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ其ノ二分ノ一ニ相當スル金額及百二十圓ヲ加ヘタル額

六　本俸年額三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ三百圓ヲ加ヘタル額

七　本俸年額三百圓以下ノモノ

其ノ年額ノ二倍ニ相當スル金額

大正九年七月三十一日現在ニ於テ休職、非職、待命中ノ者ニ付テハ其ノ在職最終ノ本俸ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

經理上ノ必要アル場合ニ於テハ大正十年度限リ改正級額以内ニ於テ第二項ノ規定ニ準シ適宜ノ俸給ヲ定メ之ヲ給スルコトヲ得

從前ノ規定ニ依リ一級俸又ハ最高俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス

但シ從前ノ規定ニ依ル一級俸又ハ最高俸ニ付第二項又ハ前項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ從前ノ規定ニ依ル一級俸又ハ最高俸ヲ增額シタル俸給ヲ受ケタル在職年數ニ付亦前項ニ同シ

從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ其ノ本俸トシテ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸ヲ受ケ其ノ年功加俸トシテ從前ノ本俸及年功加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸ノ金額ヲ控除シタルモノヲ受ク但シ從前ノ本俸及年功加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸以下ナルトキハ本俸トシテ其ノ金額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受ケ相當級俸又ハ相當俸給ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ク

第二項、第三項及前項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

明治二十四年勅令第百六十五號ハ之ヲ廢止ス

改正俸給ニシテ從前ノ俸給ヲ減額シタルモノニ付テハ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ニ限リ改正俸給ニ依ラス從前ノ俸給ヲ受ケシム

○大正九年勅令第五百六十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

判事檢事官等俸給令、朝鮮總督府判事及朝鮮總督府檢事官等給與令及臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令ハ之ヲ廢止ス

但シ判事及檢事ノ進級ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依ル勅任六級俸以上ノ俸給ヲ受クル判事又ハ檢事ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受ケ其ノ年功加俸ヲ受クル者ハ本俸トシテ從前ノ本俸及年功加俸合計額ノ俸給ヲ受クルモノトス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府判事、朝鮮總督府檢事、臺灣總督府法院判官又ハ臺灣總督府法院檢察官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受クルモノトス

○大正十年勅令第四百七十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神宮皇學館職員官等俸給令ハ之ヲ廢止ス

神宮皇學館職員ニシテ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クルモノニ對シ支給スル俸給額ハ本令施行ノ際ニ限リ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

本令施行ノ際現ニ神宮皇學館助教授又ハ書記タル者ハ文武判任官等級令ニ拘ラス其ノ官ニ在ル間從前ノ等級ヲ降ルコトナキモノトス

○大正十二年勅令第九十六號附則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ千葉醫學專門學校、金澤醫學專門學校又ハ長崎醫學專門學校ノ教授ニシテ官立醫科大學附屬藥學專門部教授ニ任セラレタル者ノ千葉醫學專門學校、金澤醫學專門學校又ハ長崎醫學專門學校ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第六項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ官立醫科大學附屬藥學專門部教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

本令施行ノ際現ニ千葉醫學專門學校教授ニシテ高等官二等ニ在ル者ヲ官立醫科大學藥學專門部教授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ敍スルコトヲ得

○大正十二年勅令第百四十七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ會計檢査院部長ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス

○大正十二年勅令第二百四十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ旅順工科大學附屬工學專門部教授ニシテ旅順工科大學豫科教授ニ任セラレタル者ノ旅順工科學堂及旅順工科大學附屬工學專門部ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第八項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ旅順工科大學豫科教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

○大正十二年勅令第二百四十六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ北海道帝國大學附屬大學豫科教授ニシテ北海道帝國大學豫科教授ニ任セラレタル者ノ北海道帝國大學附屬大學豫科教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第四項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ北海道帝國大學豫科教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

本令施行ノ際現ニ北海道帝國大學附屬大學豫科教授ニシテ高等官二等ニ在ル者ヲ北海道帝國大學豫科教授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ敍スルコトヲ得

○十二年勅令第三百九十一號附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ官立大學ノ教授又ハ助教授ニシテ教授ニ在リテハ左表第一表、助教授ニ在リテハ左表第二表上欄ノ級俸ヲ受クルモノ別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各其ノ相當下欄ノ級及俸職務俸ヲ受クルモノトス

（第一表）

現行俸給			改正俸給		
			本俸	職務俸	
勅任一級俸			一級	七〇〇圓	
勅任二級俸			二級	七〇〇	
勅任三級俸 奏任一級俸			三級	七〇〇	
奏任二級俸			四級	七〇〇	
奏任三級俸			五級	七〇〇	
奏任四級俸			六級	七〇〇	
奏任五級俸			七級	七〇〇	
奏任六級俸			八級	七〇〇	
奏任七級俸			九級	六〇〇	
奏任八級俸			十級	四〇〇	
奏任九級俸			十一級	四〇〇	
奏任十級俸			十二級	四〇〇	
奏任十一級			十二級	二〇〇	

（第二表）

現行俸給			改正俸給		
			本俸	職務俸	
一級俸			一級	一、四〇〇圓	
二級俸			二級	一、三〇〇	
三級俸			三級	一、二〇〇	
四級俸			四級	一、〇〇〇	
五級俸			五級	九〇〇	
六級俸			六級	七〇〇	
七級俸			七級	六〇〇	
八級俸			八級	四〇〇	
九級俸			九級	四〇〇	
十級俸			十級	三〇〇	
十一級俸			十一級	二〇〇	
十二級俸			十二級	一〇〇	

官立大學ノ教授又ハ助教授ノ年功加俸ニ關シ第九條第二項第三項又ハ第十九條第二項第三項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ依リ官立大學ノ教授又ハ助教授トシテ改正俸給一級俸ノ額以上ノ俸給ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ通算セス但シ勅任一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ此ノ限ニ在ラス

附　則（大正十三年勅令第四百號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際警視廳消防部長又ハ警視廳理事官ヨリ警視廳事務官ニ、北海道廳支廳長又ハ北海道廳理事官ヨリ北海道廳事務官ニ、各府縣ノ理事官ヨリ地方事務官ニ、各府縣ノ警視ヨリ地方警視ニ任セラルル者ハ本令ノ規定ニ拘ラス從前受ケタル俸給額ト同一ノ俸給ヲ受クルモノトス

附　則（大正十四年勅令第九十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ商船學校ノ教授ニシテ東京高等商船學校教授ニ任セラレタル者ノ商船學校教授トシテノ高等官三等ノ存職ハ高等官官等俸給令第十條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ東京高等商船學校教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

本令施行ノ際現ニ商船學校教授ニシテ高等官二等ニ在ル者ヲ東京高等商船學校教授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ敍スルコトヲ得

附　則（大正十五年勅令第百八十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府府尹ニシテ大邱、釜山又ハ平壤ノ府尹ノ職ニ在ル者及朝鮮總督府理事官ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ現ニ受タル俸給ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス

附　則（昭和二年勅令第三百六十九號）

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ旅順工科大學ノ教授又ハ助教授ニシテ教授ニ在リテハ左表第一表上欄、助教授ニ在リテハ左表第二表上欄ノ級俸ヲ受クルモノ別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各其ノ相當下欄ノ級俸及職務俸ヲ受クルモノトス

旅順工科大學ノ教授又ハ助教授ノ年功加俸ニ關シ第九條第二項第三項又ハ第十九條第二項第三項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ依リ旅順工科大學ノ教授又ハ助教授トシテ改正俸給一級俸ノ額以上ノ俸給ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ通算セス但シ勅任一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ此ノ限ニ在ラス

第一表

現行俸給	改正俸給 本俸	改正俸給 職務俸
勅任一級俸	一級俸	七〇〇圓
勅任二級俸	二級俸	七〇〇
勅任三級俸 奏任一級俸	三級俸	七〇〇
奏任二級俸	四級俸	七〇〇
奏任三級俸	五級俸	七〇〇
奏任四級俸	六級俸	七〇〇
奏任五級俸	七級俸	七〇〇
奏任六級俸	八級俸	七〇〇
奏任七級俸	九級俸	六〇〇
奏任八級俸	十級俸	四〇〇
奏任九級俸	十一級俸	四〇〇
奏任十級俸	十二級俸	四〇〇
奏任十一級俸	十二級俸	二〇〇

第二表

現行俸給	改正俸給 本俸	改正俸給 職務俸
一級俸	一級俸	一、四〇〇圓
二級俸	二級俸	一、三〇〇
三級俸	三級俸	一、二〇〇
四級俸	四級俸	一、〇〇〇
五級俸	五級俸	九〇〇
六級俸	六級俸	七〇〇
七級俸	七級俸	六〇〇
八級俸	八級俸	四〇〇
九級俸	九級俸	四〇〇
十級俸	十級俸	三〇〇
十一級俸	十一級俸	二〇〇
十二級俸	十二級俸	一〇〇

文武判任官等級令

（明治四十三年六月十八日勅令第二百六十七號）（總、大臣副署）

沿革　明治四三年九月勅令第三七九號、大正四年一二月第二一八號、五年四月第八四號、六年八月第一〇一號、九年一月第一三號、八月第二五九號、一〇月第四八四號、一〇年一二月第四七一號改正

朕文武判任官等級令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文武判任官等級令

第一條　判任官ノ等級ハ一等乃至四等トシ其ノ區分ハ別表ニ依ルモノノ外其ノ本俸ニ依リ左ノ如ク定ム

一等（特別俸、一級俸、二級俸）

二等（三級俸、四級俸、五級俸）

月俸九十五圓以下八十五圓以上

三等（六級俸　七級俸　八級俸）月俸八十五圓未滿五十五圓以上

四等（九級俸　十級俸　十一級俸）月俸五十五圓未滿

（別表）

	一等	二等	三等	四等
神宮權禰宜	一級俸	三級俸		
	二級俸	四級俸		
神宮宮掌			一級俸　二月俸七十五圓未滿	三級俸　四月俸六十五圓以上
神宮衞士副長	一級俸	三級俸	五級俸　六月俸七十五圓未滿	七級俸　八月俸六十五圓以上
陸軍准士官及下士	陸軍各兵特務曹長及相當官　陸軍砲工兵上等工長	陸軍各兵曹長及相當官　陸軍各兵一等諸工長	陸軍各兵軍曹及相當官　陸軍各兵二等諸工長	陸軍各兵伍長及相當官　陸軍各兵三等諸工長
海軍准士官及下士官	海軍准士官　海軍豫備准士官	海軍一等下士官　海軍豫備一等下士官	海軍二等下士官　海軍豫備二等下士官	海軍三等下士官　海軍豫備三等下士官
三等郵便局長　三等電信局長	年手當七百二十圓以上千二百圓以下	年手當三百六十圓以上七百二十圓未滿	年手當百二十圓以上三百六十圓未滿	年手當百二十圓未滿
朝鮮總督府郵便局長　臺灣總督府三等郵便局長　關東廳郵便所長　樺太廳特定郵便局長	年手當七百二十圓以上千二百圓以下	年手當三百六十圓以上七百二十圓未滿	年手當百二十圓以上三百六十圓未滿	年手當百二十圓未滿
陸軍各兵特務曹長及相當官　陸軍砲工兵上等工長	年手當二百四十圓以上千圓以下	年手當百二十圓以上二百四十圓未滿	年手當七十二圓以上百二十圓未滿	年手當七十二圓未滿

第二條　年功ニ依リ加給ヲ受クルモ爲ニ等級ヲ昇スコトナシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文武判任官等級表ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ判任官俸給令附則第三項ノ規定ニ依リ月俸四十三圓ヲ受クル者ノ等級ハ三等トス

●判任官俸給令

（明治四十三年三月二十八日）勅令第百三十五號）總、大臣副署

沿革　明治四三年九月勅令第三七八號、四五年三月第四七號、大正二年六月第二一五號、一一月第三〇二號、三年三月第三八號、五年三月第六六號、一二月第二四七號、七年七月第二七九號、八月第三〇八號、一一月第三七八號、八年四月第九四號、五月第一八二號、第二五四號、六月第二七六號七月第三五八號、八月第四〇〇號、一〇月第四四〇號、九年八月第二五八號、九月第三五四號、一〇月第四六三號、第五〇六號、一〇年八月第三九三號、一二年七月第三三五號、一三年五月第一一〇號、一二月第四五七號、一五年八月第二七四號改正

朕判任官俸給令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

判任官俸給令

第一條　判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル

第二條　陸海軍准士官及下士ハ判任トシ其ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條　判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ二百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條　判任文官ノ俸給ハ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第六條　各廳技手ハ判任トシ各廳事務ノ繁閑ニ依リ別表最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第七條　警視廳、北海道廳、府縣及監獄判任官竝稅務監督局屬、稅務署屬、專賣局書記及朝鮮總督府航路標識看守ニハ別表最低額以下二十圓迄ノ月俸ヲ給スルコトヲ得但シ港吏港務醫官補、港務獸醫官補、港務藥劑手及府縣通譯ハ此ノ限ニ在ラス

道廳及府縣視學ノ月俸ハ別表八級俸以上トス

第八條　（削除）

第九條　各廳警部補ノ月俸ハ四十圓以上八十五圓以下トス

第十條　左ニ掲クル者ノ月俸ハ二十五圓以上八十五圓以下トス

健康保險署書記補
各廳稅關監吏
各廳稅務吏
各廳森林主事
北海道廳河川監守

第十一條　左ニ掲クル者ノ月俸ハ二十圓以上八十五圓以下トス

貯金局書記補
簡易保險局書記補
遞信局書記補
各廳通信書記補
各廳遞信書記補
臺灣總督府交通主事

第十二條　前三條ノ判任文官最上級俸ヲ受ケ三年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ月額十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

第十三條　判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第十四條　月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス

前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官官等俸給令ノ例ニ依ル

第十五條　俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

○大正九年勅令第二百五十八號附則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年勅令第二百五十七號附則第二項乃至第六項及第八項ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付之ヲ準用ス

從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ五級俸以上各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ヲ受クル者第二項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クルトキハ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受クルモノト看做ス

前項ノ規定ハ五級俸以上ニ於テ級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ノ級俸ニ付之ヲ準用ス

第八條乃至第十一條ニ掲クル判任文官ノ從前ノ規定ニ依ル最上級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ最上級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス

判任官俸給令附則ヲ削ル

明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ノ例ニ依リ五級俸以上ノ俸給ヲ受クル地方稅支辨ニ屬スル判任文官ノ級俸ノ對等ニ付テハ前數項ノ規定ニ依ラス左表ノ區分ニ依ル但シ文武判任官等級令ノ適用ニ付テハ仍從前ノ等級ヲ保有ス

現行俸給	改正俸給
特別俸	一級俸
一級俸	二級俸
二級俸	四級俸
三級俸	五級俸
四級俸	六級俸
五級俸	六級俸

（別表）

級	俸	月額
一級	俸	百六十圓
二級	俸	百三十五圓
三級	俸	百十五圓
四級	俸	百圓
五級	俸	八十五圓
六級	俸	七十五圓
七級	俸	六十五圓
八級	俸	五十五圓
九級	俸	五十圓
十級	俸	四十五圓
十一級	俸	四十圓

●文官俸給支給細則

（明治二十五年十二月二十三日大藏省令第十一號）

沿革　明治二九年四月大藏省令第七號、三八年五月第三〇號、大正九年五月第一五號改正

文官俸給支給細則左ノ通リ相定メ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

但シ明治二十三年當省令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文官俸給支給細則

第一條　高等文官及判任文官ノ俸給ハ各廳左ノ日割定日ニ於テ支給スルモノトス但シ休日ニ當ルトキハ順延トス

毎月二十一日　外務省及其所管經費ニ屬スル官廳
内務省及其所管經費ニ屬スル官廳
大藏省及其所管經費ニ屬スル官廳
鐵道省及其所管經費ニ屬スル官廳

毎月二十二日　陸軍省及其所管經費ニ屬スル官廳
海軍省及其所管經費ニ屬スル官廳
司法省及其所管經費ニ屬スル官廳

毎月二十三日　文部省及其所管經費ニ屬スル官廳
農商務省及其所管經費ニ屬スル官廳
遞信省及其所管經費ニ屬スル官廳

第二條　廢官退官退職及ヒ死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給スルモノトス

高等官官等俸給令第三十五條ニ依リ殘務調理ヲ命セラレタル者其調理翌月以降ニ渉リ全月分ヲ支給スルモノハ第一條ノ支給定日ニ依ル但最後ノ月ハ日割ヲ以テ調理結了ノ日迄ヲ其際支給ス

第三條　轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄ヲ甲廳ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ乙廳ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第四條　他廳ヘ轉任シタルモノハ第一條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其際支給ス

第五條　他廳ヘ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ前任廳ニ於テ其際之ヲ追徴スヘシ

第六條　俸給支給定日後他廳ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任廳ニ於テ其月ノ殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

第七條　高等官官等俸給令第三十六條ニ依リ減給ノ者廢官退官退職及死亡ノ時ハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

第八條　傷痍忌引若クハ特旨賜暇ノ場合ハ病氣若クハ私事故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ闕勤日數中ニ算入セス又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス

第九條　俸給ヲ支給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

第三類　裁判　監獄

第三類　裁判、監獄

第一編　通常裁判所

第一章　構成

明治二三年二月法律第六號　●裁判所構成法……一
明治二三年三月法律第二二號　●裁判所構成法施行條例……一九
大正一二年四月法律第五〇號　●陪審法……二〇
昭和二年五月司法省令第一六號　●陪審法施行規則……二三
昭和二年五月勅令第一四六號　●陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件……二七
昭和三年九月勅令第二三四號　●陪審員旅費日當及止宿料規則……二八
明治四四年三月法律第五二號　●司法事務共助法……二八

第二章　管轄區域

大正二年四月法律第九號　●裁判所管轄區域……二九
大正二年四日司法省令第七號　●地方裁判所支部權限及管轄區域……八九
大正二年四月司法省令第一〇號　●民事訴訟及非訟事件ヲ取扱フ區裁判所出張所及其ノ管轄區域……九八
大正五年六月司法省令第一四號　●非訟事件手續法第二條第三項ニ依ル指定……九九
大正一一年一一月司法告示第四九號等　●破産事件及和議事件ヲ取扱ハシムヘキ區裁判所……九九

第三章　執達吏

明治二三年七月法律第五一號　●執達吏規則……一〇三
明治二三年七月法律第五二號　●執達吏手數料規則……一〇六
大正八年四月法律第四一號　●執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル件……一〇九
大正八年五月勅令第一九三號　●執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル件……一一〇
大正八年五月司法省令第六號　●執達吏ノ手數料增加額ニ關スル特別地域……一一〇
明治二三年八月司法省令第二號　●執達吏登用規則……一一〇
明治四一年六月勅令第一五三號　●執達吏懲戒令……一一三

第四章　辯護士

明治二六年三月法律第七號　●辯護士法……一一三
明治二六年四月司法省令第五號　●辯護士名簿登錄規則……一一六

第五章　公證人

明治四一年四月法律第五三號　●公證人法……一一七
明治四二年七月司法省令第一四號　●公證人法施行細則……一二八
明治四二年六月勅令第一七四號　●公證人手數料規則……一三三
大正八年五月勅令第一九四號　●公證人手數料增額ニ關スル件……一三七
明治四二年六月勅令第一七五號　●公證人懲戒委員會規則……一三七

第六章　司法代書人

大正八年四月法律第四八號　●司法代書人法……一三八
大正八年六月司法省令第九號　●司法代書人法施行細則……一三九

第二編　特別裁判所

第一章　行政裁判

明治二三年六月法律第四八號　●行政裁判法……一四〇
明治二三年一〇月法律第一〇六號　●行政廳ノ違法處分ヲ行政裁判所ニ出訴シ得ヘキ事件……一四四
明治二三年一〇月法律第一〇五號　●訴願法……一四五

（注意）以下追錄ヲ以テ登載ス

第三類　裁判、監獄

第一編　通常裁判所

第一章　構成

●裁判所構成法

（明治二十三年二月十日法律第六號）副署　總、司、大臣

沿革　明治三八年三月法律第六七號、三九年五月第五〇號、四一年三月第一〇號、第三〇號、四四年四月第七一號、大正二年四月第六號、三年四月第三九號、一〇年五月第一〇一號、一一年四月第五三號、一四年三月第五號改正

朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

裁判所構成法目次

第一編　裁判所及檢事局
第一章　總則
第二章　區裁判所
第三章　地方裁判所
第四章　控訴院
第五章　大審院
第二編　裁判所及檢事局ノ官吏
第一章　判事又ハ檢事ニ任セラルヽニ必要ナル準備及資格
第二章　判事
第三章　檢事
第四章　裁判所書記
第五章　執達吏
第六章　廷丁
第三編　司法事務ノ取扱
第一章　開廷
第二章　裁判所ノ用語
第三章　裁判ノ評議及言渡
第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程
第五章　司法年度及休暇
第六章　法律上ノ共助
第四編　司法行政ノ職務及監督權

裁判所構成法

第一編　裁判所及檢事局

第一章　總則

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　區裁判所

第二　地方裁判所

第三　控訴院
第四　大審院

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條　地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　裁判所ノ設立廢止及管轄區域竝ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

第六條　各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルルヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ

檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條　檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條　各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限リ別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得

外國語ノ通譯ヲ要スル裁判所及檢事局ニ通譯官ヲ置クコトヲ得

第九條　區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條　法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一　權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二　裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章　區裁判所

第十一條　區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政事務ヲ委任ス

第十二條　事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年前以テ之ヲ定ム

第十三條ノ二　區裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ地方裁判所長ハ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第十四條　區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

第一　千圓ヲ超過セサル金額又ハ價額千圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求

第二　價額ニ拘ラス左ノ訴訟

（イ）　住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

（ロ）　不動產ノ經界ノミニ關ル訴訟

（ハ）　占有ノミニ關ル訴訟

（ニ）　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ

起リタル訴訟

（ホ）左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

（一）賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

（二）旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第十四條ノ二　區裁判所ハ破産事件ニ付裁判權ヲ有ス

第十五條　區裁判所ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外非訟事件ニ關ル事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

非訟事件中登記事務ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條　區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

但シ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一　拘留又ハ科料ニ該ル罪

第二　短期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ヲ除ク外有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪

第十六條ノ二　司法大臣ハ地方裁判所ノ管轄區域內ノ一ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事務ノ全部又ハ一部分ヲ其ノ地方裁判所ノ管轄區域內ノ他ノ區裁判所ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第十七條　前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十七條ノ二　司法大臣ハ區裁判所ニ屬スル事務ノ一部分ヲ取扱フ爲區裁判所出張所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第十八條　各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章　地方裁判所

第十九條　地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ置ク

第二十條　各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條　司法大臣ハ各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦每年前以テ之ヲ定ム

前二項ニ揭ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條　或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條　第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄地域內ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二　第二審トシテ

（イ）區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限竝ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二　第二審トシテ

（イ）區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條　（削除）

第二十九條　地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條　地方裁判所ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域內ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近鄰ノ區裁判所ノ判事ヲ用ヰルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域內ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條　各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章　控訴院

第三十四條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條　事務ノ分配及結了竝ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一　前項ニ揭ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二　控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用ヰルコトヲ得ス

第三十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條　皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條　控訴院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條　控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條　第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ三人又ハ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十二條　各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章　大審院

第四十三條　大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第四十四條　大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條　大審院ノ事務ノ分配竝ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條　大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

第四十七條　大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部及ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

（イ）上告

（ロ）地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令竝ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

（ハ）地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

第五十一條　前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得

但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條　大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條　第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條　大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條　大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編　裁判所及檢事局ノ官吏

第一章　判事又ハ檢事ニ任セラルルニ必要ナル準備及資格

第五十七條　判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ定メタル者ヲ除ク外試補トシテ一年六月以上裁判所及檢事局ニ於テ實務ノ修習ヲ爲シ且考試ヲ經ルコトヲ要ス

實務ノ修習及考試ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五十八條　試補ハ成規ノ試驗ニ合格シタル者ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

前項ノ試驗ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　（削除）

第六十條　一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキハ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條　試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一　訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二　證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三　登記ヲ爲ス事

第六十二條　司法大臣ハ試補ノ行狀其ノ地位ニ適セス又ハ修習ノ成績考試ニ合格スヘキ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ罷免スルコトヲ得

第六十三條　新任ノ判事又ハ檢事ハ闕位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ闕位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ウ

第六十四條　區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用キラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕位アル間ハ此ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條　三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試驗及考試ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコトヲ得司法官試補タル資格ヲ有シ朝鮮總督府判事又ハ朝鮮總督府檢事タル者亦同シ

第六十六條　左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコ

トヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章　判事

第六十七條　判事ハ終身官トシ親任勅任又ハ奏任トス

第六十八條　大審院長ハ親任判事ヲ以テ之ヲ親補ス

控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ判事ノ職ハ勅任判事又ハ奏任判事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條　五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルヽコトヲ得ス

第七十條　十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルヽコトヲ得ス

第七十一條　第六十九條及第七十條ニ揭ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各々其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十一條ノ二　前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル司法省各局長司法書記官朝鮮總督府判事朝鮮總督府檢事臺灣總督府法院判官臺灣總督府法院檢察官關東廳法院判官又ハ關東廳法院檢察官ノ在職ハ之ヲ判事ノ在職ト看做ス

第七十二條　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一　公然政事ニ關係スル事

第二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四　商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條　第七十四條乃至第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラルヽコトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラルヽハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係スルコトナシ

第七十四條　判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十四條ノ二　大審院長年齡六十五年其ノ他ノ判事ノ職ニ在ル者年齡六十三年ニ達シタルトキハ退職トス但シ控訴院又ハ大審院ノ總會ニ於テ三年以內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムヘキモノト決議シタルトキハ其ノ期間滿了ノ時ニ於テ退職トス

第七十四條ノ三　司法大臣ハ裁判事務上必要アルトキハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ判事ニ轉所ヲ命スルコトヲ得

第七十五條　法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ之ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條　判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條　（削除）

第七十八條　判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴追ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章　檢事

第七十九條　檢事ハ親任勅任又ハ奏任トス

第七十六條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長ハ親任檢事ヲ以テ之ヲ親補ス

檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ檢事ノ職ハ勅任檢事又ハ奏任檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第八十條　檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十條ノ二　檢事總長年齡六十五年其ノ他ノ檢事ノ職ニ在ル者年齡六十三年ニ達シタルトキハ退職トス但シ司法大臣ハ三年以內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムルコトヲ得

第八十一條　檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條　檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條　檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域內ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域內ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條　司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域內ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及內務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章　裁判所書記

第八十五條　裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條　地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

監督書記及書記長ハ各々其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第八十七條　書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第八十八條　書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ大審院長控訴院長檢事總長檢事長ニ各々其ノ裁判所又ハ檢事局ノ書記ヲ地方裁判所長檢事正ニ各々其ノ裁判所及其ノ管轄區域内ノ區裁判所又ハ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ノ書記ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

書記長及通譯官ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十九條　書記ニ任セラルルニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試驗ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格竝ニ此ノ試驗及試驗ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條　書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラルルコトヲ得

第九十一條　書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記錄ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキハ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ揭ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十二條　合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條　豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五章　執達吏

第九十四條　各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條　執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ地方裁判所長ニ其ノ管轄區域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラルルニ必要ナル資格竝ニ試驗ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條　執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條　執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

第九十八條　裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲ササル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ揭ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條　執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏ノ職務細則竝ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百條　執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章　廷丁

第百一條　廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第百二條　廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

第三編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷

第百三條　開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第百四條　訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第百五條　裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第百六條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第百七條　裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入ス

第百八條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百九條　裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ揭ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以內ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

第百十條　前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一　裁判所ハ閉廷ヲ待タスシテ本條ノ違犯者ヲ卽時ニ罰スルコトヲ得

第二　違犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十一條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十二條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以內ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第百十三條　第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第百十四條　判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百十五條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヰルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

第百十六條　通事ノ任命及使用竝ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百十七條　通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラルルコトヲ得

第百十八條　外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章　裁判ノ評議及言渡

第百十九條　合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第百二十條　四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條　判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末竝ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條　評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ其ノ說各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三說以上ニ分レ各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百二十四條　判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程

第百二十五條　裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域內ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開廳時間及開廷ノ時日ニ付訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章　司法年度及休暇

第百二十六條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第百二十七條　（削除）

第百二十八條　（削除）

第百二十九條　（削除）

第百三十條　（削除）

第六章　法律上ノ共助

第百三十一條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ輔助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十二條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域內ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第百三十三條　裁判所書記課モ亦其ノ權內ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權內ノ事件ニ付互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第四編　司法行政ノ職務及監督權

第百三十四條　合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第百三十五條　司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一　司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二　大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三　控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域內ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四　地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其支部及其ノ管轄區域內ノ區裁判所ヲ監督ス

第五　區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六　檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七　檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域內ノ檢事局ヲ監督ス

第八　檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域內ノ檢事局ヲ監督ス

第百三十六條　前條ニ揭ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一　官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二　官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事

但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第百三十六條ノ二　合議裁判所長檢事總長檢事長檢事正ハ其ノ監督ニ屬スル判事若ハ檢事ヲシテ司法行政事務ノ一部分ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第百三十七條　第十八條及第八十四條ニ揭ケタル官吏ハ第百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第百三十八條　裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第百三十九條　前數條ニ揭ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ滿足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第百四十條　司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滯若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ揭ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第百四十一條　裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第百四十二條　司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第百四十三條　此ノ編ニ揭ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第百四十四條　此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ牴觸スト雖モ當分ノ內仍ホ效力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

○明治四十一年法律第三十號附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十一年十月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ提起シタル訴訟ハ本法ニ依リ他ノ裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノト雖モ受訴裁判所之ヲ裁判スヘシ

本法施行後重禁錮又ハ輕禁錮ニ處スヘキ罪ノ裁判權ニ付テハ重禁錮ヲ懲役ト看做シ輕禁錮ヲ禁錮ト看做ス

○大正二年法律第六號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正二年四月勅令第五十四號ヲ以テ同月二十一日ヨリ施行）

本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ管轄ニ關スル從前ノ規定ヲ適用ス但シ本法ニ依リ其ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

○大正三年法律第三十九號附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年五月勅令第七十二號ヲ以テ同年五月一日ヨリ第六十七條、第六十八條及第七十九條ノ改正ニ關スル規定施行同七年一月勅令第七號ヲ以テ同十二年三月一日ヨリ第七十七條乃至第五十九條、第六十二條及第六十五條ノ改正規定施行）

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ判事檢事又ハ試補タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス

○大正十年法律第百一號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年五月勅令第二百二十七號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ判事又ハ檢事ノ職ニ在ル者ニシテ本法施行ノ日ニ於テ第七十四條ノ二又ハ第八十條ノ二ニ規定スル年齡ヲ超ユルモノ及本法施行ノ日ヨリ二十日內ニ於テ其ノ年齡ニ達スルモノハ本法施行ノ日ヨリ二十日ヲ經テ退職スルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ判事ニ付テハ第七十四條ノ二但書ノ規定ヲ、檢事ニ付テハ第八十條ノ二但書ノ規定ヲ準用ス但シ第七十四條ノ二又ハ第八十條ノ二ニ規定スル年齡ニ三年ヲ加ヘタルモノヲ超エテ在職セシムルコトヲ得ス

○大正十一年法律第五十三號附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年十一月勅令第四百九十九號ヲ以テ十二年一月一日ヨリ第十四條ノ二、第二十八條、第六十五條第一項及第七十一條ノ二ノ改正ニ關スル規定ヲ、五月勅令第二百十四號ヲ以テ十三年一月一日ヨリ其他ノ改正ニ關スル規定施行）

第十四條ノ二及第二十八條ノ改正規定施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

○大正十四年法律第五號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十四年七月勅令第二百五十一號ヲ以テ同年同月十日ヨリ施行）

本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ管轄ニ關スル從前ノ規定ヲ適用ス但シ本法ニ依リ其ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル司法省參事官ノ本法施行前ニ於ケル在職ハ裁判所構成法第六十九條乃至第七十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ判事ノ在職ト看做ス

●裁判所構成法施行條例

（明治二十三年三月十九日／總、司、大臣／法律第二十二號／副署）

沿革　明治四一年三月法律第三一號改正

朕裁判所構成法施行條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

裁判所構成法施行條例

第一條　從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條　始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局トス控訴院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條　區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス

第四條　裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス

既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條　裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條　裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條　裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戶長又ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條　裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條　明治十八年第三十一號布告違警罪卽決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十條　明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交涉ノ件處分法ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十一條　明治二十一年勅令第六十四號ハ仍效力ヲ有ス

區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシ

テ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條〔東京地方裁判所管内小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得〕

第十三條〔沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス〕

第十四條　（削除）

第十五條〔明治二十一年勅令第七十一號清國竝ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ〕

第十六條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要トセス

第十七條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要トセス

第十八條　裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得

明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第十九條　裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條　三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官（會計局ノ高等官ヲ除ク）ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條　裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

●陪審法

（大正十二年四月十八日各大臣法律第五十號副署）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル陪審法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陪審法

第一章　總則

第二章　陪審員及陪審ノ構成

第三章　陪審手續

第一節　公判準備

第二節　公判手續及公判ノ裁判

第三節　上訴

第四章　陪審費用

第五章　罰則

第六章　補則

附　則

陪審法

第一章　總則

第一條　裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得

第二條　死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條　長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第四條　左ニ掲クル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ陪審ノ評議ニ付セス

一　大審院ノ特別權限ニ屬スル罪

二　刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪

三　軍機保護法、陸軍刑法又ハ海軍刑法ノ罪其ノ他軍機ニ關シ犯シタル罪

四　法令ニ依リテ行フ公選ニ關シ犯シタル罪

第五條　第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定メタル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第七條　被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

公判ニ繫屬スル事件ニ付前項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ

第九條　前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知シ且請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

管轄裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第十條　管轄移轉ノ請求アリタルトキハ被告人ハ檢事ノ被告事件陳述後ト雖其ノ決定アル迄事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

被告人事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタルニ因リ事件陪審ノ評議ニ付スヘカラサルニ至リタルトキハ檢事ノ管轄移轉ノ請求ハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

共同被告人中事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタル者アルトキハ其ノ被告人ニ關スル管轄移轉ノ請求ニ付亦前項ニ同シ

第十一條　上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第二章　陪審員及陪審ノ構成

第十二條　陪審員ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　帝國臣民タル男子ニシテ三十歲以上タルコト

二　引續キ二年以上同一市町村内ニ住居スルコト

三　引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト

四　讀ミ書キヲ爲シ得ルコト

前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一日ノ現在ニ依ル

第十三條　左ニ揭クル者ハ陪審員タルコトヲ得ス

一　禁治產者、準禁治產者

二　破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ

三　聾者、啞者、盲者

四　懲役、六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者

第十四條　左ニ揭クル者ハ陪審員ノ職務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　國務大臣

二　在職ノ判事、檢事、陸軍法務官、海軍法務官

三　在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所評定官、

四　在職ノ宮內官吏

五　現役ノ陸軍軍人、海軍軍人

六　在職ノ廳府縣長官、郡長、島司、廳支廳長

七　在職ノ警察官吏

八　在職ノ監獄官吏

九　在職ノ裁判所書記長、裁判所書記

十　在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官吏

十一　郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ從事スル者竝船員

十二　市町村長

十三　辯護士、辨理士

十四　公證人、執達吏、代書人

十五　在職ノ小學校教員

十六　神官、神職、僧侶、諸宗教師

十七　醫師、齒科醫師、藥劑師

十八　學生、生徒

第十五條　陪審員ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　陪審員被害者ナルトキ

二　陪審員私訴當事者ナルトキ

三　陪審員被告人、被害者若ハ私訴當事者ノ親族ナルトキ又ハ親族タリシトキ

四　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ屬スル家ノ戶主又ハ家族ナルトキ

五　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

六　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ同居人又ハ雇人ナルトキ

七　陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ

八　陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

九　陪審員事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

十　陪審員事件ニ付判事、檢事、司法警察官又ハ陪審員トシテ職務ヲ行ヒタルトキ

第十六條　左ニ揭クル者ハ陪審員ノ職務ヲ辭スルコトヲ得

一　六十歲以上ノ者

二　在職ノ官吏、公吏、教員

三　貴族院議員、衆議院議員及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員但シ會期中ニ限ル

第十七條　市町村長ハ每年陪審員資格者名簿ヲ調製シ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村内ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登載スヘシ

陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業、住居地、生年月日及納稅額ヲ記載スヘシ

市町村長ハ陪審員資格者名簿ノ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第十八條　市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其ノ廳ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

第十九條　法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレタル者ハ縱覽期間内及其ノ後七日内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレサル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立ハ書面ヲ以テシ其ノ理由ヲ疏明スヘシ

第二十條　市町村長異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ遲滯ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ通知スヘシ

市町村長異議ノ申立ヲ不當トスルトキハ遲滯ナク意見ヲ附シ申立書ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第二十一條　前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所判事異議ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ其ノ旨ヲ市町村長及異議申立人ニ通知スヘシ異議ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ陪審員資格者名簿ヲ修正スヘキコトヲ命シ其ノ旨ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ異議申立書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　地方裁判所長ハ每年九月一日迄ニ翌年所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域內ノ市町村ニ割當テ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第二十三條　市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ割當テラレタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者名簿ニ之ヲ準用ス

第二十四條　區裁判所判事ハ陪審員候補者ノ選定ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ監督ス

區裁判所判事ハ前項ノ事務ニ付市町村長ニ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　市町村長ハ十一月三十日迄ニ陪審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ

市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ニ其ノ旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十六條　市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審員候補者名簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

第二十七條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者四分ノ三呼出ニ應シタル後ニ非サレハ其ノ年內再ヒ陪審員ニ選定セラルルコトナシ

第二十九條　陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス

第三十條　陪審ハ檢事被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス

第三十一條　裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要スト思料スルトキハ十二人ノ陪審員ノ外一人又ハ數人ノ補充陪審員ヲ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ之ニ代ルモノトス

補充陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務ヲ行フハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ依ル

第三十二條　同日ニ數箇ノ事件ノ公判ヲ開ク場合ニ於テハ數箇ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ陪審ヲ構成スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三條　檢事及被告人異議ナキトキハ一ノ事件ノ爲構成セラレタル陪審ヲシテ同日ニ審理ユヘキ他ノ事件ノ爲其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十四條　陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス

第三章　陪審手續

第一節　公判準備

第三十五條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ裁判長ハ公判準備期日ヲ定ムヘシ

第三十六條　被告人公判準備期日前辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　公判準備期日ニハ被告人及辯護人ヲ召喚スヘシ

公判準備期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

第三十八條　召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

第三十九條　公判期日ヲ定メタル後被告人ノ請求ニ因リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシタルトキハ其ノ公判期日ヲ公判準備期日トス

第四十條　公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數ノ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ爲ス

公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非サレハ取調ヲ爲スコトヲ得ス辯護人數人アルトキハ其ノ一人ノ出頭ヲ以テ足ル

公判準備期日ニ於ケル取調ハ之ヲ公行セス

第四十一條　第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルトキハ裁判長ハ被告人ニ對シ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ

第四十二條　公判準備期日ニ於テハ裁判長ハ公訴事實ニ付出頭シタル被告人ヲ訊問スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事及辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

第四十三條　公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ必要ナル證據調ノ決定ヲ爲スヘシ

檢事、被告人及辯護人ハ證人訊問、鑑定、檢證又ハ證據物若ハ證據書類ノ集取ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第四十四條　裁判所書記ハ公判準備調書ヲ作リ公判準備期日ニ於ケル被告人ニ對スル訊問及其ノ供述、檢事被告人辯護人ノ申立、裁判所ノ裁判其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

第四十五條　公判準備調書ニハ前條ニ規定スル事項ノ外被告事件、被告人及出頭シタル辯護人ノ氏名竝手續ヲ爲シタル裁判所年月日及裁判長陪席判事檢事裁判所書記ノ官氏名ヲ記載シ被告人出頭セサルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條　公判準備調書ハ三日內ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印スヘシ

裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備調書ヲ檢閱シ意見アルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十七條　檢事、被告人及辯護人ハ公判準備期日前第四十三條第二項ノ請求ヲ爲スコトヲ得公判期日七日前迄亦同シ

第四十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條　裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ檢事、被告人及辯護人ニ通知スヘシ

第四十九條　公判準備期日外ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ストキハ被告人モ亦之ニ立會フコトヲ得

裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタル被告人ハ之ニ立會フコトヲ得ス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第五十條　前條第一項ノ手續ヲ爲スヘキ日時及場所ハ被告人ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　公判準備中陪審ノ評議ニ付スヘカラサル事由生シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

公判準備期日ニ於テ前項ノ事由生シタルトキハ其ノ期日ヲ公判期日トス但シ訴訟關係人中出頭セサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　被告人ハ公判準備期日ニ管轄違ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ管轄違ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第五十四條　裁判所公判準備期日ニ免訴ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

免訴ノ決定確定シタルトキハ同一ノ事件ニ付更ニ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十五條　前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見ヲ聽クヘシ

決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公判準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ失ハス

第五十七條　公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リテ選定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ

第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　陪審員ニ對スル呼出狀ニハ出頭スヘキ日時、場所及呼出ニ應セサルトキハ過料ニ處スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第五十九條　陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ呼出ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務ヲ辭スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第二節　公判手續及公判ノ裁判

第六十條　陪審構成ノ手續ハ判事、檢事、裁判所書記、被告人、辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ手續ハ之ヲ公行セス

第六十一條　前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

出頭シタル陪審員二十四人ニ達セサルトキハ裁判長ハ之ヲ補充スル爲裁判所所在地又ハ其ノ附近ノ市町村ノ陪審員候補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ必要ナル員數ノ陪審員ヲ選定シ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ呼出スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十二條　陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ケ除斥ノ原由アリヤ否ヲ問フヘシ

檢事、被告人及陪審員除斥ノ原由アリトスルトキハ其ノ旨ノ申立ヲ爲スヘシ

除斥ノ原由アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十三條　出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セサル者アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十四條　檢事及被告人ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌避スルコトヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告人ハ尙一人ヲ忌避スルコトヲ得

被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ行フ共同ノ方法ニ付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行ハシムル方法ハ裁判長之ヲ定ム

第六十五條　裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタル後檢事及被告人ノ忌避スルコトヲ得ル員數ヲ告知スヘシ

裁判長ハ氏名票ヲ一票宛抽籤函ヨリ抽出シ之ヲ讀上クヘシ

裁判長氏名ヲ讀上ケタルトキハ檢事及被告人ハ承認又ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢事ヲ先ニシ被告人ヲ後ニス

忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得ス

次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出ス迄ニ陳述ヲ爲ササルトキハ承認ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言スル迄陳述ヲ爲ササルトキ亦同シ

陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言シタル後亦同シ

第六十六條　前條ノ手續ニ依リ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ數ヲ充シタルトキハ裁判長ハ抽籤終リタル旨ヲ宣言スヘシ

第六十七條　陪審ヲ構成スヘキ陪審員ハ初ニ當籤シタル十二人ヲ以テ之ニ充テ補充陪審員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

第六十八條　陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ從ヒ著席スヘシ

第六十九條　裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前陪審員ニ對シ陪審員ノ心得ヲ諭告シ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第七十條　裁判長ハ陪席判事ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問及證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事及翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

第七十一條　證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ル

第七十二條　左ニ揭クル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書

二　檢證、押收又ハ搜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖畫

三　公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付公務員ノ作リタル書類

四　前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシテ其ノ眞正ナルコトノ證明アルモノ

五　鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫

第七十三條　裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事、司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル訊問調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ

二　被告人又ハ證人公判外ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ於テ變更シタルトキ

三　被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲ササルトキ

第七十四條　前二條ノ場合ノ外裁判外ニ於テ被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類又ハ裁判外ニ於テ作成シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十五條　證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議ナキ書類圖畫ハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十六條　證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ

辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ援用スルコトヲ得ス

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第七十七條　前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實竝證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

第七十八條　裁判長ノ說示ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十九條　裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス

補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ得

有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル原由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

第八十條　陪審員、檢事、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第八十一條　裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ陪審ニ交付スヘシ

陪審員ハ問書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條　裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ評議室ニ退カシムヘシ

裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪審ニ交付スルコトヲ得

第八十三條　陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議ヲ了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ得ス

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得ス

第八十四條　陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セシムル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ對シ滯留ノ場所及他人トノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示スヘシ

第八十五條　陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラレタル事項ヲ遵守セサルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

第八十六條　陪審員ハ陪審長ヲ互選スヘシ

陪審長ハ議事ヲ整理ス

第八十七條　陪審ハ評議ヲ了ル前更ニ說示ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ其ノ申立ヲ爲スヘシ

第八十八條　答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ問ニ揭クル事實ノ一部ヲ肯定又ハ否定スルトキハ之ニ付然リ又ハ然ラヌノ語ヲ以テ答申スヘシ

第八十九條　評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ

主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

第九十條　陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示スヘシ

陪審長ハ最後ニ其ノ意見ヲ表示スヘシ

第九十一條　犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ノ過半數ノ意見ニ依ルコトヲ要ス

犯罪構成事實ヲ肯定スル陪審員ノ意見其ノ過半數ニ達セサルトキハ之ヲ否定シタルモノトス

第九十二條　答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出スヘシ

答申ニ不備又ハ齟齬アルトキハ裁判長ハ問書ヲ返付シ更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スヘキ旨ヲ命スヘシ

第九十三條　裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲシテ問及之ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀セシムヘシ

第九十四條　前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退廷セシムヘシ

第九十五條　裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得

第九十六條　陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲ササルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第九十七條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘシ

第九十八條　引續キ七日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪審員ナキトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審構成ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス公訴棄却、管轄違又ハ免訴ノ裁判ヲ爲スヘキ原由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ陪審ヲ爲スヘシ

第百條　裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審ノ構成其ノ他陪審ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ說示ノ要領ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三節　上訴

第百一條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第百二條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第百三條　上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一　法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セサリシトキ
二　第十二條第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タルコトヲ得サル者評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス
三　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ申立ヲ爲ササリシトキハ此ノ限ニ在ラス
四　忌避セラレタル陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス
五　裁判長ノ說示法律ニ違反シタルトキ
六　裁判長證據トシテ說示シタルモノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ
七　裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ說示ヲ爲シタルトキ

第百五條　上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ラ裁判ヲ爲ス場合ヲ除クノ外事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審ノ評議ノ結果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ答申以後ノ手續ノミヲ爲スヘシ

第四章　陪審費用

第百六條　左ニ揭クルモノヲ以テ陪審費用トシ訴訟費用ノ一部トス
一　陪審員ノ呼出ニ要スル費用
二　陪審員ニ給與スヘキ旅費、日當及止宿料

第百七條　陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲ストキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス

第五章　罰則

第百八條　陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス
一　故ナク呼出ニ應セサルトキ
二　宣誓ヲ拒ミタルトキ
三　第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
四　故ナク退廷シタルトキ
五　第八十四條ノ指示ニ違反シタルトキ

第百九條　陪審員評議ノ顚末又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ揭載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十條　裁判長ノ許可ヲ受ケスシテ陪審ノ評議室ニ入リ又ハ陪審ノ評議ヲ了ル前裁判所內ニ於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條　陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シ請託ヲ爲シ又ハ評議ヲ了ル前私ニ意見ヲ述ヘタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條　過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章　補則

第百十三條　市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第百十四條　第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年勅令第百四十四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第百十三條及第百十四條ノ規定ヲ、同三年七月勅令第百六十四號ヲ以テ同年十月一日ヨリ前各條以外ノモノ施行）

本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

●陪審法施行規則

（昭和二年五月二十八日司法省令第十六號）

沿革　昭和三年七月司法省令第一八號改正

陪審法施行規則

第一條　陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　前條ノ名簿ニハ丁數ヲ記入シ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

第三條　陪審員資格者名簿ノ副本ハ每年九月三十日迄ニ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第四條　陪審員資格者名簿ノ縱覽期間ニハ日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ヲ算入スルコトヲ得ス

異議ノ申立ノ期間ノ末日日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキ亦前項ニ同シ

第五條　陪審員資格者名簿縱覽ノ期間ハ其ノ初日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第六條　陪審員資格者名簿ハ之ヲ縱覽ニ供シタル後ハ名簿中脫漏誤載等アルモ異議ノ申立又ハ區裁判所判事ノ命ニ依ル

場合ノ外市町村長限リ之ヲ修正スルコトヲ得ス

第七條　市町村長陪審員資格者名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ年月日及陪審法第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ削除又ハ追加シタル旨ヲ欄外ニ朱書シ捺印スヘシ

第八條　陪審法第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ陪審員資格者名簿ヲ整理シタル後其ノ資格者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ陪審法第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ通知スヘシ

第九條　地方裁判所長ハ豫メ翌年一月乃至十二月ニ於ケル陪審事件ノ總數ヲ推算シ之ニ基キテ所要ノ陪審員ノ總數ヲ定メ各市町村ニ於ケル陪審員資格者ノ員數ニ之ヲ按分シテ各市町村ニ割當ツヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ標準ニ依リ割當ヲ爲スコトヲ得

第十條　市町村長地方裁判所長ヨリ割當テラレタル陪審員ノ員數ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者抽籤ノ場所及日時ヲ定メ之ヲ告示スヘシ

市町村長ハ抽籤ノ立會人ヲ選定シ前項ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ本人ニ通知スヘシ

立會人ハ正當ノ事由ナクシテ立會ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　陪審員候補者ノ抽籤ハ陪審員資格者名簿ニ掲クル資格者ノ番號ニ符合スル番號票ヲ作製シ之ヲ抽籤函ニ入レ攪拌シタル後一票宛抽籤函ヨリ所要員數ニ達スル迄抽出スヘシ

第十二條　第八條ニ掲クル者ハ之ヲ抽籤ヨリ除クヘシ

第十三條　抽籤函及番號票ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十四條　市町村長陪審員候補者ヲ選定シタルトキハ陪審員候補者選定錄ヲ作成スヘシ

陪審員候補者選定錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ市町村長抽籤ノ立會人ト共ニ署名捺印シ陪審員候補者名簿ノ副本ト併セテ之ヲ保存スヘシ

一　選定ノ日時及場所

二　抽籤ニ立會ヒタル立會人ノ住居氏名年齡

三　割當テラレタル陪審員候補者ノ員數

四　第十二條ニ依リ抽籤ヲ除キタル者アルトキハ其ノ氏名及事由

五　抽出シタル番號票ノ番號

六　其ノ他市町村長ニ於テ必要ト認ムル事項

第十五條　市町村長ハ區裁判所判事ニ送付スルモノノ外陪審員候補者名簿ノ副本ヲ調製シ其ノ廳ニ保存スヘシ

第十六條　陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ノ原本ハ調製ノ日ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

第十七條　陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ニ付テハ第十三條ニ定ムル樣式ニ依ル抽籤函及番號票ヲ使用スヘシ

第十八條　陪審法第六十五條ノ氏名票及抽籤函ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十九條　地方裁判所長陪審法第二十六條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入捺印シ當該陪審員候補者ハ之ヲ陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ヨリ除クヘシ

第二十條　地方裁判所長陪審法第二十七條ノ規定ニ依リ陪審員ヲ選定シタルトキハ陪審員選定錄ヲ調製スヘシ

陪審員選定錄ハ毎年之ヲ編綴シテ帳簿ト爲シ翌年一月一日ヨリ五年間保存スヘシ

第二十一條　地方裁判所長陪審員ノ選定手續ヲ終リタルトキハ陪審員氏名通知書ヲ作成シ之ヲ當該事件擔當ノ裁判長ニ送付スヘシ

第二十二條　陪審員選定錄及陪審員氏名通知書ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條　裁判長ハ陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ノ氏名ヲ地方裁判所長ニ通知スヘシ

地方裁判所長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿中當該氏名欄ニ㊞ノ朱印ヲ押捺スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號　陪審員資格者名簿樣式（用紙美濃紙）

第號	納稅額	住居地	生年月日	職業	身分	氏名
一	圓	何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地	何年何月何日	何々	族	何某

備考

一　名簿ハ市ニ在リテハ町、町村ニ在リテハ大字若ハ小字毎ニ區別シイロハ順其ノ他一定ノ順序ニ依リ記載スヘシ
但シ一字若ハ數字毎ニ分綴スルモ妨ナシ
二　番號ハ字區分ニ拘ラス之ヲ通シテ記入スヘシ
三　名簿ノ表紙及末尾ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

昭和何年九月一日現在調

陪審員資格者名簿

原（副）本

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）

（末尾）

此ノ名簿ハ何年何月何日ヨリ何日間何役所何町村役場ニ於テ縱覽セシメタリ

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）長　何　某印

第二號　陪審員候補者名簿樣式（用紙美濃紙）

陪審員資格者名簿樣式ニ同シ

備考

一　名簿ハ市ニ在リテハ町、町村ニ在リテハ大字若ハ小字毎ニ區別シイロハ順其ノ他一定ノ順序ニ依リ記載スヘシ
但シ一字又ハ數字毎ニ分綴スルモ妨ナシ
二　番號ハ字區分ニ拘ラス之ヲ通シテ記入スヘシ
三　名簿ノ表紙及末尾ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

昭和何年何月何日調製

陪審員候補者名簿　原（副）本

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）

（末尾）

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）長　何　某印

第三號　抽籤函及番號票樣式（木又ハ金屬製）（省略）

第四號　氏名票及抽籤函樣式（省略）

陪審法第十二條ノ直接國税ノ種類ニ關スル件

（昭和二年五月二十八日勅令第百四十六號）

（副）總司、大臣署

朕陪審法第十二條ノ直接國税ノ種類ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陪審法第十二條ノ規定ニ依ル內地又ハ樺太ニ於ケル直接國税ノ種類左ノ如シ

一　地租
二　第三種所得税

三　營業收益稅
四　砂鑛區稅
五　乙種資本利子稅
六　鑛業稅
七　市街宅地稅
八　漁業稅

附　則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

國稅營業稅ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ營業收益稅ト看做ス

●陪審員旅費日當及止宿料規則

（昭和三年九月十九日）（勅令第二百三十四號）副總、司、大臣署

朕陪審員旅費日當及止宿料規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陪審員旅費日當及止宿料規則

第一條　陪審員ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等旅客運賃、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃ニ依リ、汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ十五錢以內、其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ九十錢以內ニ於テ裁判所ノ定ムル額トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第二條　陪審員ノ日當ハ公判ノ審理ニ關與シタル日ニ付テハ一日ニ付五圓、其ノ他ノ日ニ付テハ一日ニ付二圓五十錢トス

第三條　陪審員ノ止宿料ハ陪審員宿舍ニ止宿シタル場合ニ於テハ一夜ニ付二圓五十錢、其ノ他ノ場合ニ於テハ一夜ニ付五圓トス

第四條　陪審員ノ旅費、日當及止宿料ハ判決前ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

附　則

本令ハ昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●司法事務共助法

（明治四十四年三月三十日）（法律第五十二號）副總、外、司、大臣署

沿革　大正一一年三月法律第二三號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル司法事務共助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法事務共助法

第一條　內地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域ニ於テ司法事務ヲ取扱フ官廳間ノ司法事務ノ共助ハ本法ニ依ル

第二條　司法事務ヲ取扱フ官廳ハ民事及刑事ニ關シ相互ニ左ノ事項ヲ囑託スルコトヲ得

一　訴訟書類ノ送達
二　證據調
三　令狀ノ發付及執行
四　犯罪ノ搜査

第三條　民事ノ判決ハ其ノ執行力アル正本ニ基キ司法事務ヲ取扱フ他ノ官廳ノ管轄區域內ニ於テ其ノ强制執行ヲ爲スコトヲ得但シ執行地ノ法令ニ依リ許スヘカラサル請求ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ假差押又ハ假處分ノ命令ノ執行ニ之ヲ準用ス

第四條　刑事ノ判決ハ謄本ヲ送付シテ其ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得但シ死刑又ハ笞刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ囑託ニ依ル執行ニ付テハ刑名同シキモノハ之ヲ同一ノ刑ト看做シ舊韓國法規ノ流刑又ハ禁獄ハ之ヲ禁錮ト看做ス

第五條　前條ノ規定ニ依リテ囑託ヲ受ケタル官廳ハ其ノ管轄區域內ノ監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ繼續スルコト能ハサル事由ヲ生シタルトキハ囑託ヲ爲シタル官廳ニ其ノ管轄區域內ノ監獄ニ於テ繼續シテ之ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第六條　司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年十月勅令第二百六十七號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第二章　管轄區域

●裁判所管轄區域

（大正二年四月七日）（法律第九號）副總、司、大臣署

沿革　大正五年三月法律第一二號、六年七月第一四號、七年三月第一七號、八年三月第二三號、一〇年四月第五二號、一一年四月第三五號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所管轄區域ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裁判所管轄區域別表ノ通定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正二年四月勅令第五十四號ヲ以テ同年同月二十一日ヨリ施行）

本法施行前裁判所ノ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

附　則（大正六年法律第十四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正六年八月勅令第百二十四號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行）

本法施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

附　則（大正七年法律第十七號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正七年六月勅令第二百四十四號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行）

本法施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

附　則（大正八年法律第二十三號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年六月勅令第二百八十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

○大正十一年四月法律第三十五號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年八月勅令第三百七十號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

本法施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

（別表）

裁判所管轄區域表

控訴院地方裁判所	區裁判所	管轄區域
東京	東京	東京府ノ內
		東京市
		荏原郡
		豐多摩郡
		北豐島郡
		南足立郡
	八王子	東京府ノ內
		南多摩郡
		北多摩郡
		西多摩郡
横濱	横濱	神奈川縣ノ內
		横濱市
		高座郡
		久良岐郡
		津久井郡
		橘樹郡
		都筑郡
		鎌倉郡
	横須賀	神奈川縣ノ內
		横須賀市
		三浦郡
	小田原	神奈川縣ノ內
		足柄下郡
		足柄上郡
		中郡
		愛甲郡
浦和		埼玉縣ノ內
		北足立郡ノ內
		大宮町
		浦和町
		志木町
		笹目村
		三室村
		南平柳村
		植水村
		指扇村
		小室村
		馬室村
		小谷村
		內間木村
		入間郡ノ內
		鶴瀨村
		北埼玉郡ノ內
		加須町
		高柳村
		和元村
		利島村
		大桑村
		南埼玉郡ノ內
		菖蒲町
		平野村
		稻間村
		上蕨尾町
		大和田町
		戸田村
		神根村
		片柳村
		三橋村
		平方村
		小針村
		中丸村
		吹上村
		新倉村
		南畑村
		大騎村
		西越村
		水村
		豐野村
		深君村
		村村
		清久村
		久山村
		喜町村
		桶川町
		六辻村
		芝田村
		野木村
		大崎村
		砂土村
		大谷村
		加納村
		常光村
		白子村
		七里村
		太江村
		綾瀨村
		田面村
		志多見村
		禮羽村
		三田村
		笠ケ谷村
		原俣村
		宗岡村
		鳩ケ谷町
		鴻巣町
		土合村
		青木村
		尾間木村
		大久保村
		宮原村
		大石村
		川田谷村
		膝折村
		田間宮村
		水谷村
		鶴三宮村
		須賀村
		原鴻巣村
		東道村
		川邊村
		三芳村
		與野町
		市場町
		原市村
		美谷本村
		横曾根村
		谷田村
		馬宮村
		日進村
		上戸村
		石平村
		箕田村
		片山村
		三田ケ谷村
		種足村
		不動岡村
		樋遣川村
		小篠津村

浦和		北葛飾郡ノ內 幸手町 櫻田村 吉田村 杉戸町 行幸村 八代村 栗橋町 上高野村 田宮村 靜村 高野村 櫻井村 豐田村 權現堂川村 豐岡村
	越ヶ谷	埼玉縣ノ內 南埼玉郡ノ內 越ヶ谷町 八幡村 出羽村 荻島村 武里村 河合村 岩槻町 八條村 增林村 新和村 豐春村 百間村 粕壁町 川柳村 新方村 和土村 內牧村 日勝村 大澤町 大相模村 櫻井村 柏崎村 慈恩寺村 潮止村 蒲生村 大袋村 川通村 黑濱村 北足立郡ノ內 草加町 戸塚村 新郷村 大門村 谷塚村 春岡村 新田村 安行村 北葛飾郡ノ內 吉川町 旭村 八木郷村 金杉村 幸松村 三輪野江村 寶珠花村 豐野村 彥成村 富多村 堤郷村 早稲田村 南櫻井村 松伏領村 戸ヶ崎村 川邊村
	川越	埼玉縣ノ內 入間郡ノ內 川越町 越生町 仙波村 松井村 元狹山村 堀兼村 田黑澤村 大家村 山口村 所澤町 飯能町 高階村 富岡村 金子村 福原村 山田村 川角村 吾妻村 豐岡町 芳野村 福岡村 小手指村 東金子村 奥富村 三芳野村 毛呂村 名細村 入間川町 古谷村 大井村 三ヶ島村 藤澤村 日東村 勝呂村 山根村 鶴ヶ島村 坂戸町 南古谷村 柳瀨村 宮寺村 入間村 大田村 入西村 梅園村 高萩村

		高麗川村 水富村 原市場村 高麗村 元加治村 南高麗村 東吾野村 加治村 霞ヶ關村 精明村 柏原村 植木村 比企郡ノ內 今宿村 三保谷村 小見野村 出丸村 中山村 八ッ保村 伊草村 秩父郡ノ內 名栗村 吾野村
	熊谷	埼玉縣ノ內 大里郡 兒玉郡 北埼玉郡ノ內 忍町 共和村 星宮村 北河原村 岩瀬村 中島村 羽生町 埼玉村 須加村 荒木村 手子林村 井泉村 新郷村 星河村 長野村 南河原村 川俣村 太井村 屈巣村 須影村 太田村 廣田村 持田村 下忍村 成田村 中條村 比企郡ノ內 松山町 唐子村 竹澤村 高坂村 北吉見村 小川町 菅谷村 平村 野本村 大岡村 七郷村 玉川村 東吉見村 福田村 八和田村 明覺村 南吉見村 宮前村 大河村 龜井村 西吉見村 秩父郡ノ內 大椚村 槻川村 大河原村
	秩父	埼玉縣ノ內 秩父郡ノ內 秩父町 原谷村 野上村 下吉田村 小鹿野町 皆野村 國神村 大田村 橫瀨村 三澤村 金澤村 尾田蒔村 蘆ヶ久保村 白鳥村 矢納村 長若村 高篠村 樋口村 日野澤村 上吉田村

千葉	千葉	千葉縣ノ内市原郡	中川村
	市原	千葉縣ノ内市原郡	久那村
	東海	千葉縣ノ内姉崎町	浦山村
	姉崎	千葉縣ノ内姉崎町	影森村
	高瀧	千葉縣ノ内市原郡	白川村
	市東西村	千葉縣ノ内市原郡	中川村
佐倉	印旛	千葉縣ノ内印旛郡	
一宮本郷	長生	千葉縣ノ内長生郡	夷隅郡
松戸	東葛飾	千葉縣ノ内東葛飾郡	
木更津	君津	千葉縣ノ内君津郡	白鳥村
	市原	千葉縣ノ内市原郡	
	里見	千葉縣ノ内君津郡	
北條	安房	千葉縣ノ内安房郡	
八日市場	匝瑳	千葉縣ノ内匝瑳郡	海上郡
	香取	千葉縣ノ内香取郡	常磐村
	多古	千葉縣ノ内多古町	久賀村
			日吉村
			東條村

佐原	千葉	千葉縣ノ内香取郡	中和村
	神森	千葉縣ノ内香取郡	中村
	津新	千葉縣ノ内香取郡	飯高村
	笹佐	千葉縣ノ内香取郡	豐和村
	川原	千葉縣ノ内香取郡	古城村
	宮島	千葉縣ノ内香取郡	
	山宮	千葉縣ノ内香取郡	
	代村	千葉縣ノ内香取郡	
水戸	太田	茨城縣ノ内那珂郡	稲敷郡ノ内
	小瀬村	茨城縣ノ内那珂郡	新治郡ノ内
	大賀村	茨城縣ノ内那珂郡	
	大宮町	茨城縣ノ内那珂郡	
	玉川村	茨城縣ノ内那珂郡	
	瓜連村	茨城縣ノ内那珂郡	
	長盧田村	茨城縣ノ内那珂郡	
	靜倉付村	茨城縣ノ内那珂郡	
	八里村	茨城縣ノ内那珂郡	
	山方村	茨城縣ノ内那珂郡	
	大場村	茨城縣ノ内那珂郡	
	上野村	茨城縣ノ内那珂郡	
	槍澤村	茨城縣ノ内那珂郡	
	上野村	茨城縣ノ内那珂郡	
水戸	鹿島	茨城縣ノ内鹿島郡	
	那珂湊	茨城縣ノ内那珂郡	
	額田	茨城縣ノ内那珂郡	
	川田	茨城縣ノ内那珂郡	
	湊	茨城縣ノ内那珂郡	
	珂田	茨城縣ノ内那珂郡	
	那珂	茨城縣ノ内那珂郡	
	水戸市	茨城縣ノ内水戸市	
	德宿村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	鉾田村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	島田村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	戸多村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	額田村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	川田村	茨城縣ノ内那珂郡	
	湊町	茨城縣ノ内那珂郡	
	珂田町	茨城縣ノ内那珂郡	
	那珂村	茨城縣ノ内那珂郡	
	水戸市	茨城縣ノ内水戸市	
	諏訪村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	夏海村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	芳野村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	菅谷村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	佐野村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	平磯町	茨城縣ノ内鹿島郡	
	東茨城郡	茨城縣ノ内鹿島郡	
	橘文村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	良倉村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	大戸村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	東茨城郡	茨城縣ノ内鹿島郡	
	府馬村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	豐浦村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	大須賀村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	高岡村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	神崎町	茨城縣ノ内鹿島郡	
	東茨城郡	茨城縣ノ内鹿島郡	
	前五村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	木村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	大宮村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	崎谷村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	臺松村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	渡村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	西茨城郡	茨城縣ノ内鹿島郡	
	米香取郡	茨城縣ノ内鹿島郡	
	本大須賀村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	澤取村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	中石柳	茨城縣ノ内鹿島郡	
	野神河	茨城縣ノ内鹿島郡	
	多賀郡	茨城縣ノ内鹿島郡	
	上沼島村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	勝神國村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	田崎田村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	瑞穗町	茨城縣ノ内鹿島郡	
	小見川町	茨城縣ノ内鹿島郡	
	香取郡	茨城縣ノ内鹿島郡	
	八萬倉村	茨城縣ノ内鹿島郡	
	西都村	茨城縣ノ内鹿島郡	

東京

土浦	筑波郡ノ内	朝日村	安君原村	阿岡見村
	小野川村	上郷村	島名村	久賀村	谷田部町	波島村	三筑島村	旭岡村	作城村	葛村	北條田村	谷井田村	鹿島村	菅村	眞壁郡	小田村	十和田村	眞瀬村	小張村	牛久村	鳩崎村	木原村	蓙崎村
龍ケ崎	茨城縣ノ内	稲敷郡ノ内	北相馬郡ノ内	古渡村	太田村	柴崎村	浮島村	龍ケ崎町	大宮村	江戸崎町	金江津村	高田村	根本村	大戸村	生板村	君賀村	十餘島村	大須賀村	長戸村	生板村	君賀村	本新島村	伊崎村	八原村	源清田村	沼里村	阿波村	馴波村	長柴村	奥竿村	野村
麻生	茨城縣ノ内	鹿行方郡ノ内	矢田部村	豐津村	鹿島郡ノ内	東下村	高松村	大同村	中野村	中島村	若松村	豐郷村
下妻	茨城縣ノ内	筑波郡ノ内	眞壁郡	吉沼村	高道祖村	結城郡	猿島郡
	栃木縣ノ内	上都賀郡ノ内	宇都宮市	河内郡

宇都宮

宇都宮	鹽谷郡ノ内	鹿沼町	今市町	日光町
	大氏宮村	西方村	北押原村	南押原村	小來川村	栗山村	阿久津村	南摩村	板荷村	藤原村	落合村	加蘇村	菊澤村	三依村	東大蘆村	北犬飼村	船生村
芳賀	栃木縣ノ内	芳賀郡		
大田原	栃木縣ノ内	鹽那須郡ノ内	玉生村	喜連川町	高根澤村	熱田村	泉村	箒根村	岡村	鹽原村
栃木	栃木縣ノ内	下都賀郡ノ内	上都賀郡ノ内	眞名子村	粟野町	西方村	清洲村	永野村	粕尾村
足利	栃木縣ノ内	上足利郡	足都賀郡ノ内	安蘇郡
前橋	群馬縣ノ内	群馬郡ノ内	前橋市	長駒澁川村	尾寄村	勢多郡	伊香保町	古卷村	白郷井村	佐波郡	總社町	明治村	小野上村	東秋村	元總社村	金島村

前橋

沼田	群馬縣ノ內 利根郡	山田郡ノ內 大間々町	福岡村
新田	群馬縣新田郡ノ內 山田桐生町 毛里田村	邑楽郡	川內村 韮川村
高崎	群馬縣高崎市ノ內 群馬郡ノ內 倉賀野町 大類村 塚澤村 車郷村 國府村 多野郡ノ內 藤岡町 小野村 三波川村	碓氷郡	金古町 瀧川村 六郷村 箕輪村 清里村 新八幡村
			室田町 京ケ島村 長野村 相馬村 桃井村 鬼石村 美土里村
			佐野村 高尾村 新留馬村 久上郊村 片岡村 吉井村 平野村
			岩鼻村 中川村 倉田村 堤ケ岡村 神流川村 美九里原村
中之條	群馬縣ノ內 吾妻郡		
北甘樂	群馬縣ノ內 北甘樂郡 多野郡ノ內 神川村	中里村 上野村	

靜岡

靜岡	靜岡縣ノ內 靜岡市 榛原郡ノ內 中川根村	安倍郡 上川根村	庵原郡 志太郡
沼津	靜岡縣ノ內 駿東郡	田方郡	
吉原	靜岡縣ノ內 富士郡		
下田	靜岡縣ノ內 賀茂郡		
濱松	靜岡縣ノ內 濱松市 磐田郡ノ內 見付町 梅原村 南御厨村 長野村 富岡村 今井村 龍川村 熊智郡ノ內 周城村	濱名郡 上阿多古村 龍山村 三川村 岩田村 袖浦村 福島村 豐濱村 袋井町	引佐郡 中泉町 西浅羽村 十於保村 廣瀬村 敷地村 山香村 下阿多古村
			掛塚町 田原村 西貝村 向井通村 野部笠村 佐久間村
			二俣町 御厨村 天龍村 池田村 大藤村 光明村 浦川村
榛原	靜岡縣ノ內 小笠郡 榛川崎町	金谷町	相良町 勝間田村 坂部村

	掛川	吉田村　菅山村 初倉村　地頭方村　五和村　御前崎村　下川根村　白羽村　萩間村 磐田郡ノ内 幸浦村　東淺羽村　上淺羽村　笠西村　久努村 周智郡ノ内 森町　園田村　氣多村　山梨町　一宮村　熊切村　久努西村　天方村　宇刈村　三倉村　飯田村　犬居村
甲府	甲府	山梨縣ノ内 甲府市　北巨摩郡　西山梨郡　東山梨郡　東八代郡　中巨摩郡
	鰍澤	山梨縣ノ内 南巨摩郡　西八代郡
	谷村	山梨縣ノ内 南都留郡　北都留郡
	長野	長野縣ノ内 長野市　上水內郡　上高井郡 更級郡ノ内 稻荷山町　鹽崎村　日原村　御厨村　青木島村　榮村　篠ノ井町　川柳村　牧郷村　中津村　眞島村　更級村　信田村　更府村　今里村　小島田村　八幡村　大岡村　信里村　笹井村　西寺尾村　桑原村　信級村　共和村　稻里村　東福寺村 埴科郡ノ内 松代町　寺尾村　清野村　西條村　豐榮村　東條村
	飯山	長野縣ノ内

		下水內郡　下高井郡
長野	上田	長野縣ノ内 小縣郡 北佐久郡ノ内 北御牧村 埴科郡ノ内 屋代町　五加村　雨宮縣村　坂城町　埴生村　南條村　杭瀨下村　中之條村　森村　戶倉村　倉科村 更級郡ノ内 村上村　力石村　上山田村
	岩村田	長野縣ノ内 南佐久郡 北佐久郡ノ内 岩村田町　平根村　中津村　北大井村　布施村　橫鳥村　小諸町　三井村　三岡村　大里村　春日村　三郡和村　東長倉村　志賀村　南大井村　川邊村　協和村　西長倉村　高瀨村　御代田村　五郎兵衛新田村　本牧村　伍賀村　中佐都村　小沼村　南御牧村　芦田村
	松本	長野縣ノ内 松本市　東筑摩郡　南安曇郡
	木曾	長野縣ノ内 西筑摩郡
	大町	長野縣ノ内 北安曇郡
	上諏訪	長野縣ノ内

諏訪郡	飯田	長野縣ノ内下伊那郡
	伊那	長野縣ノ内上伊那郡
三條	新潟	新潟縣ノ内西蒲原郡ノ内新潟市 新潟縣ノ内西蒲原郡ノ内鎧郷村 新潟縣ノ内西蒲原郡ノ内卷町 新潟縣ノ内西蒲原郡ノ内和納村 新潟縣ノ内西蒲原郡ノ内黒埼村 新潟縣ノ内西蒲原郡ノ内間瀬村 新潟縣ノ内中蒲原郡ノ内白根町 新潟縣ノ内中蒲原郡ノ内松浦村 新潟縣ノ内十全村 新潟縣ノ内滿日村 新潟縣ノ内大形村 新潟縣ノ内荻川村 新潟縣ノ内臼井村 新潟縣ノ内茨曾根村 新潟縣ノ内南蒲原郡ノ内三條町 新潟縣ノ内南蒲原郡ノ内大崎村 新潟縣ノ内南蒲原郡ノ内森町村 新潟縣ノ内南蒲原郡ノ内西蒲原郡地藏堂町 新潟縣ノ内南蒲原郡ノ内燕町
		加茂峠村 下條村 鹿峠村 加茂町 道上村 峰岡村 四ツ合村 坂井村 松野尾村 五輪村 橋本村 川東村 阿賀野村 鳥浦村 小屋村 小林村 大合村 岩室村 月潟村 丙野村 小吉村 大名村 巣本村 菅江村 新山村 津村 曾根村 大野村 根岸村 庄瀬村 赤塚村 漆山村 味方村 角田村 龜村 川内村 金津村 早田村 石通村 須麓村 栗林村 大島村 福島村 本田村 田卷村 須田村 中野小屋村 升潟村 曾根村 浦濱村 小須戸村 大蒲原町 新關村 横川村 兩越村 大雨村 新飯田村 小澤村 中川村 長井村

新潟	米納津村 彌彥村 中蒲原郡ノ内 七谷村 三島郡ノ内 大河津村	太田村 粟生津村 島上村 吉田村 松長村
新發田	新潟ノ内北蒲原郡	東蒲原郡
村上	新潟縣ノ内岩船郡	
長岡	新潟縣ノ内 長岡市 三島郡ノ内 岩塚村 與板町 宮本村 黑川村 南蒲原郡ノ内 今町 庄川村	古志郡 寺泊町 深才村 大積村 桐島村 見附町 葛卷村 北魚沼郡 出雲崎町 日越村 日吉村 島田村 大面村 中之島村 片貝村 王寺川村 脇野町村 西越村 坂井村 來迎寺村 關原村 大塚村 山津村 新潟村
柏崎	新潟縣ノ内刈羽郡	
六日町	新潟縣ノ内南魚沼郡	中魚沼郡
高田	新潟縣ノ内高田市	中頸城郡 東頸城郡

	糸魚川	新潟縣ノ内 西頸城郡
	相川	新潟縣ノ内 佐渡郡
京都	京都	京都府ノ内 京都市 宇治郡 愛宕郡 久世郡 葛野郡 綴喜郡 乙訓郡 相樂郡 紀伊郡
	園部	京都府ノ内 船井郡 南桑田郡 北桑田郡
	宮津	京都府ノ内 與謝郡
	峯山	京都府ノ内 中郡 竹野郡 熊野郡
	舞鶴	京都府ノ内 加佐郡ノ内 舞鶴町 岡田中村 四所村 倉梯村 西大浦村 餘部町 丸八江村 高野村 與保呂村 新舞鶴町 東雲村 中筋村 志樂村 岡田上村 由良村 池ノ内村 朝來村 岡田下村 神崎村 餘内村 東大浦村
	福知山	京都府ノ内 天田郡 何鹿郡 加佐郡ノ内 河守町 有路下村 河守上村 河西村 河東村 有路上村

大阪	大阪	大阪府ノ内 大阪市 北河内郡 西成郡 東成郡 三島郡 豐能郡 中河内郡ノ内 八尾町 矢田村 枚岡村 大戸村 玉川村 西郡村 加美村 長吉村 南高安村 枚岡南村 意岐部村 布施村 龍華村 小阪村 北高安村 堅下村 池島村 英田村 西六郷村 若江村 長瀬村 瓜破村 堅上村 三野郷村 楠根村 曙川村 久寶寺村 巽村 中高安村 孔舍衙村 高井田村 東六郷村 北江村 彌刀村 三木本村 南河内郡ノ内 柏原村 太田村 志紀村
	堺	大阪府ノ内 堺市 泉北郡ノ内 向井町 舳松村 取石村 上神谷村 八田莊村 湊町 三寶村 鶴田村 西陶器村 西百舌鳥村 高石町 鳳村 北上神村 久世村 中百舌鳥村 濱寺町 神石村 東百舌鳥村 深井村 五箇莊村 踞尾村 美木多村 東陶器村 南河内郡ノ内 富田林町 大伴村 中村 川西村 高向村 金岡村 國分村 野田村 平尾村 長野町 石川村 河内村 錦郡村 三日市村 南八下村 玉手村 日置莊村 埴生村 古市町 磯長村 赤阪村 彼方村 加賀田村 北八下村 狹山村 黑山村 高鷲村 新堂村 山田村 千早村 千代田村 天見村 駒ケ谷村 三都村 丹南村 藤井寺村 喜志村 白木村 東條村 天野村 川上村 西浦村 大草村 丹比村 道明寺村 中河内郡ノ内

	天美村	大阪府ノ内南北郡ノ内	岸和田
	布忍村	信太村	南王子村
	松原村	上條村	北郷村
	三宅村	國府村	伯太村
	惠我村	穴師村	北池田村

神戸		
神戸	兵庫縣ノ内神戸市	武庫郡
伊丹	兵庫縣ノ内尼崎市	川邊郡
明石	兵庫縣ノ内明石郡	美囊郡
篠山	兵庫縣ノ内多紀郡	
柏原	兵庫縣ノ内氷上郡	
姫路	兵庫縣ノ内姫路市	飾磨郡
社	兵庫縣ノ内加東郡	加西郡
龍野	兵庫縣ノ内揖保郡	赤穗郡

大阪		
豐岡	兵庫縣ノ内城崎郡	出石郡
洲本	兵庫縣ノ内津名郡	三原郡
奈良	奈良縣ノ内奈良市	添上郡
葛城	奈良縣ノ内北葛城郡	高市郡
宇陀	奈良縣ノ内宇陀郡	高見村
五條	奈良縣ノ内吉野郡ノ内	下市町
大津	滋賀縣ノ内大津市	滋賀郡
水口	滋賀縣ノ内甲賀郡	栗太郡

奈良		
五條	吉野郡ノ内國樔村	龍門村
	中龍門村	檜垣本村
	吉野村	宗檜村
	上市町	賀名生村
	迫川村	秋野村
	中龍門村	十津川村
	檜垣本村	大塔村
	檜垣本村	大淀村
	檜垣本村	北山村
	檜垣本村	天川村
	檜垣本村	黒滝村
	檜垣本村	下北山村
宇陀	四郷村	小川村
	四郷村	上龍門村
葛城	北葛城郡	南葛城郡
奈良	奈良市	山邊郡
洲本	津名郡	磯城郡
豐岡	城崎郡	養父郡
	城崎郡	朝來郡
	城崎郡	美方郡

彦根	滋賀縣ノ内	犬上郡	愛知郡
長濱	滋賀縣ノ内	阪田郡	東淺井郡
和歌山	和歌山縣ノ内	和歌山市ノ内	海草郡
妙寺	和歌山縣ノ内	伊都郡ノ内	有田郡
田邊	和歌山縣ノ内	西牟婁郡ノ内	東牟婁郡ノ内
	和歌山縣ノ内	日高郡ノ内	大島村ノ内
	和歌山縣ノ内	日高郡ノ内	御坊町ノ内
御坊	志賀村	西内原村	矢田村
切目村	比井崎村	湯川村	早蘇村
名田村	三尾村	鹽屋村	丹生村
稲原村	和田村	野口村	藤田村
眞妻村	東内原村	松船村	羽床村
新宮	和歌山縣ノ内	東牟婁郡ノ内	新宮町ノ内
三里村	小口村	下太田村	小川村
北山村	請川村	那智村	七川村
九重村	敷屋村	宇久井村	下里村
玉置口村	本宮村	三津ノ村	太地村
四田村	高田村	上太田村	三尾川村
徳島	徳島縣ノ内	徳島市	名東郡
富岡	徳島縣ノ内	那賀郡	海部郡
脇町	徳島縣ノ内	美馬郡	三好郡
川島	徳島縣ノ内	麻植郡	阿波郡
高松	香川縣ノ内	高松市	千足村
瀧宮村	綾歌郡ノ内	中村	端岡村
羽床村	香川郡	木田郡	山内村
西分村	陶村	大川郡	小豆郡
山田村	畑村	小豆郡	

和歌山	和歌山縣ノ内	和歌山市ノ内	海草郡
和歌山	和歌山縣ノ内	那賀郡ノ内	有田郡
和歌山	和歌山縣ノ内	岩出町ノ内	貴志村
猿川村	南野上村	根來村	中貴志村
長谷村	北野上村	毛原村	西岩出村
眞國村	小川村	小倉村	丸栖村
志賀野村	上神野村	東野村	田中村
細野村	下神野村	中野上村	山崎村
名手村	上名手村	池田村	長田村
麻生津村	長田村	龍門村	王子村
田邊	下山路村	中山路村	上山路村
上南部村	清川村	高城村	岩代村
印南町	衣奈村	白崎村	由良村
御坊	日高郡ノ内	日高郡ノ内	和歌山縣ノ内
切目村	比井崎村	湯川村	早蘇村
名田村	三尾村	鹽屋村	丹生村
稲原村	和田村	野口村	藤田村
眞妻村	東内原村	松船村	羽床村
新宮	和歌山縣ノ内	東牟婁郡ノ内	新宮町ノ内
三里村	小口村	下太田村	小川村
北山村	請川村	那智村	七川村
九重村	敷屋村	宇久井村	下里村
玉置口村	本宮村	三津ノ村	太地村
四田村	高田村	上太田村	三尾川村
徳島	徳島縣ノ内	徳島市	名東郡
富岡	徳島縣ノ内	那賀郡	海部郡
脇町	徳島縣ノ内	美馬郡	三好郡
川島	徳島縣ノ内	麻植郡	阿波郡
高松	香川縣ノ内	高松市	千足村
瀧宮村	綾歌郡ノ内	中村	端岡村
羽床村	香川郡	木田郡	山内村
西分村	陶村	大川郡	小豆郡
山田村	畑村	小豆郡	

高松	丸亀	香川縣ノ內	仲多度郡
		丸亀市	
		綾歌郡ノ內	宇多津町
		坂出町	王越村
		松山村	飯野村
		川西村	岡田村
		栗熊村	
	觀音寺	香川縣ノ內	
		三豊郡	
高知	高知	高知縣ノ內	
		高知市	土佐郡
	須崎	高知縣ノ內	
		高岡郡	長岡郡
	安藝	高知縣ノ內	
		安藝郡	香美郡
	中村	高知縣ノ內	
		幡多郡	吾川郡
	名古屋	愛知縣ノ內	
		海部郡	愛知郡
		名古屋市	
		有多郡	東春日井郡
		松ノ內町	大高町
	一宮	愛知縣ノ內	丹羽郡
		中島郡	葉栗郡

名古屋	半田	愛知縣ノ內	
		知多郡ノ內	
		大野町	龜崎町
		半田町	常滑町
		東師町	河和町
		鬼崎浦村	上野村
		富貴村	小鈴谷村
	岡崎	愛知縣ノ內	
		額田郡	幡豆郡
	豐橋	愛知縣ノ內	
		豐橋市	渥美郡
		八名郡ノ內	
		下川村	石巻村
	新城	愛知縣ノ內	
		南設樂郡	北設樂郡
		八名郡ノ內	
		大野町	七郷村
		金澤村	賀茂村
安濃津	安濃津	三重縣ノ內	
		津市	安濃郡
松阪	松阪	三重縣ノ內	
		飯南郡	大淀村
		多氣郡ノ內	外城田村
		東黑部村	西山村
		齋宮村	大川村
		丹生村	佐奈村
		相可村	上御絲村
		五ケ谷村	下御絲村
	碧海	碧海郡	八幡村
		西加茂郡	篠島村
		東加茂郡	日間賀島村
	豐橋	寶飯郡	豐津村
			山吉田村
	新城		舟着村
			橋尾村
			八名村
			三上村
			明星村
			津田村

名古屋

安濃津	上野	三重縣ノ内阿山郡	名賀郡
	四日市	三重縣ノ内四日市市	三重郡　員辨郡　桑名郡
	山田	三重縣ノ内宇治山田市多氣郡ノ内三瀨谷村	度會郡　志摩郡　狹原村　領内村　大杉谷村
	大本	三重縣ノ内南牟婁郡	北牟婁郡
岐阜	岐阜	岐阜縣ノ内加茂郡武儀郡ノ内田原村	岐阜市　稻葉郡　富岡村　羽島郡　本巢郡　山縣郡
	八幡	岐阜縣ノ内郡上郡	
	大垣	岐阜縣ノ内安八郡	海津郡　養老郡　不破郡　揖斐郡
	御嵩	岐阜縣ノ内可兒郡　加茂郡ノ内太田町　山之上村　加治田村	土岐郡　惠那郡　下麻生町　加茂野村　八百津町　坂祝村　富田村　古井村　川邊町　蜂屋村　伊深村　三和村　下米田村　上米田村

	高山	岐阜縣ノ内大野郡	吉城郡　益田郡
	蘇原村	和知村	久田見村　黑川村　潮南村　西白川村　飯地村　東白川村　福地村　佐見村
福井	福井	福井縣ノ内丹生郡ノ内越前市　三方郡ノ内村	足羽郡　吉田郡　坂井郡　下岬村　國見村　殿下村　西安居村
	武生	福井縣ノ内南條郡　丹生郡ノ内朝日村　大虫村　織田村　天津村	今立郡　立待村　宮崎村　萩野村　吉川村　白山村　常磐村　豐城村　糸生村　吉野村　四箇浦村　志津村
	大野	福井縣ノ内大野郡	
	敦賀	福井縣ノ内敦賀郡	三方郡
	小濱	福井縣ノ内遠敷郡	大飯郡
	金澤	石川縣ノ内金澤市　能美郡ノ内川北村	石川郡　河北郡

富山	金澤			
	小松	七尾	輪島	
富山縣ノ內	石川縣ノ內 江沼郡ノ內 能美郡ノ內 小松町 大杉谷村 白根村 上峯村 湊村	石川縣ノ內 鹿島郡	石川縣ノ內 鳳至郡	
	安宅村 鳥越村 井野村 寺村 西村 栗生村	羽咋郡	珠洲郡	
	御幸村 白山村 金沢村 吉田村			
	苗代村 國府村 牧村 新村 久丸村			
	粟津村 板橋村 中尾村 口村 尾村			

富山				
	富山	魚津		
富山縣ノ內	富山縣ノ內 富山市 中新川郡ノ內 下新川郡ノ內 五百石村 利田村 下段村	富山縣ノ內 中新川郡ノ內 早月加積村 西水橋町 宮川村 弓庄村		
	上新川郡ノ內 東三郷村 大森村 釜ヶ淵村	東水橋町 北加積村 西加積村 白萩村		
	西三郷村 高野村 立山村	東滑川町 加積村 柿澤村		
	上舟橋村 段村	上山市 加積村 大岩村		
	東寺谷村	濱加積村 南加積村 相杉村		

高岡	出町	廣島		
高岡市 西礪波郡ノ內 福岡町 東五位村 五位山村	富山縣ノ內 東礪波郡 西礪波郡ノ內 石動町 生埴村 子撫村 廣瀬館村 東石黑村 大島村 水瀧村	廣島縣ノ內 廣島市 安藝郡ノ內 海田市町 牛田村 船越村 矢賀村 伯郡ノ內 佐伯郡ノ內 五日市町 平良村 上水內村 石內村 玖波村 津田村 賀茂郡ノ內		
射水郡 醍醐村 福田村 西五位村	松福 宮光 西島澤村 西太美村 鷹野尻村 栖村	戸矢 奥海山坂野村 中山村 小古嚴 友田島村 原方村 原村 吉玖 和島村	安佐郡	
氷見郡 熊山縣郡 小國村 吉勢村	若津 石黑澤村 太林村 東美谷村 是戸	熊溫品野村 畑賀村 熊野村 草河津村 三栗內村 宮內和村 木野村		
山王堤村 石村	戸出 南得町 正谷村 東蟹谷村 北蟹谷村 林	上府中瀨野村 瀨中野村 野村 八大幡村 砂竹村 四谷村 地和村 御前村 油見村		
立野村 赤丸村	南荒川村 谷瀨村 川村 廣江村 吉波村 籔村 高	下瀨野村 仁保村 坂村 已井村 觀水村 大丸村 淺原村		

	豐田郡ノ內	西條町	板城村
	豐田郡ノ內	熊野跡村	東志和村
	大河村	梨村	椹村
廣島縣ノ內	豐田郡ノ內	西高屋村	鄉造田賀村
	戸田郡ノ內	志和堀村	造賀村
	豐田村	田野村	豐村
	竹仁村	東高屋村	寺西村
	野仁村	下三永村	原村
	久乃芳村	吉土實村	川上村
	下御薗宇見村	賀茂村	西志和村
	小川谷村	吉川村	賀永村

竹原	呉	
廣島縣ノ內	廣島縣ノ內	
賀茂郡ノ內	安芸郡ノ內	警固屋町
竹原町	音戸町	江田島村
三津口村	大屋村	沖津村
野路村	下蒲刈島村	久茂村
豐田郡ノ內	佐伯郡ノ內	鹿川村
忠海町	三高村	津久村
崎南村	川村	高田村
大谷村	鹿茂郡ノ內	飛渡瀬村
木田西村	賀阿賀郡ノ內	中黑瀬村
沼田西村	廣賀村	下黑瀬村
豐田郡ノ內	呉市	上蒲刈島村
三津口村	下蒲刈島村	倉橋島村
竹原町	大屋村	本庄村
賀茂郡ノ內	音戸町	高田村
廣島縣ノ內	安芸郡ノ內	中村
廣島縣ノ內	呉市	焼山村
早田原村	江田島村	吉浦町
中切村	警固屋町	倉橋島村
內海町	沖津村	本庄村
御手洗町	久茂村	高田村
西野村	鄉方村	上黑瀬村
中野村	仁方村	乃美尾村
本郷村	上黑瀬村	大柿村
東村	乃美尾村	深江村
下野村	大柿村	飛渡瀬村
三津村	深江村	高田村
川尻村	飛渡瀬村	中村
內海跡村	中村	上蒲刈島村
內海跡村	下黑瀬村	焼山村

大

廣島

					廣島
山口	庄原	三次	福山	尾道	
山口縣ノ內	廣島縣ノ內	廣島縣ノ內	廣島縣ノ內	豐田郡ノ內	
吉敷郡	比婆郡ノ內	雙三郡ノ內	沼隈郡ノ內	佐江戸崎村	瀬戸田町
	帝釋村	比婆郡ノ內	深安郡ノ內	鷺浦村	名荷村
	八鋒村	口南村	草戸村	佐江戸崎村	沼隈郡ノ內
	庄原町	三次郡ノ內	水呑村	沼隈郡ノ內	松永町
	山內西村	高田郡	鞆町	今津村	山南村
	西城町	高田郡	蘆品郡	瀬戸村	神柳村
	小奴可村	北村	千年尻村	西生口村	大草村
	本和村	下高野山村	田島村	船木村	高坂村
	東城町	上高野山村	神石郡	津之郷村	本郷村
	八幡村		横島村	南生口村	津村
	峯田村		走島村	田野浦村	須波村
	山內北村		佐波郡	長谷村	赤坂村
	高森村		甲奴郡	東生口村	東村
	田信村		郷分村	須波村	浦崎村
	美古登村		沼田東村	沼田東村	金江村
	久代村		熊野村	北生口村	西島村
	山內東村			高根島村	百島村

山口

徳山	山口縣ノ内	熊毛郡	都濃郡
萩	山口縣ノ内	大津郡	阿武郡
岩國	山口縣ノ内	大島郡	玖珂郡
下關	山口縣ノ内	豐浦郡	下關市
船木	山口縣ノ内		厚狹郡
岡山	岡山縣ノ内	御津郡	上道郡
		赤磐郡	備前國
		和氣郡	生石村
		邑久郡	總社町
		久米郡	福谷村
		加茂村	撫川村
		中茶屋村	庄田村
		大清水村	足守村
		高屋村	服部村
		早島町	庭瀬村
		阿部村	日近村
		足守村	曾根村
		高梁川ノ内	倉敷町
		高梁川ノ内	中洲村
		高梁川ノ内	倉敷市
		高梁川ノ内	玉島町
玉島	岡山縣ノ内	都窪郡	吉備郡
		都窪郡	中洲村
		都窪郡	倉敷町
		都窪郡	玉島町
		都窪郡	連島村
		都窪郡	福田村
		都窪郡	生坂村
		都窪郡	總社町
		都窪郡	道谷村
		都窪郡	上竹村
		都窪郡	吉備村
		都窪郡	岡田村
		都窪郡	清音村
		都窪郡	高梁川ノ内
		都窪郡	高梁川ノ内
		都窪郡	高梁川ノ内

松江	木次	島根縣ノ内大原郡
	仁多郡	
	飯石郡	
	今市	島根縣ノ内簸川郡
	安濃郡	
	濱田	島根縣ノ内那賀郡
	益田	島根縣ノ内美濃郡
	鹿足郡	
	大森	島根縣ノ内邇摩郡
	邑智郡	
	西郷	島根縣ノ内吉周郡
	穩地郡	
	知夫郡	
	海士郡	
松山	今治	愛媛縣ノ内越智郡
	西條	愛媛縣ノ内新居郡
	宇摩郡	
	周桑郡	
	八幡濱	愛媛縣ノ内西宇和郡
	大洲	愛媛縣ノ内喜多郡
	松山	愛媛縣ノ内松山市
	溫泉郡	
	伊豫郡	
	上浮穴郡	

宇和島	宇和島	愛媛縣ノ内北宇和郡
	東宇和郡	
	南宇和郡	
長崎	長崎	長崎縣ノ内
	西彼杵郡ノ内	
	長崎市ノ内	
	上長崎村	
	王島村	
	伊王島村	
	脇岬村	
	日見村	
	與串村	
	長大村	
	以良村	
	多黑崎村	
	浦上山里村	
	北高來郡ノ内	
	古賀村	
	小ケ倉村	
	高島村	
	樺上村	
	矢津村	
	時戸村	
	崎戸村	
	瀨重村	
	三浦上村	
	土井首村	
	蚊爲石村	
	喜々津村	
	江松村	
	松島村	
	式見村	
	深堀村	
	高濱村	
	川原村	
	大草村	
	長浦村	
	平島村	
	雪浦村	
	福田村	
	香野村	
	茂木村	
	伊木力村	
	龜岳村	
	七釜村	
	神浦村	
	小榊村	
島原	長崎縣ノ内南高來郡	
大村	長崎縣ノ内東彼杵郡ノ内	
	萱瀨村	
	大村町	
	北高來郡ノ内	
	彼杵村	
	諫早町	
	森山村	
	眞津山村	
	湯江村	
	三浦村	
	竹川村	
	松棚村	
	福重村	
	鈴田村	
	下波佐見村	
	大松原村	
	上波佐見村	
	西大村	
	千綿村	
	小野村	
	戸石村	
	小野村	
	有喜村	
	諫早村	
	本野村	
	長井村	
	北諫早村	
	江ノ浦村	
	長田村	
	小栗村	
	結村	
	田村	
	小海村	
	深村	
長崎縣ノ内		

院

長崎	佐世保	佐世保市	
		東彼杵郡ノ内	
		宮村	
		西彼杵郡ノ内	
		崎針尾村	
		面高村ノ内	
		北松浦郡ノ内	黒瀬村
		黒島村ノ内	日宇村
		中里村ノ内	廣田村
	平戸	長崎縣ノ内	
		北松浦郡ノ内	
		獅子戸町	紐差村
		平戸村	平戸村
		笛吹村	前方村
		南田平村	田川村
		上志佐村	調町村
		江迎村	鹿村
	武生水	長崎縣ノ内	
		壹岐郡	
	福江	長崎縣ノ内	
		南松浦郡	
	嚴原	長崎縣ノ内	
		下縣郡	上縣郡
佐賀	佐賀	佐賀縣ノ内	
		佐賀市	佐賀郡
	武雄	佐賀縣ノ内	
		杵島郡	藤津郡
			神埼郡
			三養基郡
			小城郡

福岡	伊萬里	佐賀縣ノ内	
		西松浦郡	
	唐津	佐賀縣ノ内	
		東松浦郡	
	福岡	福岡縣ノ内	
		福岡市	
		糸島郡	筑紫郡
	甘木	福岡縣ノ内	
		朝倉郡	粕屋郡
	飯塚	福岡縣ノ内	
		嘉穂郡	宗像郡
	直方	福岡縣ノ内	
		鞍手郡	
		遠賀郡ノ内	長津村
		底井野村	香月村
	久留米	福岡縣ノ内	
		久留米市	
		三潴郡ノ内	三井郡
		芦木村	安武村
		三潴村	大善寺村
			西牟田村
			犬塚村
	吉井	福岡縣ノ内	
		浮羽郡	
		福岡縣ノ内	
		大牟田市	山門郡
			三池郡

柳河	三潴郡ノ内大川町大溝村田口村
八女	福岡縣ノ内八女郡
小倉	福岡縣ノ内小倉市遠賀郡ノ内折尾村島門村
行橋	福岡縣ノ内京都郡
田川	福岡縣ノ内田川郡
大分	大分縣ノ内大分市大分郡石垣村南由布村佐賀市村
	大分縣ノ内速見郡ノ内別府町北海部郡添村川神崎村大野郡犬飼ノ内町
	大分縣ノ内杵築町
長崎	
大分	
竹田	大分縣ノ内直入郡大野郡ノ内三重町川重村合小富士村西大野村
	大分縣ノ内下毛郡
佐伯	大分縣ノ内南海部郡大野郡ノ内重岡村
臼杵	大分縣ノ内北海部郡臼杵町ノ内海邊村青江村大野郡ノ内川登村
杵築	東國東郡ノ内南端村八坂村川崎村豐崎村西安岐村西國東郡ノ内朝田村

柳河	城島町木佐木村濱武村
	江上村久木室間田村
	青木村大壺川口村
	三潴村大清池村大野島村
八女	
小倉	若松市黒崎市淺木村
	八幡市戸畑市永犬丸村
	門司市大蘆屋津役村
	企救郡岡垣村島郷村
行橋	築上郡
田川	
大分	大分郡
	南由布村小佐井村
	北由布村大在村
	石垣村丹生村
	佐賀市村
	日出町御越町豐岡町朝日村
杵築	東藤原村山香村中大神村山香村東山浦村上北杵築村
	富來町旭日村南安岐村田原村
	武藏町中武藏村奈狩江村
	安岐町西武藏村大内村
	上國崎村朝來村
臼杵	佐賀關町北津留村田野村
	一尺屋村上北津留村日代村野津市村
	佐志生村南津留村四浦村戸上村
	下ノ江村下浦村保戸島村南野津村
佐伯	小野市村
竹田	百枝村牧口村緒方村井田村
	新田村南緒方村上井田村長谷村
	菅尾村長谷川村東大野村柴原村
	白山村上緒方村今市村

中津	宇佐郡ノ内	宇長横柳雨明治村
	宇佐郡ノ内	洲山ケ浦川村
	宇佐郡ノ内	麻和高龍村
	宇佐郡ノ内	生間並王村
	宇佐郡ノ内	町村村村
	宇佐郡ノ内	四日市町村
	宇佐郡ノ内	天津高驛院村
	宇佐郡ノ内	津家館内房村
	宇佐郡ノ内	長八豐南佐田村
	宇佐郡ノ内	峯幡川院田村
玉津	大分縣ノ内	西國東郡高田町
	大分縣ノ内	臼野地草村
	東國東郡ノ内	竹田津町
	東來浦村	速見郡ノ内
	宇佐郡ノ内	立石町
	宇佐郡ノ内	封戸村
	北馬城村	上伊美村
	三浦村	吳崎村
	河内村	宇佐郡ノ内
	西田眞玉村	佐生町
	岬眞玉村	四日市町
	伊美村	東西糸馬口城村
	東都甲村	天高驛館家村
	中眞玉村	津院內村
	三重村	長八峯村
	西都甲村	佐南豐川院內村
	上眞玉村	西都甲村
	熊毛村	佐南豐川院內村
日田	大分縣ノ内	日田郡
	玖珠郡	
熊本	熊本縣ノ内	熊本市
	菊池郡ノ内	大津町
	熊本縣ノ内	阿蘇郡ノ内
	上益城郡ノ内	西平合志村
	阿錦野村	眞城村
	菊池郡ノ内	大津町
	熊本縣ノ内	飽託郡
	山田護原	託水村
	西島川	水村
	村村村	村
	北合志村	津田村
	泗瀨	瀨
	水田村	田村
	合志村	陣內村
	熊毛村	上眞玉村
	毛村	都甲村

三角	熊本縣ノ内	宇土郡
	宇土郡ノ内	益城郡ノ内
	下益城郡ノ内	天草郡ノ内
	下益城郡ノ内	守富村
	天草郡ノ内	登立村
	杉	維和村
	合	村
	村	村
	上	村
	中	村
	濱	河江村
	飯	小野部田村
	秋	湯島村
	河	村
高瀨	熊本縣ノ内	玉名郡
御船	熊本縣ノ内	上益城郡ノ内
	上益城郡ノ内	御船町
	七倉村	森村
	津村	瀧野村
	木村	尾村
	高倉村	下益城郡ノ内
	甲	西隈庄村
	大	砥用町
	廣	砥用村
	福	砥用村
	水	砥用村
	中	杉上村
	乙	年
	飯	爾
	濱	村
	下	花房村
	白	間
	名	村
	小	東
	秋	砥用村
	河	村
	原	村
	津	村
	矢部	村
	旗	村
	連川	坂村
	名	村
	白	村
	下	村
	秋	村
	河	村
	原	村
	田	村
	村	村
山鹿	熊本縣ノ内	鹿本郡
	菊池郡ノ内	隈府町
	隈府町	龍門村
	旭	砦村
	野	茂川村
	河	城村
	原	北村
	村	村
	水	戸村
	源	崎村
	村	村
	迫	花房村
	間	村

宮地	熊本縣阿蘇郡宮地町	
	古城村	
	尾ケ石村	
	色見村	
	產山村	
	上益城郡朝日村ノ內	
八代	熊本縣八代郡	
人吉	熊本縣球磨郡	
天草	熊本縣天草郡ノ內	
	本渡町	
	崎津村	
	御所浦村	
	赤土村	
	鬼宇土村	
	高浦村	
	濱池村	
	深海村	
	島子村	
	手野村	
	姫戶村	
	樋島村	
	龜浦村	
鹿兒島縣ノ內鹿兒島市		
鹿兒島郡	高森町	
	坂梨村	
	黑川村	
	長陽村	
	菅尾村	
	馬見原町	
	山田尻村	
	野村	
	久木野村	
	柏	
	內牧町	
	南小國村	
	草部村	
	波野村	
	小峯村	
	中通村	
	北小國村	
	白水村	
	永水村	
	上津浦村	
	富岡町	
	楠浦村	
	二江村	
	大江村	
	魚本村	
	城河原村	
	志岐村	
	下津深江村	
熊毛郡	牛深町	
	下津浦村	
	棚底村	
	大多尾村	
	坂瀨川村	
	富玉津村	
	久宮地村	
	須合村	
	新地村	
	小田床村	
	久留村	
	阿志村	
	柿田村	
	宮田村	
	佐伊津村	
	都呂々村	
	宮地岳村	
	今津村	
	本戶村	
	一町田村	
	大浦田村	
	中田村	
	大楠村	
	甫村	
	下浦道村	
	御領村	
	福連木村	
	野河內村	
	宮敎村	
	良木河內村	
	本	
	龜甫村	
	高場村	
	碇石戶村	

鹿兒島	鹿兒島郡ノ內	
	吉利村	
	下伊集院村	
	日置郡ノ內	
加治木	鹿兒島縣姶良郡ノ內	
	財部村	
	嚶唹郡ノ內	
	末吉村	
知覽	鹿兒島縣川邊郡	
	揖宿郡	
川內	鹿兒島縣薩摩郡ノ內	
	日置郡ノ內	
	串木野村	
	出水郡	
	西市來村	
	東市來村	
鹿屋	鹿兒島縣肝屬郡ノ內	
	嚶唹郡ノ內	
	岩川村	
	西志布志村	
	恒吉村	
	月野村	
	市成村	
	野方村	
	松山村	
	大崎村	
	東志布志村	
大島	鹿兒島縣大島郡	
宮崎	宮崎縣宮崎郡ノ內	
	東諸縣郡	
飫肥	宮崎縣南那珂郡	
	兒湯郡	
都城	宮崎縣ノ內	

宮崎	延岡	宮崎縣ノ內 東臼杵郡	北諸縣郡　西諸縣郡
	高千穗	宮崎縣ノ內 西臼杵郡	
那覇	那覇	沖繩縣ノ內 那覇區	首里區　島尻郡　中頭郡　國頭郡
	平良	沖繩縣ノ內 宮古郡	八重山郡
仙臺	仙臺	宮城縣ノ內 仙臺市	宮城郡　名取郡　黑川郡
	大河原	宮城縣ノ內 柴田郡	亙理郡　伊具郡　刈田郡
	古川	宮城縣ノ內 志田郡	加美郡　玉造郡　遠田郡　栗原郡
	石卷	宮城縣ノ內 牡鹿郡 本吉郡ノ內 十三濱村	桃生郡
	登米	宮城縣ノ內 登米郡 本吉郡ノ內 柳津町	横山村

福島	氣仙沼	宮城縣ノ內 本吉郡ノ內 氣仙沼町 小泉村 新月村	志津川町 御嶽村 鹿折村 唐桑村 大島町
	福島	福島縣ノ內 福島市	信夫郡　伊達郡　安達郡
	相馬	福島縣ノ內 相馬郡	
	郡山	福島縣ノ內 安積郡	田村郡
	白河	福島縣ノ內 西白河郡	岩瀨郡　石川郡　東白川郡
	若松	福島縣ノ內 若松市 南會津郡	北會津郡　耶麻郡　河沼郡　大沼郡
	平	福島縣ノ內 石城郡	雙葉郡
山形	山形	山形縣ノ內 山形市 東置賜郡ノ內 中川村	南村山郡　東村山郡　西村山郡　北村山郡
	新庄	山形縣ノ內 最上郡	

宮城

山形

米澤	鶴岡	酒田	盛岡
山形縣米澤市 東置賜郡高畠町 大沖代村 塚屋郷村	山形縣西田川郡鶴岡町 東田川郡湯田川村 十六合村 東横山郷村 大泉村 東田川郡村ノ内	山形縣東飽海郡 西田川郡大和村ノ内 袖榮村 浦田郡村ノ内	嚴手縣盛岡市ノ内
南置賜郡 犬川野村 吉村 亀岡村 赤湯村	大山郷村 豐浦村 榮村 黑川村 本郷村 押切村 手向村	八幡榮里村 廣野村	嚴手郡
西置賜郡 中郡山村 金田村 和内町 宮村	加茂郡 京珠關田郷村 上念村 廣瀬村 山添村 立澤村	常萬村	紫波郡
小上村 吉村 漆村 島村 松山村	稲福村 大泉村 榮村 生村 黄金村	余目村	
二井宿村 梨野目村 藤郷村 伊佐澤村	大寶寺村 酒溫村 渡海村 齋郷村 狩川島村	新堀村	

盛岡

秋田	水澤	一關	宮古	遠野	二戸	花卷
秋田縣秋田市ノ内	嚴江縣刺澤郡ノ内 膽水町 白澤山村 若柳村 東磐井郡生母村ノ内	嚴西磐井郡 東磐井郡千厩町ノ内 八澤村 玉村 奥島村 長澤村 民村	嚴手縣下閉伊郡	嚴手縣上閉伊郡	嚴手縣二戸郡	膽澤郡相去村ノ内 稗貫郡
南秋田郡	前澤城村 古城村 永岡村	大原町 大津保村 磐清水村 田河津村 興田村		氣仙郡	九戸郡	和賀郡
河邊郡	佐倉河町 衣川村 金ケ崎村	藤折壁 澤崎村 門村村				
	眞山村 城村 小村	矢越村 黄海村 松川村 猿澤村				
	姉体都田村 南	小梨衣川村 薄舞村 摺澤村				

秋田

能代	秋田縣山本郡	由利郡ノ内下濱村
本荘	秋田縣由利郡ノ内象本荘小瀧出石西澤瀧澤下川大内村	矢子吉島町 鮎院川内村 小友川内村 上川大内村
大館	秋田縣北秋田郡ノ内	鹿角郡
横手	秋田縣平鹿郡ノ内横手町 荣吉田村 阿氣田村 黑川村	淺醒舞町 福田村 醍醐地村 根森村
湯澤	秋田縣雄勝郡ノ内平鹿郡ノ内増田町	十文字村
大曲	秋田縣仙北郡	

		東北下
		津軽郡
		沼館町 三重村 旭村
		大森村 植田村 八澤木村 朝倉村
		陸奥合村 山内村 境町

青森

青森	青森縣上北郡七戸町ノ内浦野館村	平鹿郡ノ内角間川町
五所川原	青森縣北津軽郡中津軽郡南津軽郡畑岡村ノ内	
弘前	青森縣弘前市ノ内中津軽郡南津軽郡黑石町ノ内	川西村
鯵ケ澤	青森縣西津軽郡	

		東津軽郡
		和德村 大岩木村 浦村
		豐田村 相馬村 船澤村
		堀越村 東目屋村 高杉村
		千年村 西目屋村 裾野村
		野邊地村 大深内村
		下北郡
		横濱村 六ケ所村
		天間林村
		甲地村
		女鹿澤村 五郷村 光田寺村 竹館村 藏館村
		富木館村 六郷村 田舍館村 金田居村 碇ケ關村
		十二里村 野澤村 中郷村 淺瀬石村 尾崎村
		大光寺村 山形村 常盤村 石川村
		藤崎村 猿賀村 浪岡村 藤代村 駒越村 清水村

	札幌					
	八戸	札幌	岩見澤	室蘭	浦河	小樽
	三戸郡	北海道ノ内	北海道ノ内	北海道室蘭郡ノ内	北海道浦河郡ノ内	北海道小樽區ノ内
	上北郡ノ内	札幌區ノ内	空知郡ノ内	勇拂郡ノ内	新冠郡	古平郡
	三戸郡ノ内	濱益郡	夕張郡	虻田郡ノ内	河内郡	小樽區
	百石村	札幌郡	江部乙村	苫小牧村	沙流郡	美國郡
	三本木町	千歲郡	栗澤村	累標村	似湯郡	積丹郡
	法奥澤村	石狩郡	岩見澤町	虻田郡ノ内	樣似郡	高島郡
	下田村	厚田郡	樺戸郡	有珠村	静内郡	忍路郡
	三藤澤村	四和村	瀧川村	辨邊村	三石郡	余市郡
	坂村	六戸村	沼貝村	安平村	幌泉郡	
			北歌志内村	穗別村	静内郡	
			幌向村	厚眞村		
			三笠山村	邊富内村		
				鵡川村		
				似湯村		

	札幌					
	函館		旭川			
	岩内	函館	江差	壽都	旭川	名寄
	岩内郡	北海道ノ内	北海道ノ内	北海道ノ内	北海道ノ内	北海道ノ内
	古宇郡	函館區	檜山郡	都磯郡	旭川區	上川郡（天鹽國）
	蛇田郡ノ内	松前郡	奥尻郡	壽磯郡	空知郡ノ内	紋別郡ノ内
	俱知安村	細田郡	爾志郡	磯谷郡	音江村	紋別郡ノ内
	東俱知安村	上磯郡	久遠郡	歌棄郡	南富良野村	雨龍郡ノ内
	眞狩村	茅部郡	太櫓郡	島牧郡	深川町	幌加内村
	喜茂別村	山越郡	瀬棚郡		雨龍郡ノ内	渚滑村
	狩太村				秩父別村	瀧上村
					勇拂郡ノ内	興部村
					占冠村	雄武村
					上川郡（石狩國）	中川郡（天鹽國）
					上富良野村	枝幸郡
					中富良野村	
					下富良野村	
					北龍村	
					雨龍村	
					上北龍村	
					一已村	
					多度志村	

樺太	釧路						
眞岡	豐原	根室	網走	帶廣	釧路	稚内	增毛
樺太ノ內鵜城郡	樺太ノ內富內郡	北海道ノ內根室國根室郡	北海道ノ內網走郡網走別郡紋別郡下湧別村	北海道ノ內河西郡足寄郡	北海道ノ內釧路郡	北海道ノ內宗谷郡	北海道ノ內增毛郡
本斗郡名好郡	榮濱郡留多加郡	花咲郡色丹郡得撫郡	斜里郡上湧別村常呂郡	河東郡廣尾郡上川郡（十勝國）中川郡（十勝國）十勝郡	白糠郡	天鹽郡	留萌郡
野田寒郡	元泊郡新問郡	野付郡新紗那郡知那郡			阿寒郡	利尻郡	苫前郡
泊居郡	大泊郡敷香郡	標津郡振別郡占守郡			川上郡	禮文郡	
久春內郡	長濱郡散江郡	目梨郡擇捉郡			厚岸郡		

◉地方裁判所支部權限及管轄區域

（大正二年四月十四日司法省令第七號）

沿革　大正五年三月司法省令第九號、六年八月第三號、七年六月第八號、八年六月第一二號、一〇年六月第一四號、一一年九月第二〇號、一二月第四二號、一二年八月第一一號、昭和二年一二月第三一號、三年七月第一七號改正

左ニ掲クル地方裁判所支部ハ民事第一審ノ事務及刑事第一審ノ事務ヲ取扱フ但シ陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ノ公判準備及公判手續ヲ除ク

浦和地方裁判所熊谷支部
千葉地方裁判所木更津支部
千葉地方裁判所八日市場支部
水戸地方裁判所土浦支部
水戸地方裁判所下妻支部
宇都宮地方裁判所栃木支部
前橋地方裁判所高崎支部
靜岡地方裁判所濱松支部
長野地方裁判所上田支部
長野地方裁判所松本支部
長野地方裁判所飯田支部
新潟地方裁判所新發田支部
新潟地方裁判所長岡支部
新潟地方裁判所高田支部
神戸地方裁判所姫路支部
神戸地方裁判所豐岡支部
和歌山地方裁判所田邊支部
名古屋地方裁判所岡崎支部
金澤地方裁判所七尾支部
富山地方裁判所高岡支部
廣島地方裁判所吳支部
廣島地方裁判所尾道支部
廣島地方裁判所三次支部
山口地方裁判所岩國支部
山口地方裁判所下關支部
岡山地方裁判所津山支部
鳥取地方裁判所米子支部
松江地方裁判所濱田支部
松山地方裁判所西條支部
松山地方裁判所宇和島支部
長崎地方裁判所佐世保支部
福岡地方裁判所飯塚支部
福岡地方裁判所久留米支部

福岡地方裁判所小倉支部
大分地方裁判所中津支部
熊本地方裁判所八代支部
仙臺地方裁判所古川支部
仙臺地方裁判所石巻支部
福島地方裁判所白河支部
福島地方裁判所若松支部
福島地方裁判所平支部
山形地方裁判所米澤支部
山形地方裁判所鶴岡支部
山形地方裁判所酒田支部
盛岡地方裁判所一關支部
秋田地方裁判所大館支部
秋田地方裁判所横手支部
秋田地方裁判所大曲支部
青森地方裁判所弘前支部

（別表）

地方裁判所	支部	管轄區域
東京	八王子	八王子區裁判所管轄區域
浦和	熊谷	熊谷區裁判所管轄區域 秩父區裁判所管轄區域
千葉	木更津	木更津區裁判所管轄區域 北條區裁判所管轄區域
	八日市場	八日市場區裁判所管轄區域 佐原區裁判所管轄區域
水戸	土浦	土浦區裁判所管轄區域 龍ヶ崎區裁判所管轄區域 麻生區裁判所管轄區域
	下妻	下妻區裁判所管轄區域
宇都宮	栃木	栃木區裁判所管轄區域 足利區裁判所管轄區域
前橋	高崎	高崎區裁判所管轄區域 中之條區裁判所管轄區域 北甘樂區裁判所管轄區域
靜岡	沼津	沼津區裁判所管轄區域 吉原區裁判所管轄區域 下田區裁判所管轄區域
	濱松	濱松區裁判所管轄區域 掛川區裁判所管轄區域
長野	上田	上田區裁判所管轄區域 岩村田區裁判所管轄區域
	松本	松本區裁判所管轄區域 木曾區裁判所管轄區域 大町區裁判所管轄區域

青森地方裁判所八戸支部
札幌地方裁判所小樽支部
釧路地方裁判所網走支部

左ニ掲クル地方裁判所支部ハ民事第一審ノ事務及豫審事務ヲ取扱フ

靜岡地方裁判所沼津支部
京都地方裁判所舞鶴支部
神戸地方裁判所洲本支部
奈良地方裁判所五條支部
岐阜地方裁判所高山支部
松山地方裁判所大洲支部
釧路地方裁判所根室支部

前二項ニ掲クルモノヲ除クノ外地方裁判所支部ハ豫審事務ノミヲ取扱フ

地方裁判所支部ノ管轄區域別表ノ通定ム

本令ハ大正二年四月二十一日ヨリ之ヲ施行ス